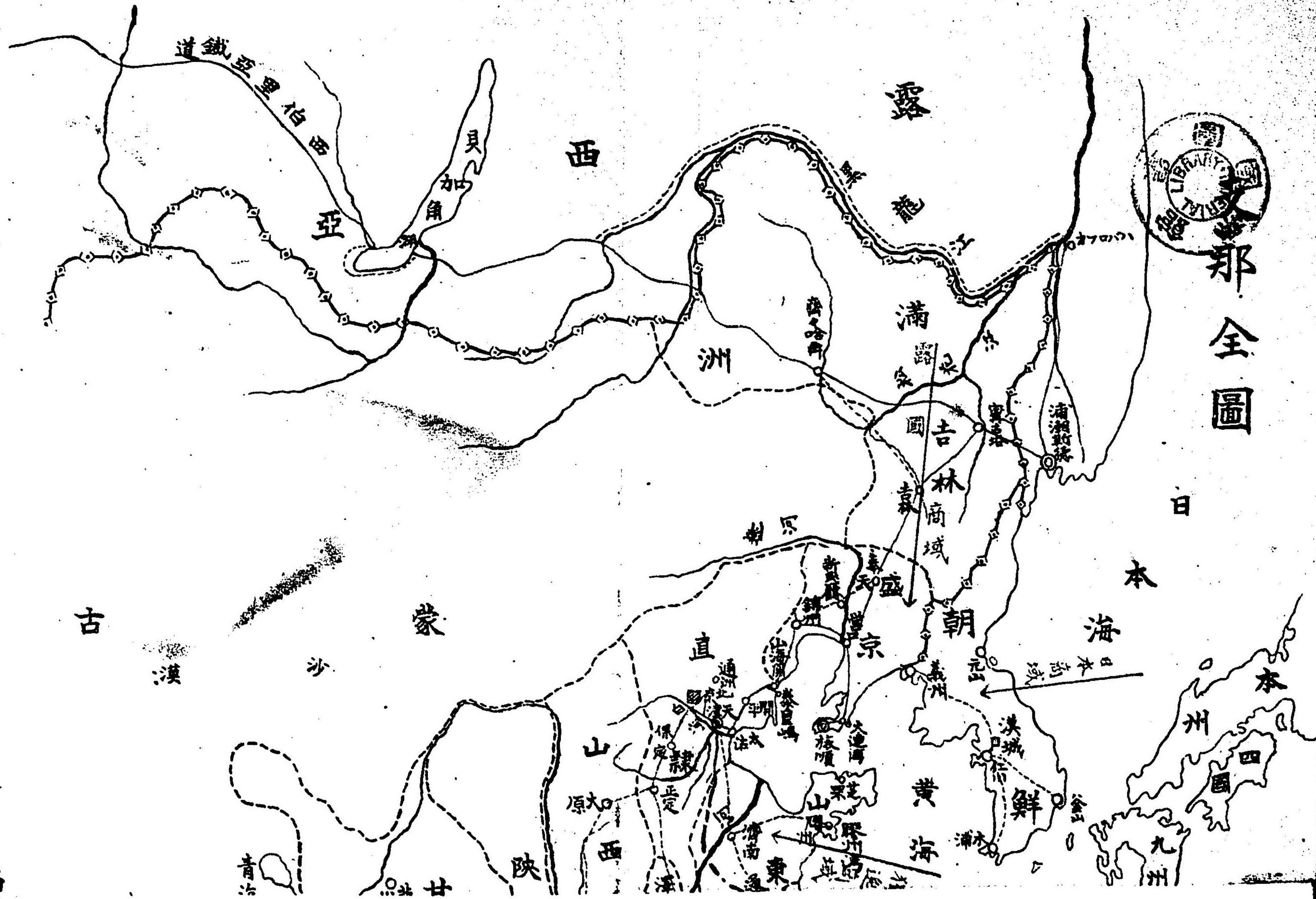


那全圖



古

漢

沙

蒙

山

原

直

東

京

朝

海

日

本

州

四

九

西

青

甘

陝

西

東

南

京

州

州

州

州

州

州

州

州

州

道鐵亞里伯西

亞

貝加爾

西

洲

露龍

滿

洲

國

朝

京

州

州

州

吉林

省

城

州

州

州

州

州

海

州

州

州

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

日本

州

州

州

州

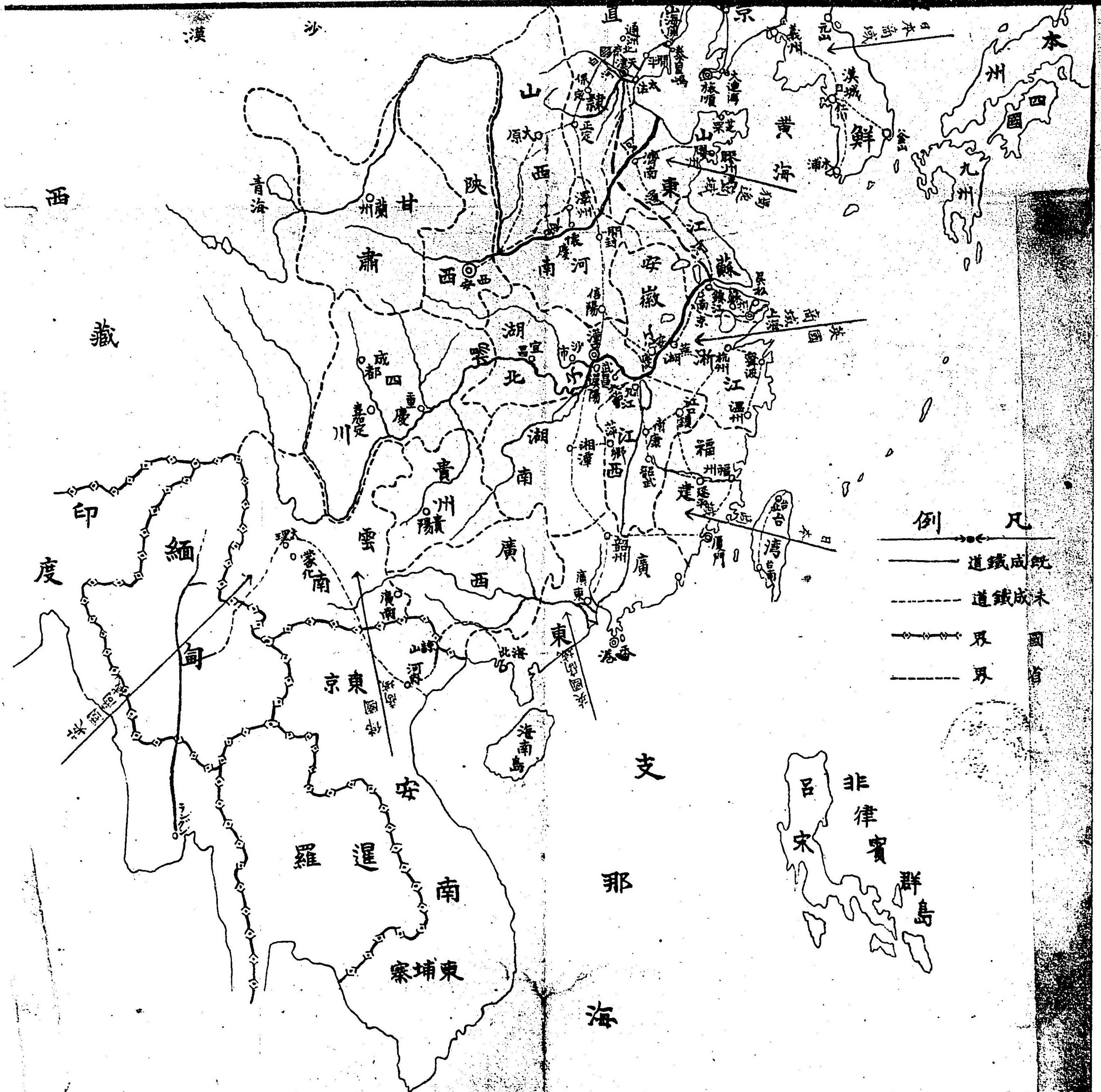
日本

州

州

州

州



92-163

序言

于時明治三十四年九月二十七日午後四時井上子爵吾が茅屋に來て清國漫遊の事と告げ  
 の如し聞く如斯平穩にして愉快なる航海は未だ嘗て非ざりしと實に然り子爵職て曰く吾常に神佛を  
 祈る故に神佛の吾等を加護すると如斯と衆聲に應じて然りと云ふ太浩若後即日鐵路天津に入り止ると  
 二日當時駐屯の吾軍隊慰問或は戦後市街の商況視察等の用務を果し十一日天津を發し鐵路北京に至り  
 吾が公使館内に假寓し代理公使日實氏の紹介に依て李伯に會見或は市内各方面の視察に日を費すと三

船は順路門司長崎釜山等の諸港に寄泊し仁川港に達す碇泊すると二日此間上陸京城に往復し京釜、京  
 仁、二鐵道工事及び王城市街の商況等を視察し再び船に乘し芝罘旅順の二港に寄り十月九日遂に太浩  
 若す此航海日數實に拾有貳日の長きに渉ると雖も海上一つの風波を起さず加ふるに天候快晴温暖春  
 の如し聞く如斯平穩にして愉快なる航海は未だ嘗て非ざりしと實に然り子爵職て曰く吾常に神佛を  
 祈る故に神佛の吾等を加護すると如斯と衆聲に應じて然りと云ふ太浩若後即日鐵路天津に入り止ると  
 二日當時駐屯の吾軍隊慰問或は戦後市街の商況視察等の用務を果し十一日天津を發し鐵路北京に至り  
 吾が公使館内に假寓し代理公使日實氏の紹介に依て李伯に會見或は市内各方面の視察に日を費すと三



日にして十四日再び天津に歸着此地駐在露將ヲガク氏に會見滿州橫斷の旅券を求め待つものと二日にして得ず遂に十七日先づ天津を發し鐵路山海關に向ふ途次唐山驛より下車有名なる開平石炭坑其他瀋陽製造工場セメント製造所等を視察する爲め全處に一泊し翌十八日全地を發し山海關に着ると全地吾軍駐屯の大隊司令部に便泊し十九日秦皇島に往復し該島の築港工事を視察す此夜天津三井物産會社支店員箕輪氏曩に露將ヲガク氏に請求したる旅券を齎らし來るに會す然れども其旅券用を爲さず依て更に當地大隊司令官の周旋に依り新し旅券を得て二十一日滿州鐵道又乘し營口に至り留ると二日二十三日遼河の左岸より東清鐵道線路に依て再び旅順に出で全處駐在のアレキシーフ中將其他鐵道技師長等を歴訪せ兼て大連灣工事視察の便宜を茲に用意し二十四日夜鐵路大連灣に出で翌二十五日終日新開市街工事をより船渠築港工事に至る迄一巡の末同日日没後小蒸氣船に搭し芝罘に渡り全地より於て膠州灣行の便船を待つと三日漸く二十九日芝罘を發し海路膠州灣に至り留るものと二日にして獨國の經營に係る新開市街築港工事及び氣港鐵道等の工事の概況を一覽し去て海路上海に向ふ天候快暖海上又平穩に十一月三日一大佳節なる天長節の日上海に着す滯上三日鐵路大臣盛宣懷氏を訪問し或は市内商況を視察すと雖も短日月の間能く其真相を知るの難きを以て先づ揚子江沿岸商工業視察を先にす依て十一月五日上海を發し江を溯る六百餘哩にして漢口に至り滯漢すると數日先づ芦漢鐵道工事の概況漢陽鐵廠工場の業務等視察し次に武昌の總督張之洞氏に會見す十三日此の方面の業務を果し江を下り石龍橋に至り全處より鐵路大冶山に至り鐵礦採掘の情況を視察し即日石龍橋に歸り全處より輕舟を乘し江を溯り黄石港に至り全處を於て大阪商船會社大貞丸に搭し再び上海に歸着す時に十一月十六日終り上海に留る數日此間全地名士紳商と會し時事を談するの傍大いに日清兩國間の商業の概況を偵察することを得たるを以て二十一日上海を辭し海路廈門を経て十一月二十七日台灣淡水港に着し即日鐵路台北に至り止ることを數日視察の業務を終り十二月一日基隆港より台南九に乗し歸朝の途に就けり十二月四日遂に門司に着す直に上陸し全處に一泊翌五日八幡製鐵所及黒崎中央セメント會社工場等を視察全夜馬關に於て汽車に乘し翌十二月六日大阪に歸着す此旅行日數七十日間又汽船汽車に乘したる哩數實に六千餘哩なり此旅行中多くは好天氣にして雨天に遭遇したる實に數日に過ぎざる等平穩快絶ある征旅にてありし以上巡歴したる各地に於て名士紳商と交り此の間高談奇説も不尠又各地特色の人情風俗或は工業の盛衰鐵道の情況等に至る迄目に視耳に聞きたる事項猶又昨年拳匪事件の實戰談より世界各強國か清國に對する目下の態度に至る迄苟も耳にしたる事細大漏らすことなく旅行發着の順序によつて逐次掲げんとす其視察事項の内要領を談ることあらんも保し難く夫は短日月の間に六千餘哩の長旅行の間一ヶ處に止る長きは數日短きは數時間到底精密の調査は人力以外の難事にして吾輩の企て及ばざる所幸に其談話を責むることあくんば幸甚々々

明治三十四年十二月某日

井 上 清 介 述 之

○九月二十八日晴天午前大阪を發し神戸に赴き全所に於て井上子爵と合し清國漫遊の途に上る此日粟屋者真内國村技師支那人外數名來て吾行を送る此夜月明波靜にして瀬戸内海の夜景快絶月を賞し時を暇にのんびりと云ふ(神門間海上約百五拾海哩あり)

○九月二十九日晴天午前九時四拾分門司に着す吾直ちに上陸九鐵社長仙石氏に子爵の傳言を傳ふる爲め氏を會社に訪ね氏に豐州鐵道合併懇和會の臨席し不在なり名刺を殘して去る子爵は上陸して馬關春帆樓にあり余も亦全處に至り子爵に會し共に樓を出て本船に歸る子時午後三時あり石炭貳百九拾噸餘の積入を終り午後四時拔錨長崎に向ふ此日或船員より昨二十八日夜半二等機關手海に投して死す死因狂狂よあると聞く(門長間海上約百九拾海哩なり)

○九月三十日晴天海上又平穩午前六時三十分長崎に着す子爵は三善造船所觀察として上陸吾も全時に上陸し市内一巡の末午後五時歸船子爵も已に歸て船中在り此日大阪商船の中橋氏并東條郵船支配人來て子爵を送る船は午後七時解纜釜山に向て發す此の釜山に至るの途大對州朝鮮間の狭き海峡を通す其兩地の最も近き處僅に貳拾五哩を過ぎすと云ふ實に一葦帶水の地豊臣氏をして征韓の雄圖の念を起さしめしも世偶然あらんや(長釜間海上約百六拾海哩)

○十月一日晴天午前十時四拾分釜山着直に上陸先づ郵船會社支店を訪問し後子爵と共に領事館を訪問し吾は釜山鑛道技師長笠井氏に子爵の來釜を通ずる爲め京釜鑛道事務所に至て氏に面す氏と相携て領

事館に歸り共に領事能勢氏より午餐の饗應を受く暫時にして辭て京釜事務所に至り全鐵道線路圖面を見る子時午後貳時本船出帆は五時にして猶貳時間を餘す依て笠井氏に導かれ市内を一巡す本邦人の建立に係る釜山神社あり社は山頂青松の間あり釜山港は實に此山下一望の下に有て風光最も佳絶の地也

○船ハ午後五時三十分仁川に向て發す(釜仁間海上約四百十四海哩也)

○釜山港昔征韓の役加藤清正の上陸地を以て歴史上有名なる地にして古來より通商貿易行はれ現今に至り其商域を擴張し人口五千有余の專管居留地を設け純然たる日本風の市街を構成す内に郵便電信局の設備あり又數多の商店銀行ありて是等商業も亦繁盛ありと云ふ其証として見るべきは數多の料理店の繁昌せると又此に供紅裙隊約貳小隊ありて中に西施楊妃の輩甚からせと云ふことなり此地貿易品の重なるものは米穀にして輸出米壹ヶ年四万石又此外元山木浦を台するときは實に拾万石の多きに及ぶと云ふ海外本邦人居留地にして政商兩つながら勢力あるは實に此地なりとす

○京釜鐵道の概況 本鐵道は釜山港現今の埠頭を距る東北數拾弓の沿岸に起り暫く海岸に沿ひ更に北向して丘岳稍々低き處を過ぎ洛東江沿岸の小村(金海)の對岸に出で江の左岸に沿ひ江を溯る數拾哩にして江を渡り西向して秋風嶺(征韓の役故戰場地也)の嶺を貫き忠清道に出で錦江漢口等の巨流を横切り遂に京城を距る約六哩漢口沿岸一帶の平地に於て京仁鐵道と合す此線路延長貳百七拾八哩餘にして其建設費壹哩平均八万五千餘圓其總額貳千五百万餘圓あり今全線の工事の難易を區別せば釜山方面

より秋風嶺に至る間を難工事と云ひ其秋風嶺を超て京城に至る間を平易なる工事と云ふ其最も難工事にして巨額の工費を要する所は洛東江の上流域の狭き江の兩岸断岸絶壁犬牙相錯るの邊山を穿ち岩を鑿り又谷を填む其秋風嶺を横断するや實に哩餘の隧道を要す此外層數多の小隧道あり又加ふるに洛東江橋梁工事の難ありと然れども此線路全軌に就き吾内地の難工事と稱するものと比較するときは難工事なる線路と云ふにあらざる事予平易の部分に屬すると云ふも敢て過言よあらざるあり其線路の洛東江に沿ひたる部分は夏期洪水汎濫の患ありて所要の築堤を高むると數尺或は拾數呎に及び築堤の多き切取に過る等多少工事上の難澁ありと雖も洛東江の舟運を利用して建築用材を輸送し得るの一事は半開國道路不完全の地に於て此利便を得るは實に此線路の建築上意外の僥倖ありとす此外特に記すべき利益あるは全線路中至る處に建築用の石材あると又煉化石を製するの粘土にも乏しからざる加之工事上最も大難事たる土地買収の容易ある則ち或場合に於ては壓制的に押收と之れ此國獨特の便宜にして隨て會社の利益も尠少ならず然れども茲に工事上最も不便ある一事あり其は建築用材の内最も必要ある材木供給の途困難是殆り元來朝鮮國は古來より山林乱伐の弊ありて鴨綠江の上流則ち清國吉林省に隣する地方を除きては國中多くは兀山にまて森林ある處を見ず故に鐵道枕木は勿論桁桁等に至る迄悉く吾内地の供給を受けざるべからず若し此國內よ於て強て採めんとせば勢ひ鴨綠江の上流深山無人の境に入て許多の金力と勞力を費し吾内地の價に數倍せる高價の物を得るに至るべし此外吾内地よ

りの供給を受く可べきもの數多あり就中セメント及建築用器具類は其の主要なる物ありとす以上記述したる事項多くは該鐵道の圖面を見或は鐵道關係者に就き聞取りし事實ありと雖も猶目下調査の結果最も確實ありとして笠井技師長より聞得たる工程の概略を述べんとす

本鐵道幅員は廣軌道四呎八吋半全線中の最急勾配は六十分一最少曲線半徑貳拾餘ありとす線路面最も高き處海上を抜く八百呎土工查哩平均五千餘坪則ち全線総坪百四拾万坪餘隧道總延長四万七百呎橋梁延長貳万五百呎最長の隧道長壹哩最大橋梁は漢口長貳千呎次に洛東江千四百呎錦江千貳百呎ありとす○工事着手の順序釜山京城兩方面より一時に起工し漸次相迫るにあり其釜山方面は釜山港により建築用材の供給をなし又は壹面は洛東江に依り小舟の舟運を利用し兩者相待て工事の速成を計るにあり又京城方面は仁川港に一旦陸揚けしたる用材を再び京仁鐵道に轉載し全方面に供給し共に目下盛に工事中あり釜山方面約拾哩間吾内地より鹿島大倉志貫れ諸氏出張此方面の工事を分擔し請負ふ京城方面は或意味により特に韓商に工事の受負を命じ約拾三哩間着手中此鐵道と京仁鐵道の合する邊に土工工事(京仁鐵道の改良工事も此の内に入り)に韓人數百人作業し築堤約半哩餘已し形を爲すを目撃したり此韓人受負に關し一種の風説あり曰く此受負は單に韓人と云ひ韓商と云へば更に不可思議なしと雖も其實韓人と云ふは韓國中央政府の官人然かも要路の大巨賈の俸給以外の内職にして其利益の配當の幾分は一國主權者内廷厨廳の内助とあるの一事に至つては呆然とるを得ざるなり此國在留の本邦人は此

の風説を事實ありとし取て怪まざるのみならず此輩が受賃より生ずる利益は勿論日下等労働者が夏時酷熱如灼冬時寒風凜烈肌を刺すの日に當て牛馬も雷あらざる勞役の報酬として得べき勞金を與へず妻子をして饑寒に泣かしめ己等の財産を富し暖衣飽食以て彼等可憐の小民を棄て顧されれば終に大争亂を醸し其の鐵道工事の大妨害たるは勿論にして事延て國際隣交の好みを破ること無きかと苦慮すと此の言の奇怪にして此國の情態を知らざる者之直ちに肯首すると能はざるも久しく此國に在住し國情を悉知する人は必ず思ひ當ることあらんと暫く記し置く而已

○韓人土工用具 韓人の體格長大強健にして本邦人に優る數等其背部の發育強固にして本邦人の脊を使用し人肩に依て物品を運轉送するを彼等は悉く人背に依て輸送す物品の重量は體格の強弱に依て多少輕重の差ありと雖ども概して本邦人の倍數に堪ゆるは慥かなる事實なり如斯背部を使用するを以て勢ひ用具も隨て本邦人の用ゆるものと異り鐵道工事に用ゆる土砂運搬具は畚の代用として割竹或は藤莖を以て製したる籠を用ゆ其容積小なる物二才大なる物三才の土石を入れるに足る此外木挽職の用ゆる鋸木工の用ゆる鉋等少しく其構造を異にし鋸は其幅至て狭く又厚さ薄くして一種の木枠の内に挿入し其屈伸を防ぎ其木枠の兩端に取柄ありて挽夫二人相向て業を爲す其形狀稍々西洋風にして支那鋸と全物なり鉋の形狀本邦製と大なる相異を見ずと雖其用法の支那及び西洋流にして本邦人は前に引き彼等は向ふに押す處全く用法を異にす

○(韓國の労働者)は概して懶怠なり數日労働し其の金を得るや幾日よても收入を以て衣食を支ふるの間は敢て勞役に出不ず戸内に於て數尺の煙管を擁し便器を傍に置き悠々自適少も貯金の要を知らざる處は寡慾か果た大國風の民か吾其適評よ苦しむ一たび食料欠乏を告ぐるや余儀窮く戸外の勞役に服す此勞役中と雖ども彼長煙管をして身邊を去らしめ如何に其貴重品視し居るや想像の限りにあらず白衣結髮長袴の役夫背部に籠を擔ひ緩行運歩の狀態奇觀云ふ可からず

○京釜鐵道總評本鐵道は歐米人が清韓二國內地に於て鐵道布設權を其政府より得たる銀を倣ひ吾日本帝國か外國に於て鐵道布設權を得たる實に唯一の快事ありとす本鐵道は資本金貳千五百万圓を有する株式組織の會社にして韓國政府は此の會社に對し年五朱の利息を保証す其株主の過半数否殆ど全部本邦人にして其線路全部工事成功期限は本邦經濟界の振不振一重大關係を有するを以て今日より豫定がたしと雖ども今日の經濟界に徴し打算するときは速成五年にして徐成猶三年の時日を要すべし今本鐵道成功期を五年或は六年と假定し一朝瀛車運轉を開始し其收益の有無を考ふるも今日に於ては豫定するに能はざるべし本鐵道は前述の如く敢て難工事ある線路と云ふにあらざれども其線路の洛東江に沿ひたる處夏期洪水汎溢の患ありて是等水害修築に要する修繕費又線路保修に要する技術者工夫等は暫く本邦人則ち比較的高給の者を使用し傍ら比較的廉給の韓人を使用する準備として彼等を教育せざる可からず又運輸汽車會計庶務等諸係の下給係員を得んと欲すれば暫く同一の職を履まざる可からず

る等諸種の費用を要すべし又一面旅客貨物の収益を考ふるに韓國は地球上屈指の貧國にして米穀人參の外著しき國産を見ず故に吾邦人は此鉄道を利用し有ゆる利源を開發し兩者の利益を考へざる可からず如斯して創業後拾年の星霜を経過せば政府の保金を併せ裕に年壹割の配金取て難事にあらざるべしと雖とも策茲に出す徒に韓人等が爲す自然的開發に一任し或は長く下給韓人の使用を放てせず高給の本邦人を使用し營業を爲すときは収支相償はざるのみならず韓政府が保證する五朱の利益も満足に配分すること能はざるに至るべし故に本鐵道當事者は大いに進取の策を取て事業上許す程度迄廉給の韓人を使用し鐵道の利益を計らざる可からず全時に本政府は勿論吾同胞は該鐵道を誘導保護して該國に於ける利源を啓發して吾國の得たる唯一の權利を全からしむべし

○十月二日・天氣朗晴氣候温暖にして海上又平穩也

○十月三日 朝來風少しくあり氣候又冷かなり此日午前五時四拾五分仁川に着す船は貨物積卸の爲め二日間滯泊すと云ふを以て京城觀察の爲め上陸せんと欲するに當て京仁鐵道監督足立氏小蒸瀛船を以て吾等の一行を出迎ふるに會す直ちに該船に轉乘仁川港頭より達す時恰も仁川第一列車の(午前七時あり)將に烟を揚げ發車せんとするに會ふ直ちに馳て該列車より搭し京城に向ふ扭隈外八ヶ處の停車場を経て八時四拾五分京城に達す直ちに腕車を馳てレイルウエーホテル(英人某の設立したる此地唯一の歐風旅館あり)に至り朝食を喫す此行足立監督杉支配人も共來て吾等を嚮導す食後再び腕車に乗

し王城に向ふ途次西大門を通く此門内は所謂京城内主要の市街にして數多の商家棟を並べ市人往來するを見る門より十數町にして光化門に至る此門外左右に官衙相對し一國を支配する中央政府在にあるを示す然れども其規模の矮小として莊嚴あらざる處恰も吾國信州善光寺仁王門外末寺の相並て本寺の餘威を茲に補示するに似たり光化門内は則ち王城の區域に屬す門を入れて數町として小門あり守衛數名門を守る吾等は門前に於て下車し兼て用意したる王城拜觀許可證を門衛に示し登名の巡査に導かれ門内に入る此則ち韓王の此地に於て政を専らにしたる靈王宮ありとす城内各所に樓門宮殿の兵燹に罹り僅に灰燼を残すを見る此實は金氏爭亂の古戰場地あり城の内廓に至て樓門宮殿の數多存するあり朴永孝在朝得意時代の設立に係る修政殿あり又慶會樓と名くる巨堂あり堂の周圍蓮池を以て繞し又四時の花卉草木甚あからす此れ韓王時に群臣百官を一室に集め共に遊樂する所あり此外崇陽門内に議政府あり又勳政殿に國王元旦拜賀の禮を受くる處ありて王の座一段高き石階の上にあり階下一面帶狀に花崗石を敷き拾歩に石標を建て位一品より六品に至る百官群臣の列座を示す次に思政殿千秋殿康寧殿交泰殿乾清宮協容堂集玉齋等の諸殿あり其思政千秋二殿は公殿に屬し康寧交泰二殿は王の東洋流の快樂を恣にする内殿に屬し協容集玉の二堂は公樂に供する會堂なり其乾清宮に至ては往年一大慘事を演じたる王妃殺害の場處なりとす風荒く夢穩かあるさるの夜壯士白刃を閃し墻壁を破り妃の便殿に迫り暴戾を逞したる跡猶歴然たり其當時の慘事を追想するとさへ血痕猶腥きの感あり其又交泰殿裏池邊草深



き處妃の首級に油火を点し一片の灰燼に終らしめたる極悪無道の所業を爲したる跡を見るに至ては暗  
瘡たる風雲今猶四邊を壓するの觀ありて吾人をして轉々悚然たらしむ

○宮城の總評此王宮は王妃事變前迄王の政を親らしたる處なりしも變後王は他に移り當時は軍に拾數  
名の守衛外官女の猶住するを見る宮殿樓閣の多は變後毫も修理を加へず徒に廢頽に委ねあるを以て壁  
落ち瓦碎け野草荒茫瓦石散乱たる邊一見化物屋敷の觀あり苟も一國王の宮殿として其規模の莊大をら  
ざる純築用材の劣等なる建築方の精巧あらざる吾内地神社佛閣の精巧なるの比にあらざる其大殿たる勤  
政殿の如き鳴鶴江産の松材を以て築造し其大屋を支ふる支柱の如きは塗るに紅灰を以てし僅に美觀を  
裝ふ他は推して知るを得べきあり

王妃の宮殿たりし乾清宮の如き恰も吾内地の藥師堂に髣髴たり其門を入て右に一棟の矮屋あり茲に官  
宦と稱する虛精男子數名今猶住す其貌柔和にして一見婦人の如し吾嘗て史上に於て此等不具者あるを  
知る今茲に野蠻の遺物たる異物を見るに至て豈慨嘆せざるを得んや嗚呼亡國民何う夫れ怯懦あるや城  
の一隅乾清宮に隣し歐風の家屋あり此他ならず遠國が政略上王妃の歡心を買はん爲め特に建築の上主  
に與へたるものにして實に此の一小家屋は一大爭亂を醸すべき一大動機を與へたるものなり

玉宮の拜觀を終り去て韓國第一の街路鐘路と名くる處に出づ路の一隅に智恩院大の巨鐘あり故に名け  
て鐘路と云ふ(此鐘は征韓の役加藤清正此鐘を本國に持歸らんと企たれども鐘の大きに愛國心に富た  
るや否知らざれども傲然として地を離れず遂に消正も棄ふ可からざるを知り放棄した

アと云ふ) 此鐘堂の傍ら三大市場ありて商民來て茲に魚類野菜獸皮雜貨等の露店を張り以て客を待つ  
口碑あり) 此近傍は蟬集する人民不埒可成繁昌の體を爲すと雖も放尿自在國の例として道路不潔惡臭を街さ  
吾人をして大いに不快を感せしむ又此の市場に接し一つの倉庫ありて安南米數万俵を貯ふ兵士數名銃  
劔を持し此の倉庫を守る實に此の倉庫は有名ある防禦令を布く一大原動力を有す吾其理由を知らざり  
しと雖も或人曰く此倉庫は政府の所有に屬し夫の防禦令を發せんと欲するに先て内地不作人民饑饉  
に苦むと云ふ口實の下に外國米を輸入し備荒貯蓄の用に供すと云ふ其一朝防禦令を發するや米價一時  
に暴騰す此時に當て政府は俄かに倉庫を開き嘗て貯藏したる低價の安南米を時價を以て賣出せものと  
す其差額より生ずる利金の實に數万兩の大きに及ぶ此利金の處分如何と云ふに一面は王宮内廷の資に  
供し又一面は大臣輩の囊中を肥やと云ふ夫の彼等一國の主權を左右する者猥りも國權を濫用し一攫  
萬金の快を貪るに至ては純然たる投機商と一般何う選ぶ所あらん嗚呼韓國の民夫何う卑屈にして如斯  
暴政に苦む久しきや鐘路を去て吾公使館に至る林公使鎮南浦方面巡視中不在の故を以て名刺を殘し更  
に領事館に至り領事萩原氏に面す吾公使館は王城を去る東南十數町の處地勢稍々高く水清く綠陰深き  
眺望佳絶ある地にありて館は實に井上伯爵駐韓時代設立に係る美麗の建築と然れども餘りに王城と  
離隔し又各國公使館と相距る遠きを以て宮中の事情に疎く又各公使間の交際又密あらざるを以て屢々  
外交上の機密を誤ると云ふ此の公使館は近き處吾軍隊駐屯營ありて將卒合て二大隊ありと云ふ

○王宮より公使館に至る途次吾居留地を過ぐ邦人數百名來て茲に住す家屋は國風ふして商家中多くの雜貨店を見る

○領事館を辭して南大門停車場に至り仁川行の列車を求む時少しく早く發車に猶貳時間を餘す依て此間近傍民家内部の構造を一見せんと欲し先づ足立氏を介して驛員(韓人某)に附る彼れは韓人の癖として人に家内を見らるゝことを大いに嫌忌する風習あるを以て其至難あるを説けり然れども吾等の奇好心勃々たり此韓人吾等の強請に敵せし出て他の韓人に計る幸ひあるか此時に當て驛の近傍にある踏切番人を職とする一韓人來て或る民家に吾等を導かんふとを乞ふ直ちに至て民家を見る此家は家計饒かからざるも亦貧困と云ふにあらず先づ中等に位せると云ふ家は鍵れ手形に造られ建坪約貳拾坪あり此を本屋と云ふ又別に約拾坪の物置ありて薪炭穀類を茲に貯ふ本屋納屋と連絡するに屋根を以てし則ち門あり又通路を兼用す本屋鍵手形の一方は厨に宛て又食堂に宛つ他の一面は三間に區劃し左右の兩間は夫妻の居間に宛て中央は則ち客を應接する處あり其婦人の部屋に就て云はん室の廣さ約貳疊半にして室の三方圍らすに衣裳箆筒を以てす(箆筒の形は吾等箆筒に似て)此圃の奇習として箆筒多きは富貴あるを示し少きは貧賤を代表すと云ふを以て其數約七八個あるを見たり家屋構造は本邦の家屋と相異り床下總て石垣を以て築き粘土を以て之を塗り此の上は床を搦ふ故に冬期防寒の用は實ま此床下ありとす其日々炊事に用ゆる火烟の悉く床下に通せしめ煙筒に依て餘烟を屋外に漏す故に烟は

常に床下の粘土を熱するを以て餘暖床上に及ぶ彼等は床上に油團を敷き又其上に夜具を載せ以て寒夜暖を取ると云ふ此れを稱して(をんどろ)と名く邦人一たび(をんどろ)に眠むるときは其快又忘る可からずと茲に思むべき一事あり其は彼等の家に便所の設備なく常に家内に便器を備へ用に隨て隨時之を用ゆ其汚物の器より溢出せんとするや木竹を以て製したる筒管に依て屋外に流出せしむ故に道路は是等不潔物を以て埋め細心注意して歩行するにあらずれば汚物踏乱の難は免れ難しとす茲に最も注意すべき一事は大路より分岐したる最狹路を通行する時にあたりて若し放心不注意に濶歩せば彼の家内に於て放棄したる汚水は用捨なく筒口より奔出して腰部に注射し不意の損害を蒙るべし  
上記民家一見の後何人の發言あるやを知らずと雖も然も白晝に於て白鬼の巢窟探見を試んと云ものあり奇好心に駭られたる吾等何う之を否まん直ちに應諾案内者に導かれ行くこと數町にして道狹く稍々人家の稠密ある處を右轉左折して白鬼巢窟と覺しき處に至り左右の人に其何の邊にあるを問ふ一人指し示して曰く門あるの家則ち然りと仰き見るに高門一つの通額を掲ぐ其風流窺ふべし門に入れば内園ありて草花其妍を競ひ吾等を歓迎するに似たり可憐此家白鬼の巢窟あらんとは眼を轉して家中に注げば壁間に樂器を掛け又爐に名香の薫るありと雖も吾等が切に見んと欲する白鬼の已に術を得て疾く人臭を鼻にし遠雲間に去て形を留す吾人の遺憾又甚からずや家を去るに隨て壹人の遊郎爐邊に横り長管を擡して喫烟するを見たり此遊郎朝來の分袖を惜み流連白鬼の掌裡に翻弄せらるるあり嗚呼可恐々々

飲酒の人物のいたるるの  
一五

○此探見を終り南大門に歸る時恰も仁川行の列車發せんとするに會す直ちに列車に搭して仁川に向ふ  
 ○京城市街の情況城は東西南北に四大門ありて門内を京城市街とす市街道路の幅員比較的廣くして車馬を通ずるに便利なるは清國內地道路狹隘にして車馬を通し難きに比し優ること數等なりと雖も家屋の矮小にして店頭結構拙陋賣品の算なく乱列しあること又店頭に於て主客相對し長管より烟を吹かし高聲雜談悠々然たる態は朝鮮帝都の市街として見る可からざるなり然れども市内許多の轉賣店(賣屋)の多きは聊其帝都の市街たるを表するに足る要するに商業は世界的にあらせして箱庭的にして此等に向て是非の論評を試むるは兒戯に類するなり

一度王城を出て少しく僻村に至れば人家の構造大いに拙陋にして一見窟の如く此れを遠くより望むとき其低き土屋根は地平線内に没し其人家たるを識別するに難しとす

○土人の風俗 男子の風俗は已に世人の知る如く長衣結髮にして頭に毛編の帽を戴き敢て奇とするに足らざれども土人一般に雨を恐るの甚しきに至ては怪しまざるを得最も彼等は日本傘の如き或は洋傘の類を用ひと雨降る時は約徑一尺を有する圓形の油紙を薄き細き竹骨を以て造れる傘類似の物を帽の上より覆ふ故に一朝疾風大雨に逢ふときは毫も其用を爲さず此れ雨を恐る、一因又下等社會の衣服多くは糊付にして雨に潤ふときは直ちに剝落し衣服の用を爲さざるに至る此れ貳因なり

○婦人の風俗と高尚優美にして恐くは世界第一をらん其衣服全跡より云ふときは、コウセツトをき歐

風にして其上衣を頭に被ふる處は吾國古代の風に相似たり下等社會の婦人は日常の職業多くは洗濯あり夫は此の國人清潔なる衣服を着ざるを好むを以て一家の内男子多して婦人の少き家は此婦人殆ど壹ケ年間洗濯の外又他お用をなさざるに至ると云ふ其美風大いに嘉みすべし

○韓王奇も一國の帝王と云へば威嚴侵す可からざるが如く何人も想像すべし然れども事實は大いに之れに反せり王貴顯の身にありながら能く下情に通し時に滑稽口を衝て出することあり又洒落にして能く仁の意を迎る處其幫間的の舉動吾新橋の猫入も又三舍を避くと云ふ其貪慾飽くことあきに至ては吾横濱の平沼も又一步を譲る可し一國の主權を濫用して一攫萬金の快を恣にするも又隣交國の紳商王も謁見を奏請する時は其延見するに先て袴かに臣下をして其音物の多少を探り以て其待遇を輕重する等逐一歴記し來るときい人をして嫌惡の念を起さしむ可きを以て茲に或在館領事の一人より親しく耳にしたる一事を記し筆を擱かんとす

○領事某其夫人と共に王に謁見を領事は此國に在留する多年又王に謁するよと屢々ありと雖も夫人は僅に貳回其第貳回謁見のときに夫人の未だ口を開かさるに先て王は追從輕薄の口調を以て曰朕前年夫人を見たるるとき婦人の身にして能く吾國の如き不便の地に來るを嘉ふ今又夫人を見るに婦人は爾來二人の兒女を擧ぐるを聞かざるに其容色は秀麗ある羨むに堪たり云々夫人は王の快辨に驚き其答辭に究せりと云ふ宜べなり此一事を以て王の性行を知る難からざるあり

○事大主義 此の主義は韓朝唯一の國是にして其何れの國を問はず唯強大富有の國に仕へ其恩惠に浴せんとするにあり

○韓國目下の地位勢ひ此の政策に出ざる可からず其小弱國にして能く世界列強の間に介し一國の跡面を維持せらるも實に此の政策にあり過る二十七年事變前迄は老大國たる清國に仕へ嘗て朝貢の禮を欠かず其屬國視せらるゝも敢て抵抗の態度を現はさず却て其屬國たるを甘し利へ常々清國の鼻息を窺ひ其歡心を失はざらん事に汲々たりしは他なし清の老雄李伯の有るあつて伯の機眼能く韓國の状態を洞察し彼の朝貢を齎らそに當ては此れに酬ゆるに巨万の財寶を與へ又兼て韓朝在廷に大臣輩に恩金を與へ置きたる等一面清國の強威を示し又一面は巨財を散して恩惠を示す等其恩威兩つをから機に當て彼等をして必服國を捧けて清國に服従せしめたる李伯の慧眼老獯豈恐る可けんや

吾聞く韓人は今日猶亡國に類する清國を稱揚して止まずと實に然り其昔彼等の清國に朝貢する僅かに人參數斤絹繻數段の國産を捧獻するに過ぎずと雖も實使は實に數拾人の多きに及ぶ其朝貢の禮を終り其北京を辭するに當て清國皇帝陛下は韓王に贈るに黄金貳拾万枚を以てし又使者に與ふるに參万銀を以てすと云ふ故に此の朝貢の議一たび起るや韓廷百官の此使節の任に當らん事を望み其競争劇烈に及んでは朋黨相結ひ互に其私惡を摘發して相罵り或は賄賂に依て使節に立たんと欲する者ありて其混亂名狀す可からずと云ふ宜あり彼等の使節に立たんか國に在て薄給貧困に苦むと雖も一度北京に至て

彼の參万銀を得るときは万銀の配分を受け少きも猶數百銀を受くと云ふ其北京滞在中と雖も特に設備したる使節館に伏臥し美酒佳羹に飽き歡待至らざること無きに於てをや

二十七年戦後は清國の恃む可からざるを知り事大主義の轉して我帝國に向へり然れども我帝國は清國が嘗て施したる恩惠政略に依らず單純無味の眞面目の政策を取り剩へ僅かの貸金も期限に至れば督促至らざること無きに至て漸く嫌惡の念を生ずると全時に我國に仕ふるも寸毛の利無きを知るや事大主義は魯國に向て發揮せり魯國は清國と全一の政策ふよりて先づ國王を籠落し延て朝廷の有力者を買収し殆ど自家籠中のもれとせり時に昨年拳匪事變起るに及て我が國軍の雄猛にして列強軍の上にあるを知るや漸く魯國の恃む可からず又恐る可きを知るや事大主義は再び我國に傾かんとせり然れども我が國の政策は依然として空拳主義あるを以て今や將に魯國或は佛國に赴かんとす嗚呼亡國は民何う夫れ禦し難きや

○仁川着監督足立氏に導かれ仁川停車場内各工場を一覽す夜に入て此地在住本邦人の内重なる紳商述と又京仁鐵道會社員との發起に係る懇和會に臨場す此會は我等一行の爲め特に前記諸氏が當地一流の料理店入匠亭と稱する海に面し眺望佳ある家に於て開かれたり會に列せらるもの參拾余名ありて紅裙隊拾名來て杯盤を周旋す宴酣にして談笑四起に起る就中紅裙の内各方面より來て東音西訛又九辨喋々喃喃する當夜中の奇觀ありし歡極て將に退場せんとするに當て雷鳴空に轟き驟雨一時に來る此れ實に神

戸出發以來の雨なりし會を辭し足立氏方に至り一泊す

○京仁鉄道概況 本鐵道は始め米人モリス氏に依て布設權を韓政府より得後澁澤氏の盡力により該權利をモリス氏より四拾余万圓にて買取り我國人の手に依て工事を完結し其運輸の業を開始したるものあり故に此線路の測量設計等は始め米人の手に成れり此線路の工事に敢て大いなる障害物なきにも關せず其線路の迂曲甚しきは此國開闢以來始ての文明的事業あるを以て異端百説人民の故障からせ故に此等人民の敵愾心を柔く爲り若し鐵道線路の彼等最も尊敬貴重する墓地内に入る時は務めて此地を避るため特に線路を迂回せりと云ふ何人も此線路を通過するもの此の技術上無用の曲線多きに驚かざるものすくなし

本鐵道の總工費は百八拾万圓にして其重なる工事は漢口本橋梁長貳千呎（フラットトラス長貳百呎拾箇を架す）又洪水避溢橋長六百七拾呎の假橋工事（箱桁長六拾呎拾壹箇を架す）にして其他は極めて平易なる土工事ありとす

○京城仁川間線路延長貳拾六哩七鎮にして軌道幅員四呎八吋半の廣軌道にして其汽車客貨車「ボイーン」及び「クロシニング」等に至る迄重に米國風を採用す技師技手及び書記等主要の者は悉く本邦人ありと雖ども下給の工夫の如き又各驛出札改札及び驛夫等に至ては其十中の八九は韓人を使用せり韓人は總て外國語を習得する事極めて迅速にして上記工夫驛夫の類能く吾國語に通し作業上々役の指揮に依

て進退服務する狀況將來大いに望みあるに似たり故に此線路の營業費は比較的僅少にして一日平均一哩に付貳拾參圓の收入あり諸改良工事費及び營業費を收入金より控除し猶五朱の配利の餘裕あるは大いに足立氏れ功と云はざるべからず

○京仁間列車は兩處より相發し一日六回の運轉をす一等一圓五十錢二等八十錢三等四十錢の賃金を請求す

○客貨車は米國「ウイニントン」造車會社製のものを使用し其車體重量各々約貳拾貳噸なりとす

○流籠車は米國「ポーンイン」製並に英國「メナス」製の貳種ありて最重のもの五拾四噸ありと云ふ

○仁川港此地は各國人來て住すと雖も内日本人を最多數とし約三千人ありと云ふ居留地に商家を構へ商業を營むもの又漁夫ありて皆商業盛なりと云ふ此地銀行の重なるもの第一銀行支店にして他に二三の小銀行の支店あり以上商家の内造酒家最も利潤多しと云ふ他にあらず無税によると云ふ此地商界に最も勢力あるは獨逸人に在りて彼等は開港の當時多くの借地權を得置きたるを以て日本人の多數は此地内に高額の地税を拂ふて茲に住すと云ふ獨逸人の商機に敏あるを感服すると同時に吾國人の商機に迂なるを嘆ず可し是れ果て誰か罪なるや知らずと雖ども恐くは吾外交家の失策又免る可からざるなり

○十月四日 朝來雨晴れたりと雖も氣候稍々冷なり此日足立氏方を辭し足立氏外拾數名の見送人と共

に本船に歸る時に午前十時半あり

船は 十二時三十分解纜芝罘に向て發す(仁芝間海上約貳百八拾海哩也)

○十月五日晴天海上又平穩なり船は午後零時三十分芝罘烟台に着す直に上陸す當地在梶原洋行々主も亦吾等と全船の故を以て相共に親しくす氏の懇請に依て洋行を訪問するの約をなせ先づ吾領事館を訪問し領事代理高橋書記生に面會す館を辭して後梶原洋行を訪問す全行員某の嚮導に依て市街を一巡す途次當地道台の設立したる學校に至り漢英數の諸學科を十歳より十四五歳は兒童に教授するを見る其文明的教育程度の低き實に驚くべし巡視を終て再び梶原洋行に至り晚餐の饗應を受く留る少時辭して本船に歸る

○芝罘烟台人口十方を有す開港地の一に去て山東省より隊伍をなして魯領に出稼する人夫の輸出港あり物産としては絹綢果物山東菜等重なるものにして近來魯國の經營に係る旅順及び大連の工事盛なるを以て其餘響を蒙り旅人の來往頻繁にして市内商業大いに繁昌なり冬期に至ては太沽港氷結するを以て百貨此地に湊り一層の繁盛を極むと云ふ此地内地人の來て住するもの六百人の多きに及ふと云ふ又芝罘同志會ある俱樂部ありて邦人相集り共に時事を談するに供す船は此夜十一時芝罘を發し旅順に向ふ(芝旅間海上七十海哩也)

○十月六日 天氣朗晴氣候又溫暖なり船は午前六時三十分旅順に着す同船の古賀商店々主共に上陸先づ古賀商店旅順支店に至り晝餐の饗應を受け後市街を巡見す途次三井物産支店に至り店長藤木氏に面す全店員中中澤氏と共に當時魯國の管理に歸する鎮守府を見る府内兵營船渠の設備ありと雖も其規模の狭小ある曩に清國政府が數百萬の資を投し東洋第一と誇稱したるを耳にしたる我夢想は實に此時に至て醒めたるも全時に如何に彼等當局者が自家の囊中を肥したるを知るべきあり其船渠の小よして數千噸の船艦を入るに足らざること又港口の狭小にして一たび敵の來て米軍が「マヨラ」港に於て爲したると全一の手段を以て港口は巨艦を横ふるときは港内の船艦は一つも港外に出すること能はざるあり此港口を内に入る半哩にして港の西邊山角の海に突出したる處に水雷艇三艘築造しつゝあるを見る内二艘は已に内部の工を終り殘一艘は猶船艙の内にあつて工事中の如し港内西北に當て東清鐵道の停車場ありて一面は海に沿ひ又一面山を背ふ此停車場は海中を埋立たるものにして其規模又大ならず停車場を距る拾數町西南に當て山勢稍々緩よして起伏少き處を選み此れを新街地に宛つ其區域廣大よきて裕に數十方の人口を入るに足る魯國の己に此の新市街に通する道路を築造え又公館旅館等の建築よ着手し其工を終り人の入て住するもの己に拾數軒あるを見たり何人と雖も旅順に來て住居せんと欲するものい必ず土地を購はざる可からず聞く土地壹坪の價高きは參拾餘圓なりと云ふ故に無資力なる吾邦人は勢ひ魯人の建築したる價の高き借家に住まざるを得ず吾切に望む吾邦人の有力者來て吾無資力なる同胞を救れんとを

今魯國が此地に於て將來爲さんと欲する計劃を聞くに港の東北にある舊市街地は全然軍用に供し以て兵營其他兵器場を設立すると全時に舊鎮守府の規模を擴張し戦艦の修理の如き万一に備へんと欲するが如し故に今日何人とも雖ども舊市街地を於て新に家屋を建築する事を許さるのみならず風雨に依て破壊したるヶ處と雖も容易に修理を許さる等其計劃動かす可からざるが如し故に前記の新市街完成の曉に舊市街に住するもの悉く新市街地に移住せざる可からざる此新市街完成すると全時より商船は悉く此市街に近き處に碇泊せざるべからず此港は港口の狭に似ず港内の西部極めて廣く數千の汽船を入るに足ると雖も港内極めて浅く又潮流極めて迅速あるを以て此等船舶の出入甚危険あり故に此等の危険を避くる爲め港口の西方山稍々低き處を掘削又港内を浚深し以て商船の出入を便にすと今や此の計劃の事實に表れ着々歩を進め目下二艘の浚疏船を以て盛に作業するを見たり此れを要言するに現今の港口より東部は専ら軍港に供し又新開港口より西部を自由港に供すると云此等の計劃に投する資金の豫額を聞かせずと雖も己に壹千万圓を費したりと云ふ知らず何れの處に費したるや

此地に留本邦人實に四百名の多きに達せりと云ふ然れども其過半数は女壯士又此等を利用して衣食するものにして眞面目の商人としては三井物産支店古賀商店梶原洋行島内商會等重なるものにして其餘は支那人の金を借り月壹割の利息を拂ひ僅に商戸を張るもの多きと云ふに至ては豈慨嘆せざるを得んや

○十月七日又晴天船は未だ積荷を終らず急に出帆の状況を見ざるを以て再び上陸して三井物産支店に至る時に偶々藤田四郎野田宇太郎二氏外二名の此家に来り在るに會す聞く氏等此地より滿州を横断して北京に出るに在りと

船は漸く積荷を終り午後六時の滿潮を待つて出帆の準備整ふ時に當て東清鐵道に属する汽船某號長崎より向て出發するに遭ふ港内狹隘の故を以て一時に貳艘の船をして出帆せしむること能はず依て某號先づ發せんと去其錨を引揚ぐるに當て錨の鏈鎖は傍に碇泊する小蒸氣船の鏈鎖と相結て離れず此れが取除きに時を費し漸く某號の出發したる時は己に退潮に際し吾船は錨を揚ぐる事能はず若し退潮に逆て錨を引揚んと欲すれば船は勢ひ退潮に伴ふて回轉すべし若し回轉するとせば二千九百餘噸の大船なれば傍に碇泊する他船に衝突すべし吾が慎重なる船長は如斯危険を敢せず旅客の物議を排して出帆を翌朝の滿潮迄延期せり

○十月八日 天候快晴船は午前五時旅順を後にして太沽に向ふ此日海上又風波も穏なり(旅大間海上百八十海哩也)

○十月九日 天候前日に同去船は午前八時太沽を去る數哩の外に着投錨す待つこと時余一小汽船の吾船に向て來るを見る此は吾等と全船したる佛國大尉某(太沽民政廳々長なりと云ふ)を迎ふるなり井上子爵は此船に便乗して先づ太沽に至る吾は待つこと猶二時餘にして「ライター」會社の短艇來て吾等を

迎ふ午後三時大沽に着手軍隊通信部より來れる出張官の取調を受け事なく上陸して先づ郵船會社に至りて天津行の流車乗車切符を購ふ疊に上陸したる井上子爵は吾軍隊の慰問を果して停車場に來るに會す相伴ひ流車に搭して(午後四時發)天津に向ふ(太沽天津間鐵路貳拾七哩也)

午後六時天津に着す先づ停車場内吾軍隊通信部に至りて山根少將の所在地を問ふ一武官出て來て吾等をきて少將の在駐する軍隊司令部に導く偶々此夜秋山司令官の歸朝娯道の宴あるに會す井上子爵は山根少將と共に此宴に臨まれ後此地第一流の洋旅館「アストルハウス」に投宿せられたり吾は軍司令部附屬の兵舎に便泊す吾空腹に堪へざるを以て食を乞ふ則ち與ふるに麥酒一瓶に添ゆるに麵包又牛蒡の羹を以てす食を終て兵營用の寢床に眠る竊かに思ふ其洋酒麵包は特に吾を賓として賜ふ處其牛蒡の羹の如きい實に兵士の常食なり嗚呼兵士の外に在りて彈丸硝煙の間に貴重の性命を賭し内に在りて如斯粗食に甘す聞く吾兵士の一ヶ月僅かに壹圓八拾錢の給養金を得て漸く勞を養ふと云ふ其天津に在る間は各列強の兵士と交際せざるを得ず此の時に當りて彼の圓餘の金は實に壹圓の半に價せざるのみならず又僅に喫煙の資に供するにも足らざるなり然るに列強の兵は其給養富裕にして就中米兵の如きい屢々「アストルハウス」に至りて宴を張り牛飲馬食すると云ふ其英の印度兵すら猶一ヶ月八弗の給養を受くと云ふ何ぞ夫れ吾兵の給養寡なるや思ふに吾兵の如きい恐らく「アストルハウス」の如き貴族的奢侈の茶すらも味のざるべし一兵士吾に語て曰く吾等市街を散歩するとき當りて屢々列強兵に會し彼等より相共に飲まんことを勸む如何せん吾等が囊中の常々冷かなるを以て常に彼等の好意に向て謝絶の苦言に迷ふと心なき列強兵の吾兵士の温順にして錢なきを賤んで屢々無禮を吾兵士に加ふと談終て兵士嘆して曰く吾輩何ぞ其給養の寡きを恨みん唯恨らくは吾等が血を注ぎ得たる地なり又權利あるを列強に蹂躪せられ或は平和の商戦に吾國人の敗戦することあるに至りて吾輩の悲憤又思ふ可きにあらすやと實に然り吾國人の妾を善へ暖衣飽食の徒之を聞て愧死すべけんや

○太沽砲臺此の砲臺は白河々口にありて北京城をして安泰ならしむ此國唯一の重鎮ありとす一見するに臺の外圍の數尺の土壘に過すして吾輩の如き軍事思想なき者の眼より見るときは其何れの点か強固あるやを知らずと雖も白河々口を距る數哩間は海淺く巨艦を入るゝに足らず故に一朝有事のときに當りて敵の巨艦巨砲を以て砲撃すること能はざると又冬期氷結の爲め敵の近くこと能はざるの貳因の儘かに此の強所なるが如し假令は昨年事變の際吾島海の如き赤城の如き千噸未満の小艦を以て砲撃したる如きは其一例なり今若し雄悍死を恐れざる兵と精製の巨砲とを以て此の臺を守るときい容易に臺を陥ること難きと云ふ昨年吾服部中佐の死と交換したる砲臺壘頭に日章の旗を見るに至りては壯心躍々たるを得らばんや

○太沽 太沽市街は白河々邊砲臺を距る哩餘の上にありて白河咽喉を扼する地のあり此地より一は白河に依りて天津に至るを得又一面は鐵路に依りて天津北京に至るを得又唐山山海關に至るを得る軍事上又



商業上兩つながら樞要の地なりとす目下各列強は兵舎を建て多くの兵を養ひ以て万一に備ふと云ふ

○太沽停車場 其規模稍大にして構内より列強の委員を派し軍事占領中の鐵道事務を處理せる鐵道管理部あり又各軍の司令本部あり又通信部民政廳あり其民政廳は各國委員を派し政事を掌る處にして佛軍大尉某此れが長たり

○天津は清國三十三開港場中第一位の貿易開港場にして白河を溯る參拾哩の上において人口約八十万を有する大市あり數年前迄は千噸有餘の汽船此地に來往したりと雖も現今は白河や口埋没して如斯大船を通ずる能はず

天津市街の東白河の左岸數町を距る處に天津停車場あり構内に又吾軍の通信部あり鐵道管理部ありて又各國の兵も來て茲に屯す場を出て暫く南向して白河に架する佛橋に出づれば茲に露國の豫定居留地と稱する一帯の空地鐵道線路と白河の間に横るを見る橋を渡りて左折南向して佛祖界あり吾軍隊司令本部は實に英祖界内(ピクトリヤロード)に在り英祖界を過ぎ猶南向して獨祖界に出づ此の獨祖界より武備學堂に至る架橋あり此れを名づけて露橋と云ふ其露の居留地に至る道路なるを以てあり獨祖界内西南の門を過ぎ西向して天津競馬場に至るの道あり以上四大強國の祖界と稱する居留地は其區劃甚擴大にして天津市街の過半を占む

前記佛橋を渡り右折北向して佛祖界を通じ約十町にして居專管居留地に出づ吾居留地は稍々天津の中

央に位し天津固有の市街に隣す吾居留地の對岸則ち白河の左岸一帯の地に鹽山あり鹽山と稱するは則ち食糧を俵に入れ地上に堆積一見小山に似たるに依る此鹽山は昨年事變の際拳匪の據て城壘とあし猛烈なる抵抗を吾軍に與へたる古戰場地なりとす其居留地内白河に沿ひたる道路を山口町と云ひ又居留地を貫き西機器局に至る道路を福島町と稱す共に山口福島二將軍の名譽を茲に止むるにあり此福島町と天津固有の市街との間一而空漠たる荒地ありて常に雨水此内に湛ふを見る是れ則ち吾豫定居留地と稱する戰勝の餘惠なりと然れども其餘りに廣大にして湛水低地の處は多額の資を投し土工を加へ填地せざれば到底人の居住地に不適せざるべし

吾居留地の北方海關道より東門外に至る間を城外固有の市街とす商家軒を並べ商業又盛なり東門を入て道臺衙門あり此の處は吾軍の占領地に屬し此より西の方北倉に至る大路あり路傍一面は則ち天津城壁にして拳匪の據て列國軍を腦したる處なりしと雖も今も悉く破壊し平坦の道路と化し去り一つも其痕跡を止めず

此の固有市街の對岸則ち河を渡りて水師營あり又都統衙門と稱する民政廳ありて各國委員を派し此の地の政事を議する處なり委員長は吾山根少將にして平常の事務は原田中佐此れに當ると云ふ原田中佐に聞く曰此國に厘金と稱する商品に科する苛税ありて天津に於て徵集する此税金のみにして其高巨額に上り一々年市の公共事業に費す金額を該高より控除するも猶三十万圓を餘すと云ふ如何に清官の自家

囊中を肥したる此の一事を以て知るに餘りありとす

此外原田中佐執政中に於て風俗の改良を爲したることあり其は李伯すら社會の攻撃を恐れ断行し能はざりし男子にして藝妓に類する職業をなす者あり此男藝者は則ち吾國に於て稱する所謂陰間にして風俗壞亂の甚しき者と云ふ此等怪物は嚴禁の令出すると全時に北京に引揚同地に於て盛に業を営むと云ふ何れも十四五歳の美少年にして卑屈男子の表本なりと云ふ

西機器局は清國政府の兵器を製造する處にして昨年事變激戦の衝路に當りしを以て彈丸屋根を貫き或は拳匪の自ら破壊し再ひ用を爲さざるを以て今回吾軍の有に歸し舊場を去除き更に新營を此地に建築し以て吾軍隊の兵舎に宛て長く吾居留民の保護に當つると云ふ

○吾專管居留地は其廣きこと列國に冠たりと雖も其支那屋に住し不潔なる道路に甘し粗衣粗食無資力なる人員耳千餘名もありと云に至りては其英佛の租界に比し劣ること宵壤も曾ならざるなり

十月十日天津滯在天氣晴れたりと雖も風稍々強く道路の塵埃を飛し市内散策大いに困難を極めたり此日終日市街を巡視す視察中の記事前に述べたるを以て茲に略す但し井上子爵の領事館郵便電信局を歴訪せ又山根少將と共に停車場に至り秋山大佐の歸朝を送り後馬を馳て市街を巡見したりと聞く

十一月十一日 晴天此日山根少將より特に吾等の嚮導者として鐵道大隊管理都付武官山越大尉として吾等と同行せしむ午前九時天津發の列車に搭じ北京に向ふ北倉楊村、落堡、郎房、安定店儀家居、臺台

等諸停車場を過ぎ午後一時四十分北京城内門外停車場に着す吾公使館員の出迎るに會す相共に徒歩して吾公使館に入り代理公使日置書記官の邸に泊す

天津北京間の各停車場は悉く昨年事變の古戰場地にして内最も激戦の地は天津楊村郎房の三ヶ所とす其天津停車場の如きは吾軍の死守したる處に於て將校七名の戦死を出したる等其激戦察すべきあり其場内荷物庫の如き賊の據て以て激烈なる抵抗をなしたる當時の彈痕該亞鉛屋根に印したる其數幾万を知らざるなり次に楊村の如きは殆ど拳匪の巢窟と云ふも不可あきなり拳匪の未だ勢を逞せざる以前に於て天津に駐屯したる清將聶子成の如き兵四營を率ひ楊村停車場の北哩餘にして一つの川あり川の兩岸に築堤ありて此處に來て大砲を北に向け賊の天津に向て來襲を防げりと雖も西太后の内命に依て俄うに砲門を南に轉じ賊と合し連合軍に向へりと云ふ其事變の始に當て英將シーモール氏が水兵を携て鐵路北京に進入せんと企しとき此川を超て數哩間は拳匪鐵道に害を及ぼさず汽罐車を通ずる事を得たりと云ふ實に此時は聶子成が未だ順逆を誤らず賊に向て砲撃しつゝありし時よして英將シーモール氏が汽罐車を馳て此地に達せんとせしときは聶氏は唯傍觀の位置に立ち敢て英將に連合を申込まざりしと實に此地賊の妨害を蒙らざりしは聶氏の力に依ると云ふ是れ偶然の幸あり

次に郎房附近の鐵道は被害最も大なりと云ふ戦後此鐵道を修理する時に當て各軍其分擔を定め一時も工事に着手したりと云ふ吾軍の分擔區域は實に郎房以北にして其被害の最も大なるに關せず其速かに

工事を竣工せしめたるは吾軍を第一とし獨軍の如きは吾軍に援助を求め漸く工を終れりと云ふ何が故に如斯吾軍が迅速な工を終りしと云ふに吾軍は人夫を徴集するに當て相當の勞銀を人夫に與へ又寸毫も侵すことなく却て彼等の安寧秩序を保護し彼等をして毫も疑ふことなからしめしを以て彼等吾軍に威服し人夫は期せずして蟻の甘に就くが如く集り却て多きに苦めりと云ふ然れども露軍の如きは奪掠に至らざること無く或時は婦女を姦し又或時は良民を慘害する等其亂暴狼籍遂に民心をして反せしめ露軍の區域に属する土民は逃去て皆吾軍の在る處に來て住するに至れり故に露軍は止を得ず非常手段を取らば兵士をして村落の壯老別無く捉來て勞役に就かしめ其遺れて去らんことを恐るゝや夜に至れば兵士の彼等人夫の周圍を取圍み壹人にても遁れ去らんと企つるものある時は直ちに銃殺せんと銃を肩に擬して彼等を威嚇す故に彼等の戰々恐々として業に安んぜず如斯して豈能く人を使役することを得んや宜なるかな其業の迅速からざる又怪むに足らざるあり

十月十二日 此日風少しくありと雖天氣又宜し吾等公使館書記生高須氏の案内によりて支那馬車に乗じ北京市街巡覽の爲め館を出て喇嘛教寺より順次孔子廟又舊喇嘛寺等を廻り終りに宮城を視る但し宮城の此時已に庶人の拜觀を許さざるを以て單に外觀に止め歸途拳匪の首領として有名なる莊親王の邸に在る當時北京駐屯の吾大隊部に至り大隊長を訪問す此日山越大尉隊用を以て天津に歸る(天津北京間八十八哩也)

喇嘛教寺 喇嘛教の則ち昔印度より蒙古に傳へたるものにして純然たる佛教なり蒙古人性慷慨にして武を好む然れども事なきの日に當ては彼等は頗る質朴にして敢て人を害せず加ふるに彼等の宗教信仰心に富み宗教の爲め性命を惜まずと故に喇嘛教貫主則ち(吾國に來朝したる人)該教總本山を主は能く人民の意に投し一面宗教の力を以て去又一面向武の風を装ひ以て民心を結合せ隱然國王の勢力あり蒙古は支那の所謂匈奴の本場にして武術に至ては恐らくは支那人の上にあらん故に支那政府は腕力を以て彼等をして威服せしむること能はざるを以て一つの捷路を取り先づ國王の勢力ある喇嘛教貫主を擒すも利を以てし加ふるに師の禮を以てし彼を北京に招き清國皇帝の第一の喇嘛教僧者となり巨利を北京に造り官費を以て喇嘛教僧侶を養ひ又教主は各年毎北京に來り名義上皇帝の政事上の顧問とあると云ふ如斯該教徒を在ゆる手段を以て籠絡し以て遠き蒙古をして居から清國の屬下に置きたるの政略實に悔り難しと云ふべし

孔子廟に至れば段高き處に先聖孔子神位云々と記したる稍々大なる靈位を備へ左右に孔子の徒弟孟子等の靈位を並べ以て靈を祀る

莊親王邸、北京俚歌中にも其莊嚴を唱ふると聞く然れども吾等の眼より見るときは何れか其莊麗なるやを知らずと雖も邸内稍々廣く無用の樓閣多くありて必要な便殿の却て粗惡なるに驚けるのみなり

李伯會見

○十月十三日 晴天氣候稍々秋冷を覺ゆ此日代理公使日置氏の紹介を以て全權大臣李鴻章伯に會見す  
譯官二名(一名李氏の譯官 他は高須書記生)を介して時事を談す其始に當て井上子爵先づ口を開き國務多事の秋に於て  
能く會見の諾を吾に與へられたるを謝すと李伯之に對し簡單の答辭を爲し談漸く進んで鐵道談に移り  
子爵ハ吾國鐵道の開發者としての自家の經歷を述べ口を極めて清國目下の急務は鐵道布設にあるの理  
由を述べ其方針としては同文國たる吾國の技師を聘きて此れが衝に當らしむるときは歐米人を聘する  
よりは其俸給に於て大なる相異なるのみならず彼我の事情相疏通し工事上の便宜甚あからず幸に吾國  
は今日四千餘哩の鐵道を大成し交通上の急務に應じ目下の處稍々休止の裡にあるを以て是迄鐵道に従  
事し經驗ある技術家は皆國に在て業あきに苦む今此等技術家を清國に移し鐵道に従事せしむるときハ  
只に清國の幸あるのみならず吾國の幸も又大なる可し吾老たりと雖も猶餘勇あり若し吾をして清國鉄  
道の要路に當らしめば清國をして一大強國たらしむべし夫れ鐵道は戰時に於ては速かに兵をして邊境  
に出しめ以て國家の急を救ひ又平時よりては交通運輸の便を全からしめ併て國の利源を啓發し以て  
國を富す清國が屢々外國と兵を構ふに當て常に利あらざるは他なし交通機關の設備なきによる故に吾  
所見は富國強兵の策一に鐵道布設に有と如斯吾ハ鐵道ハ熱心忠實なり故に國人吾を稱し鐵道狂と云ふ  
李伯以上の鐵道論に對し答曰く吾能く鐵道の利あるを知る如何せん吾國狀は事變後各強國に辨償すべ  
き巨額の負擔ありて未だ他を顧る暇なき吾君の鐵道に熱心なるに感服すると雖も君が鐵道長官たる

樞要の位置を自ら退きたる理由を知るよ苦むと老伯ハ其の急所を衝けり子爵は吾餘りに職ハ忠實熱心  
なるを以て上官と衝突し遂に職を去るに至れり然りと雖も吾鐵道狂は益々狂を加へ辭職以來民間にあ  
りて鐵道事業に従事し現に汽車製造所長たりと辨し談漸く佳境に入らんとせしが伯は談を餘事に移し  
先づ子爵は何地に於て文明的教育を受けたるや又年齢を問へり子爵は之に對し三十八年以前に國禁を  
侵し英國に赴き五ヶ年間文明的教育を受け今年齡五十九歳ありと答ふ李伯曰く三十八年以前なれば伊  
藤侯爵と同行せしにあらずやと子爵然りと答へ李伯曰く君を見るに勇壯活潑にして如斯高齡に達せ  
しと見へず實に羨む可堪へたりと李伯は病後の疲勞座に堪へざるが如し依て握手の禮を施し辭して李  
邸を去る

此日門前大街を稱する北京第一の商業地に至り商況を見る此地道路稍々巾廣く又商家も整然軒を並ぶ  
外見頗る繁盛を極むる如くされども二三商家に就き商品を見る其商品の準備頗る僅少にして品質も又  
優等あるものを見ず市街一巡を終り歸途に就く途次慶親王邸に至り檜原見島二氏の戦死場の跡を吊ひ  
併て同邸内吾軍隊兵營新築工事を見る此の慶親王邸ハ繞らそに莊嚴なる石壁を以てす前門は堀を隔て  
英公使館に對し又吾公使館に隣し其面積甚だ廣大なり事變の時拳匪の據て以て城壘とし吾公使館及英  
公使館に向て劇烈なる砲撃をあたしたる地にして彈痕の増壁門戸に印するもの今猶歷然たるあり又賊の  
火を放て殿宇を烏有に歸せしめたる跡等如何に吾館員の勇猛にして戰の劇烈かりしやを想像するに餘

ありとぞ  
今此の古戦場地の吾公使以下居留民を保護する軍隊駐屯所と化し去らんとす聞く兵員約二大隊ありと云ふ

○北京城 清帝の居城にきて實に老大國の首府あり繞らずに雄大なる城壁を以てし内に百官群臣庶民住居す此れを鞦韆市街と稱す其多くは滿人にして人口約八十万と稱す

城内市街の道路稍々廣くして車馬を通するに適す然れども此國の弊として道路の修繕家屋の修築等をあすふとなく其自然に一任し敢て顧ることなきを以て道路の中央の溝形をさし深きは數尺に及び凸凹極りかく其險惡なる實に驚くに堪へたり支那馬車に乘し市街を通行するに當ては其馬車の震動劇敷して右轉左衝す頭部に數箇腦生の覺悟せざる可からず其風ある日に當ては塵埃一時に起り眼口を開くと能はず實に黃塵万丈とは此事にあり故に一たび此地に來れる人皆道路の險惡なるを塵埃の甚しきに堪へず直ちに去らん事を願ふと云ふ宜へあり吾等も其一人にして實に一大不快を感したり

○北京城壁 往古一たび堅固の城壁を築き以て居城を構へしも後市街の膨脹により更に第二の城壁を舊城の南部に築き此の内に又市街を構へ以て今日に至れるが如し其南部の市街の則ち門前大街にして漢人最も多し其第二城壁の構造敢て評するに足らされども舊城壁は實に堅固無比如何なる巨砲と雖も到底破壊せる能はざるべく恐くは世界一と稱するも過言にあらざる可し今其構造の概略を述べん

の上市四拾五尺高さも稍々相似たり其長拾數哩に亘り内に市街を構へたること暗に文明的築城法に適ふ其建築材料は長壹尺五寸巾七寸五分厚五寸の黑色煉瓦を以てし是れを鑄くに石灰を以てす其基礎の如きは地下數尺の下に厚壹尺巾貳尺長四尺の敷石三段を重ね上に煉瓦壁を置く其壁の内部と雖も一つの土塊を見ず悉く前記の煉瓦石を以て填めたる等其工の堅固莊嚴なる只一つの雄大なる形容詞を付するの外適言を知らざるなり

人情風俗 此地の上流社會と稱する者は清朝の始めに當て時の皇帝が明朝に代て一國の主權を掌握する時代より服従し來れる所謂普代の徒にして則ち滿州人ありとす此等滿人風俗の支那古有の風と異り男子の辨髮女子の結髮に長き笄を用ひ又足部を壓縮せざることを等たり又漢人と稱するものありて明朝に職を食みたる徒或は其子孫にして是等男子は政府の法禁により他と等しく辨髮をさし一見其區別を知り難し然れども其女子に至ては結髮に長笄を用ひず又足部を壓縮し竹筒然たる其足を運ぶは鴨の歩むが如し支那人の所謂蓮歩を移すと云ふは此のことあらん其風俗體格兩つあがら前者優にして後者の劣あるを見る

清國政府 政體の君主專制にして皇帝は皇天の寵子則ち中華の天子唯我獨尊と自ら任し他は海表の夷狄と爲せり其前世紀の始めに當ては鎖國政策を頑守して以て四境を鎖せり其明朝の終りに當て澳門に葡萄牙人、廣東に英人出沒し又清朝の代に至ても猶も貿易を繼續したれども是れ表面對等の通商貿易と

云ふにあらす所謂夷狄々來て中華に朝貢すると云ふ名義の許に黙容したり然れども世界の趨勢の中華の天子に安眠を與へず第一着に露國の北京に通商貿易の許可を迫り後斥けられて漸く西伯利の國境に於て僅に貿易場を得たる頃より英國は漸次有邪無邪の裡に商域を擴張し遂に一つの紛糾を惹起し結果は有名なる鴉片戦争となれり此時に當て青天の霹靂未曾有の一大事は起れり唯我獨尊なる中華の天子の茲に戦敗の故を以て海表の夷狄と抗禮の國際を開始せざる可からざるに至れり爾來各國は競ふて信交を求め來て今日の狀態に至ると雖も朝廷の滿人と稱するもの頗る頑固にして世故に通ぜず彼等の自負心は中華の天子は神聖にして夷狄と對等に交る可からず又其通商貿易は朝貢の商賈の如く屢々外人に侮慢を加へ事端を惹き起せり然れども漢人と稱する大官は稍々小照にして略は外事に通ずると雖も此徒は皆薄志弱行の輩にして一面滿人の欺心を買ひ又一面外人に對し欺瞞の術を逞し一時を塗抹し漸く自家の位置を保たんと欲する者多きを以て益々外人の信用を損じ遂には英佛連合軍の爲めに北京城下の盟に耻を忍び或は佛人福州の砲撃となり近くは日清戦争に台灣を失ひ又昨年拳匪事變の爲め巨大の償金を擔ひ今や亡國の域に墮せり

如斯大打擊を蒙ると雖も滿人の頑固の益々度々加へ漢人の益々怯懦にして列國の鼻息を窺ふて漸く國體を維持するのみにして確固たる政見を有する者なきに至ての世長嘆せざるを得んや

○十月十四日 北京市街の一巡を終り又李伯の會見或は英公使訪問等の用務を終り此日北京門外停車

場發十一時四十分の列車に搭し天津に歸着し郵船會社支店竹野氏の許に宿泊す良政廳出仕の原田中佐も此家に寄宿す同中佐の催しに係る内外人鑿應の夜會ありて井上子爵此會に列す

○十月十五日晴天 子爵は露將ヲガク少將に會見を求め全少將に滿州鐵道横斷の旅券を請求すツカク少將は直ちに在旅順のアレキヤーン中將に打電して其採用を求むと聞く

此夜山越、勝田の兩大尉來て吾等を誘ふて支那料理家に導く則ち兩氏に隨て天津第一と稱する料理店に至れば古閑英語通譯、清語通譯某、郎房人某(村長)の三名已に來て座にあり座定て後大椀小椀三十六種は順次食臺に上れり其味は淡泊にして能く吾等の口は適す其腹中に入て消化の速かある等恐くは其味又庖厨の用意遠く洋食の上にあつて和食に如き不味あるものにあらず老酒と稱する支那酒も臺にありて其味甚だ淡泊にして多量に用ゆることをあるも決して後害を遺さず其製法を聞くに吾國と等しく米を醸して造ると云ふ其酒精の比較的少きは儘に衛生上日本酒に優ると雖も飲酒家とし其評を知らせ、席上に清妓四名來て杯盤の間を周旋し又俚歌を放て興を助く其樂器(三味に)に和して歌ふ聲泣くか如く又訴ふるが如く其低音にして抑揚少き邊聞に堪ず聞く是等女性動物は例の醜業を敢て爲さると云ふ恐くは此國此社會唯一の美風あらん

來賓の内郎房人某の該村の村老にして昨年事變の際吾軍に向て滿腔の誠意を表し吾軍隊の糧食運搬或は鐵道修理等に要する人夫の徵發を應じ軍人をして後顧なからしめたる功を以て吾軍隊より褒賞を受

け又戦後鏖寡孤獨を救助し或は私財を投して公道公館等を修繕する等の功を以て清廷より位五品に叙せられたる人にして適々此地に来て山越大尉を訪問の序を以て此席に列せるなり

○十月十六日晴天 此日原田中佐に依頼し義に露將ヲガク氏に請求したる滿州行の旅券を全將軍に求む然れどもアレキシーフ中將の返電なきの故を以て得ず

此日又三井物産支店に至り南支店長並に店員笑輪氏に面す笑輪氏は兼て滿州横断の志あり吾等の滿州行を聞て共に行うんことを乞ふ依て吾等は先きに天津を發し山海關に至て同氏を待つて共に旅順へ出でんことを約す此れ他ならず曩に得ざりし旅券を得ん爲め笑輪氏は吾一行に遅れ原田中佐より該旅券を得て出發せんとするにあり

此夜領事伊集院氏の招きに應じ領事館に於て晚餐の饗應を受く山根少將青木中佐來て此席に列す

○十月十七日晴天 此日山越大尉古閑通譯等と共に山海關に向て出發せんと欲し午前六時半天津停車場に至る山根少將英人キンドル氏外拾數名來て吾行を送る列車は七時天津を發し山海關に向ふ途次唐山驛に下車す時に午后一時あり着後此地鑛道部派出官英人大尉某に導かれ今回新たに建築したる器械工場に至る此場内に鍛冶工、鑄工、鍊鉄工、仕上工、組立工、木工、等の諸工場ありて當時器械据付中にありし其器械は歐米より輸入したる崭新のものありとす要するに此場は此處より十數丁距る舊工場の器械を茲に移し以て汽車、客貨車の製造或は修築に供すると云ふ此新工場の巡見を終り舊工場に

至る此工場は規模新工場に比し極て狹隘あり故に新工場を設立したるが如し場内に此工場に於て製造したる五拾餘噸の汽鐘車あり瞥見する處其構造英國ダブヌ製に模擬し精巧なるが如し此外ダブヌ製米國ポールマン製のもの數臺ありて昨年拳匪の爲め破壊せるもの三臺ありて是等當時専ら修繕中ありて此外十數輛の貨車又數輛の客車製造中にあるを見たり此工場に隣する石炭採掘場ありて其規模大なり吾等は此採炭場を細見せんと欲したれども時己に日没に近く實見するの時間なきを以て單に外觀を見去てセメント製造工場に至る此工場二十七年戦前に一たび業を始めたるも戦後故あつて暫く休工中でありしも三年以前再び工場を修繕し又崭新の器械を据付獨逸式則ち乾式法により業を開始せるあり此工場は一ヶ月五千樽以上製出するに適する構造にして原料は工場の傍ら數歩内に石炭石あり又粘土あり又燃料たる骸炭も附近にありて實に製造上無比の便利あり然れども石炭石は稍々劣等なるが如し然れども耐張力猶四百磅以上ありと云ふ巡見の當時技師長獨人某來て工場を案内す又氏の談によればセメントの需用者多く或一二會社の注文にて向ふ三ヶ年間は該社外の注文は應しかたしと云へり此セメント工場を一巡の後該技師長の私宅に至り暫く休息し後氏の邸より十數丁を距るキンドル氏別邸に至り一泊す先に吾等を嚮導したる大尉某は此キンドル氏方に止宿せるとを知れり

○十月十八日 朝來キンドル氏別邸を出て先づ石炭採掘場に至る此の採炭場は一面の平地にして地上より堅坑三ヶ處を掘りけ其深きは千貳百尺其淺きもの猶五百尺あり其下部炭層通して約五拾呎ありて

四拾五度の傾斜をせり此の採炭に要する器械の内水揚唧筒は稍々大なるものにして一分間約百六立方尺の水を吸揚ると云ふ此外石炭引揚器械ありて此等を運轉するに蒸氣力を用ゆ又場内にコーク窯ありてコークを製造す以上作業の便に供する爲め電燈アーク燈あり又インキャンアセント小燈ありて場内の設備盡せりと云ふべし此採炭場は世に所謂開平炭坑の一にして恐くは東洋第一の良坑あらん然も此事業は歐人(重に英國人)の放資に係る一つの合資會社にして社の重役輩が私利を貪り敢て業務の隆盛を計らざるを以て事業振はす全軀の設備より云ふときは一日の採掘量裕に千噸以上三千噸以内の出炭を得べしと雖も今日の出炭量一日五百噸内外と云ふ(其詳細の次に掲ぐべし)

山越大尉古閑通譯の二氏は前夜此地日軍駐屯所に至り便泊せるを以て採炭場の一覽を終り後二氏を駐屯所に訪ひ共に出て停車場に至り山海關行の列車を待つ唐山驛の天津と山海關との稍々中央にありて兩所より發する列車は此驛に於て行違をなす午後一時四拾分古閑通譯は隊用を以て天津に歸り吾等は山海關に向ふ列車は午後六時着關吾駐屯軍武官の出迎に會す相共に馬車(支那馬車)を馳て日軍大隊本部に至り一泊す

○十月十九日 晴天候稍々寒し此日朝來山越大尉隊用を以て天津に歸る相共に汽車に搭去湯河驛に至り大尉と相別る吾等は此地に下車し更にトロックに乗し此地の秦皇嶋に至る分支線より同嶋に至る此地は冬期大沽氷結舟路止絶の間北清に供給する百貨を輸入し又開平炭輸出に供する目的を以て前

記石炭鑛業會社が一大築港を計畫し當時廣く歐州に資金を募集中ありと雖も應募者極めて少しと云ふ會社は此等に關せず已に築港に附帶する市街地に充つる爲め數拾万坪の土地を極めて廉價に(壹坪約壹厘と云ふ)買收し暗に他日に備ふるに似たり又一方に於ては島の一角海に突出したる地を選び自家の石炭輸出に備ふる爲め長約七百ヤードの木造棧橋を海上に設立し此棧橋に鐵道を布設する爲め海中を埋立て島と本地の連絡を付け而して鐵道を棧橋上に延長し汽車の通行を便す吾等此地に至れる時已に千餘噸の汽船壹艘來て此棧橋に依て貨物の出入をなすを見たり要するに此棧橋は永久に保存するにあらざして汽車の便を利用し石塊を海中に投し漸次波濤を防ぐ石堤に改造せるにあり此棧橋を距る西七拾間餘にして海中に突出しふる山角あり此山角より東南に向ひ灣狀をなし長さ千八百ヤードの突堤を築き以て冬期は激浪を防ぐに供す前記棧橋と此の突堤との間に汽船を繫留せしめんとするにあつて其規模極めて狭少なりと雖も又大築港に供ふ一部の工事なりと云ふ此突堤工事は已に着手約十間餘海中を埋立あるを見る此工事完成の上は堤上に又棧橋を構へ二線の鐵道を布設し橋上より直ちに船内に石炭を放下する設備を爲すと云ふ此の山角の西北則ち本地沿岸一帯は平地ありて敷地數拾万坪會社の所有に屬す是ハ大築港附帶の市街地に充つと云ふ(前記廉價を以て買收したる土なり)大築港と稱する設計圖を見るに其計畫の大ある少くも壹千万圓以上の巨額を投するにあらざれば此の計畫完成する事能はざるべし如斯巨資を投して完然の不凍港を得るやと云ふに決して然からず冬期數拾日間の氷結を免かれ難し



と云ふ然れども太沽の不便あるに比するときは其氷結期間も短く又船舶出入に便ある遠く太沽の上にある可からず其突堤に近き邊は約四十呎の岩石を掘削する等の難工事尠からず

今會社が鑛港を企てたる要旨は第一に自家の開平炭を此地より四時絶へず輸出して大いに日本炭と競争を試み兼て東洋に於ける石炭上の覇權を握らんと欲するあり又第二に此地をして一つの自由港となし曠に太沽牛莊の商業を此地に移し他日地價の高騰するを待て兼て準備し置きたる市街地を高價に賣拂ひ一攫万金の快を爲さんとするにあり

軍事上占領 日英獨佛露の各國競ふて此地を占領し各國各々國旗を掲げ自國の占領區劃を示す又之を守るに中隊の兵を以てし各所に陣營を造り茲に屯在す其日軍に屬する地各所にありて其坪數拾數万坪に及ぶと云ふ内前記突堤に近き山角の一地島中最高處にして海に臨む此地は船舶出入に信号を與ふる信号機を設立するも最も適當の所にありて各國其好位置を羨望すと云ふ此外荷物を貯藏する倉庫設立地又豫定市街地(前記新市街豫定地を指す)全部の實に吾占領地の内に屬す吾兵舎も此地に建て守るに兵一小隊を以てす

茲に吾軍占領地に付き一つの勇壯瀟灑の事實談あり夫は前記山角の一地占領の當時其隣地に當れる獨逸は此地の好位置を羨望し或日獨の一士官來て吾守衛の兵士に日旗を激し地を譲られんことを強請す

吾忠勇なる兵士は一言の下に謝絶し若し何人と雖も吾日旗に指を加ふる者あるときは一發の下に銃殺せんと答へたり獨士官は尋常手段を以て得難きを知るや更に兵一小隊を率ひ來て前地を奪はんと企てたり然れども吾勇壯の兵士は如斯兒戯に類する劫喝手段を恐れんや直ちに銃に裝藥し取て肩に擬し將に發砲せんとする危機一髪に際し獨の士官は吾兵士の勇猛に恐れ部下に向て退却の命を發せり此時吾兵士は僅かに參名に過ぎざりしも能く軍旗の名譽を完からしめたる忠勇愛國の舉動は懦夫をして奮起せしむるの價値ありと云ふべし如斯吾忠實なる兵士が一身を挺して死守したる地も一時の占領に過ぎず其平和の時に及んでば貪慾飽くもど無きの徒の手に歸することを思ふべし又悲憤の至りに堪へざるあり

秦皇島一巡の末再びトロッコ(手押車)に乘し湯河に向ふ途次列車は烟を揚げて來れるに會す此れ前日吾等と全車したる獨逸少將某の此地を巡視するにあり此の獨少將に就き一つの餘談あり夫は前日車中に於て井上子爵より刺を通し會見を求めたり此時少將の從者ハ此の會見を謝絶せり然るに少時にして少將ハ自ら出て來て子爵に面す後又少將は從者を以て鄭重に車中よ於て子爵と會食せんことを乞ふ子爵は直ちに至て食卓を共にす列車は漢州に着する頃子爵は辭して吾等の車室に歸り少將は此地に下車す

吾等は少將一行の列車の過くるを待て湯河附近一村落に駐屯せる秦皇島守備中隊本部に至り藤原大尉

を訪問す後湯河驛より再び列車に搭し山海關に歸着と此行唐山守備隊員蘆島少尉も吾等と全行せりと雖も全少尉は湯河驛に於て吾等に別れ唐山に歸れり

山海關に歸着後天津より笑輪氏のヲガク少將より交附せる旅券を齎し來るに會す旅券を一見するに佛文を以て記したる私信に似たり其宛名の原田中佐にして文中子爵滿州行の探可を得たるを通し併て全君の安全ある旅行を望むと云ふに過ぎざるが如し吾等が曩に旅券を請求したるときは子爵の隨行者二名の旅券も併て請求したり然るに旅券に代ふる私信を以てせり依て此れを石田大隊長及び衆に謀る者曰く吾が帝國の華族たるもの從者二名を携ふ是當然なり取て從者の旅券を要せんやと則ち衆言に隨ひ此の私信を携へ翌廿日早天滿州に向ひ發程することに決す

此夜吾れ寢床に入るに先つて吾等の爲めに特に付け置りたる兵士貳名に謝儀若干金を與へ吾等の翌早天出發を告げ併て翌朝午前五時迄に馬車の準備又吾等も全時に起し呉れんよとを依頼し眠に就むり○十月廿日晴天 此朝前日以来の疲労の爲め一同熟睡豫期の時刻に起出するもの一人も無く時辰儀五時四十分を示す頃吾れ第一に起出たり然れども列車の六時十分に發するを以て僅かに三十分を餘するのみあり依て早急衣服を更め又一面馬車を命じ漸く五時五十分旅裝整ひ馬車に鞭ち停車場に向ふ此大隊本部より停車場に至る距離約十五六丁にして馬車を疾走するも猶十五分を要す(道路險るる故あり)其停車場は遠する約五丁の處にいたるや漏笛耳を貫く急に馳て停車場に至れば残れるは黒烟のみにして列車は

吾等を殘して去れり然るに規定の發車時刻は六時十分あるに列車は六時に早發して猶五分時を餘すを發見したり聞く早發遲發は一つに旅客の多寡に依ると其不規則驚くに堪へたり山海關營口間は一日一回の列車を發する外他に車便あり依て出發を翌廿一日に延期と

此驛を去るに先つて子爵は曩に得たるヲガク少將の信書を 驛の係官に示し吾等の滿州行の旅券に代用することを得べきや否やを尋ね係官答て曰く之れ一つの信書に過ぎず吾等三名共旅券を要すと依て石田大隊長の証明を以て更に旅券を得るよとに着手したり然るに此日は日曜の安息日に相當し旅券を交付すべき當局者家を出て其行く處を知らず故に此旅券を得るため大隊付露語通譯某は大いに苦心し翌日出發に臨み漸く旅券を得たり

吾等は大隊本部の停車場と相距る甚だ遠きを以て此日移て停車場附近大隊付兵砦部に宿泊す

此夜曩にキンドル氏の紹介を以て面識を得たる此方面擔當技師英國人某書を子爵に寄す吾れ代て開封するに封中に別に一書を入れ貫覽に供すと云ふ則ち別書を見るに技手某(支那人)より技師に上申したる一つの訴狀にして書中吾軍人某の一行秦皇嶋に至るの途次該技手に迫りッロリを該嶋迄人夫付屬の上借用せんと乞へり技手は上官の命なく又列車衝突の危険を恐れ此れに向て快諾を與へず茲に一場の争を起し結果技手某乱打を受け少しく負傷したりと云ふにありて此等の顛末を英文を以て巧に記載せり技師は此の訴狀を子爵に示し子の同情を惹き以て暗に吾軍人の亂暴を抑制せんとするが如し

○清國漫遊中に三大失策ありて此地汽車乗後は第一の失策にして其禮金を兵士と與へて朝起を依頼し安眠したる結果首尾能く乗後を演したるは元より油断に依ると雖も一は他に原因あるを後に至て發見したり夫は禮金を與へて朝起を依頼したる兵士は其當夜丈の勤務を終り本部以外の兵營に歸り翌日は他の兵士交代し來て勤務に當るにありて吾依頼は何の用をも爲さざりしなり

○萬里長城 山海關は實に萬里長城の終る處清國第一の重關あり市街は長城内別に城廓を構ふ吾市街巡見の序を以て長城の一部を見る其延燒として山頂巒谷に跨り延長万里に亘る莊觀偉大なりと云ふべし其構造を見るに北京城壁と等しく黒色の煉化を以て表裏兩面數尺の厚に築き中間に土砂を入る其堅牢の點より云ふときは北京城壁に劣る數等なり其高さ三十尺より四十尺の間にありて巾上部に於て四拾貳尺あり所謂万里あるものは清里にして吾國の里數に換算するときは約五百里に當ると云ふ

○十月廿一日晴天 此日天候大いに寒し前日の覆徹を恐れ此日午前二時に起床行李を整ひ又通譯某より旅券を受取り午前六時發車營口に向ふ吾等の乗したる客車は三等に於て車内不潔言語の外にあり然れども茲に便利あるは食堂の設備ありて茶菓及び罐詰の食品を賣る此線路中各處に假線路ありて列車の速力稍々遲鈍なりしが午後七時牛莊の對岸則ち遼河の右岸ある河邊の停車場に至る此時已に營口三井支店員某二名來り在て吾等を迎ふ相共に小舟に乘し遼河を溯る時恰も退潮に際し船操極めて困難なり舟に在る四時間にして營口に着す時に午後十一時なり此夜支店長島田氏の邸に泊す(備考營口は世

は所謂牛莊港を云ふ)

○十月廿二日曇天 此夜雨少しく降る此日營口に滞在先づ吾領事館に至て領事田邊氏を訪問す館を辭して後市内の商況を一覽す市内各所に豆絞器械を備へ盛に豆油を製造するを見る此地は清國三十三開港場の一にして滿州唯一の良港なり此地重なる産物は羊皮、豆、豆油、油糟等にして其羊皮は歐米に油糟は日本に向て輸出すると云ふ今吾國より此地に輸入するものは石炭、綿糸、木綿、海産物、材木等にして將來極めて有望なりと云ふ其冬期太枯氷結間は百貨此地に輻湊し對岸の芝罘と相對し貿易繁盛ありと云ふ

此地は目今露國の占領に歸し露人跋扈するを以て吾商業振ひすと云ふ此地は數年以前戰勝の餘策一は吾國の有に歸したるも今其當時の敵國たる露有に歸する豈慨嘆の至りに堪へんや

此夜領事田邊氏、廣東人東永機代理人某來會之島田氏の饗應に係る晚餐に食卓を共にす

○十月廿三日晴天 天候大いに寒し此日午前三時起床馬車に乘し遼河の左岸東清鐵道停車場に至る此の哩程約三哩ありて道路極めて險惡あり午前五時三拾分漸く停車場に至れば漠々たる場内一つの建築物を見ず場内に入て漸く場の一隅に小屋を認む是れ出札場あり則ち入て旅順に至る一等切符三葉を求め得ずして二等切符を得是は一二等切符を發賣せざるに依る茲を去て乗車場と覺しき處に至り旅順行の列車を探す數多の列車は線路に横はり何れの列車が吾が尋る列車あるやを知らず時に嘗て立神船中

に於て一面識ある塊人某來て旅順に至れるに會す氏は露語を能くするを以て氏を介して列車の所在を  
知り共に乗す須臾にして一つの汽鐘車何邊より來れるを知らずと雖も來て吾列車を率ひて午前六時此  
地を發す行くこと約拾三哩にして大石嶺停車場に着す此地は吉林營口間の本線より分岐して旅順に至  
る分岐点に於て吾等一旦此地に下車して奉天府より來れる列車を待合せざるを得ず待つこと二時間餘  
よして列車は來れり此待車中露兵は木片或は木葉を掻集して火を焼き湯を沸し又麵麩を食して暖を取  
る列車着後諸車の入換等に時を費去容易に發車せず漸く九時四十分に至て此地を發し旅順に向ふ吾等  
は三等の不潔に於て且つ車中の露兵喧嘩席に堪へざるを以て此地に於て一等に乗換へんと企て得ず之  
れ一二等切符を發賣せざるに依る茲に於て塊人某を介して假に一等に轉乘し其賃金(増賃)を旅順に  
於て支拂はんことを計る列車長は一等の設備なきを以て二等に轉乘を許す依て轉乘せんや欲し二等車  
に至れば車中露の士官を以て充され吾等の座する席を見ず漸く三座を得たりと雖も塊人某の席なし列  
車の將に出發せんとせるときに當て車長(軍曹)來て旅券を改む義に得たる旅券を示し無事なりし此  
列車内露人以外の旅客は實に吾等二名と塊人某に過す此外多數の支那人無蓋貨車に在りと雖も露人は  
彼等を人類視せず

今車内の設備を述べんに腰掛を覆ふに魯製鼠色毛布を以てし腰掛數尺の上は薄板ありて寢臺に供す又  
此の上に全様の板を以て柵を設く之れ荷物を置くに供するあり列車の速力は早きは壹時間參拾哩運き

も猶拾五哩の上よありと雖も各驛に停車する時間の長きに驚きたり其長さ時ハ一時間短きも猶十五分  
を費す列車の旅順に着したるは實に午後九時にして列車内に在ること拾五時間内七時四十分は列車の  
駛走時間にして殘七時二十分は實に停車時間にして其半はに當れり其夜に入るに及んでは車内の一隅  
に一つの蠟燭を点し以て明を取る其暗き僅かに人の顔を認むるあり旅順着後先つ三井支店に出迎員と  
共に至り暫時休息の後此夜長崎ホテルに投宿す(但し箕輪氏は三井支店に泊す)此ホテルは當地一流の者にして露人  
も來て此屋に泊す吾等の眼より見るときは此旅宿の第一等と稱する室も不潔にして惡臭鼻を衝く此地  
に來れる人豫め覺悟すべきは實に旅宿にありとす

○十月廿四日晴天 天候稍々温暖夥り此日旅順に滞在す子爵はアレキキーン中將并に鐵道技師長某等  
を訪問す中將は此日軍艦に在つて不在と云ふ技師長某は家に在て子爵に會す別れに臨て在大連灣副技  
師長某に宛てたる紹介狀を子爵に與ふと云ふ

此夜七時長崎ホテルを出て箕輪、中澤二氏及び古賀商店員某等と共に東清鐵道により大連灣に向ふ列  
車は大房身と稱する小停車場より分岐して大連灣に至る此行汽鐘車の難過嶺と稱する小驛に於て器  
械に損所を生し此等臨時修理に時を費し延着して此夜十一時大連灣に着しダルコホテルに投泊す(備  
考大連灣と世に稱する者實は青泥窪と稱する露國の築港をなす地其大連灣と稱するもの青泥窪對岸數  
哩の外にあり)

十月二十五日晴天 子爵の朝來副技師長を訪問せんとせしも露人は夜遅く寝ね朝十時にあらざれば起床せざる習慣にして十一時にあらざれば人に面會せざると云ふを以て其朝に至る迄市街を巡覽せんと欲しホテルを出て行くこと數丁にして途に佐藤成教氏に逢ふ此日午後佐藤氏の案内に依りて市街建築の状況より築港、船渠、護岸等の諸工事を一覽し終りに佐藤氏の請負に關する發電所煙筒工事を見る此日笑輪氏と相別れ吾等は午後六時小流船舷川丸を搭て芝罘に向ふ  
此日を以て北清の一巡を終りたるを以て茲に北清に於ける殖産工業の概況より鐵道工事の細評を次に述へんとす

#### ○北部支那、殖産工業の概況

支那境土の遼闊廣博なる亞細亞の東南を占有し廣袤數千里に渉り政治上政府の統轄の下にありと雖も氣候地勢產物風俗を異にし宛然數國に異ならせ今之を三大別して北部支那、中央支那、南部支那とあすを得べし今茲に詳言せんとするは支那本部の北部及び滿州を總括す此の區は一般に農産國にして工藝技術の業未だ興らず所謂天産の農産の外人爲的產物に乏しとす其天産物の重なる物を擧ぐれば獸皮、豆類、果物等の類に過ぎず其工業と稱するもの天津、唐山、營口の三所に於て多少見ることあるも大國の工業として海水の一滴に及ばざるあり如斯殖産工業の振はざる是等事業の餘地なきかど云ふに決して然らず久しく歐米人が垂涎せる地底の寶藏則ち滿州に於ける石炭、金、鉄、等の礦業より山

西に於ける無量無盡の炭層ありて其黃河の流域のみにして優に將來全世界工航業數百年間の供給に堪ゆると云ふ等無限の財寶は空しく地下に埋没し今日迄開發せられざりては一つに惡政に依るを雖も又交通機關の設備なきにありて然らず政府は探礦の利を認めざりしやと云ふに決して然らず其遠く春秋戰國の時代より中古唐宋時代に及んで大いに開鑛したる跡あり又清政府も夙に鑛制を定め官司を置き之れが經營に従事し來りしも其經營は概ね官業にして人民の隨意に開發を許さず偶々許可する事あるも干渉殊求其極に達し其業の發達を阻礙し遂に業を止むるに至ると云ふ其官業に屬する探鑛方法の如きは極めて幼稚にして今世の所謂礦業より視るときは兒戲に類すると云ふも誇言あらざると云ふ嗚呼礦業の振はざる又宜からずや

今支那北部に於ける鑛山の重なるものを擧ぐれば左の如し

滿州に於ける金鑛 此地方に於て近來發見されたる金鑛、ウレガ河の流域、ケルガ河流域、マヒツ河流域、ツワンイサン、露古塔地方、綏芬河流域、圖們江、松花江、マウオケネ地方、長白山等の諸脈にして其長白山を最大とし松花江流域、ケルトガ河流域及び、マウオケネ等の金鑛之に次ぎ他は未着或は支那政府の開掘を嚴禁するものありて將來有望のもの尠ならずと云ふ

盛京省内の石炭鑛 省内に石炭鑛數ヶ所ありて半無煙炭を出す炭坑は皆横層にして採掘極めて平易なりと云ふ其重なる者は遼陽の北六十清里にして北字河と稱する地又遼陽の西二十清里に牧字堡等にし

て當時採掘中にありと云ふ此外復州の南に一つの炭鑛ありて無烟炭を出す其質東京炭に似たりと云ふ直隸省の鑛山 省内の重なる鑛山は熱河金銀鑛及び開平炭鑛ありとす

熱河所屬金銀鑛の内雙子山、金廠溝梁等の金鑛ハ採鑛の數量極めて多く利益も又富裕なりと雖も土槽子、熱水、瀋山綫の三銀鑛は採鑛困難にして收益も僅少ありと云ふ

開平炭鑛 開平炭坑と稱するもの唐山、林西、西坑の三所より成せり其唐山を第一とし林西、西坑之に次く唐山之海面を抜く五百尺の上において他は百尺の上において此の開平炭鑛は去る明治十一年中李伯の創意に依て設立したる株式組織の會社に依て開發せられたるものなり此會社を鑛務局と稱して資本金百八拾万圓と云ふ其起業當時は技師長英人キンドル氏専ら設計の任に當り經營宜しきを得て起業後四年にして石炭の發賣を始め爾來盛に業を續け一時は採炭量二千餘噸に及びたれども今日は此事業は英人の組織したる鑛業會社の手に落ち昔日の如く又盛大ならず一日漸く五百噸の出炭に過ぎずと云ふ

其最大と稱せる唐山採炭場ハ堅坑三ヶ所ありて深きは千二百尺淺きも猶五百尺ありて其坑の内徑拾六尺なり坑より出する排水一分間百六立方尺にして大なる唧筒を使用す炭層は十三箇より成りて四拾五度ハ傾斜を有す其最も厚きは八尺薄きも猶三尺ありて各層を合し五拾尺餘に及ぶと云ふ其第二、第五、第十、第十三の四層より産する炭量今後六十年間の用ニ供すべく又第三、第八、第九、第十一、第十

二の五層は無盡藏と云ふ此坑は瓦斯爆發の患なき天幸の良坑なり坑より出す處の炭層は良好と云ふにあらざれども其產出高の多き優よ東洋第一位ありとすべし

次に淋西、西坑の二坑は兩坑通して一日の量漸く五百噸内外にして坑の深さ三百尺ありて其炭質唐山と異なることあり以上三坑より採掘したる炭量起業後二十年間(三十四年現在)の總量約五百万噸にして其炭の割合塊炭三割五分粉炭六割五分なりと云ふ外に此地に於て製造したるコーク拾万噸餘及びたりと云ふ

山東省の鑛山 省中諸鑛山の内最も有望なるハ炭鑛にして次に金銀銅鉄の諸鑛ありとす其炭田の重なるものは濰縣、萊蕪、博山、章邱、新泰、沂州等の炭田にして就中沂州、博山、章邱、濰縣を第一とし萊蕪、新泰之に次ぐ其博山の如きは數量炭質共に優等よし其面積も又大なりと云ふ

金屬諸鑛物の最も望みあるは砂金にして登州府棲霞縣に金山と名け探檢の跡ありと云ふ此外銀銅鉄各所にありと雖も未だ詳細の調査を遂げたることなきを以て其數量鑛質を詳かにせずと云ふ

山西省の鑛山 省内の鑛山は石炭鑛を第一とし次に鐵、石油なりとす其炭田の區域は一万三千五百平方哩にして其炭層平均四十呎其炭質は純良の無煙炭にして炭量約六千五百億噸に達すと云ふ今世界一年消費高を七億万噸とすれば實に一千年に近き供給を得べきなり其炭質良好なる英國上等炭に劣らず東洋第一の炭質ありと云ふ

本省鐵礦床の面積炭田の如く廣大ならざれども平定より孟に至る地方又瀋安より陽城に至る地方一帯の鑛脈數十哩に亘り其鑛質も歐州産の内に於て其比を見ざる純良の褐鐵鑛及び磁鐵鑛なりと云ふ

山西陝西の省界に一つの油田ありて其鑛脈廣大なりと云ふ

新疆省の金鑛 省内天山北路より阿爾泰山一帯の地方に一大金鑛脈ありて當時露清兩國人の合同資本を以て採掘に着手し將來有望の金山なりと云ふ

以上歴記したる地底の寶庫は空しく地中に光を失ひ居たりしが今や滿洲は露人に山東は獨人、直隸、山西は英佛人の手に依て此の寶庫は開發せられ地上に其光輝を發揮せんと欲す誰か此寶庫を開く健鎗を彼等と授けたるや此他ならず吾日本國なり日本人たるもの他の前後を争ひ寶藏に入り寶物を收むるに當て指を含みて傍觀の位置に立たんか將又他を排去先收するの勇氣ありや

此外起すべき諸種の利源ありと雖も北清地方其氣候の乾燥して羊の飼養に適するを以て大計畫を以て盛に牧畜の業を起すときは其利益又尠からざるべし

北清地方殖産工業の上に於て最も必要あるは鐵道布設道路開墾等運輸交通の便開くるに及んで諸種の殖産工業の途期せしめて起る可く北清將來の事業舉て數ふ可からず歐米人が此國の寶庫に垂涎する又宜べならずや

北部支那の鐵道 北部支那に於ける既成鐵道を區別して關内、關外、芦漢、東清、山東の五種とす其

關内に屬するものを芦津線と云ひ又北通、津榆線と云ふ其芦津線は北京城外門外停車場より豊台に至り芦漢鐵道に交り夫より天津に至る線路にして其延長八十八哩なり又北通線と稱するもの約拾哩ありて門外停車場より通州府に至る岐線なりとす津榆線は天津より山海關に至る線路にして延長百七十四哩關外に屬するもの榆新線牛莊線の二線とす其榆新線と稱する者の山海關より高帯子を経て新民廳に至る約貳百哩（内六拾七哩營口に至る分岐点高帯子より新民廳に至る間は未成に屬す）の線路とす牛莊線は高帯子より營口に至る五拾五哩の線路とす今山海關より營口に至る間を通算するときは延長百七拾八哩半とす

○芦漢鐵道 此鐵道は北京城外の豊台より起り保定、正定の二府を過ぎ河南省に入て黄河を渡り開封信陽等の都府を経て湖北の漢口に至る約八百參拾哩の線路ありとす内北京より正定府に至る約百餘哩間既成に屬し餘は工事中或は線路撰定中に屬すると云ふ

東清鐵道 此の鐵道は數線路に跨りて營口旅順間百八拾八哩を通稱東清鐵道と云ひ又旅順大連灣間約參拾餘哩を支線と云ふ又營口より奉天、吉林、齊々哈爾城等の諸驛を経て愛琿河を渡りフノン驛に至りて西伯里鐵道と連絡する約八百哩の線路を西伯里鐵道支線と云ふ又此外に浦潮斯德より寧古塔を経て吉林に於て西伯里支線に合する路線延長約參百四拾哩間を單に連絡線と稱ふ

山東鐵道 此鐵道は膠州灣を起点し濟南府を経て北京に至る線路にして其延長約三百哩ありと云ふ

(内膠州灣高密間)  
約五十哩既成)

○鉄道工事の概況 以上列記したる諸線路の内親しく實踐したる者のみに付き聊か所見を次に述べんと欲す

○天津北京間 此區間は軌道幅員四呎八吋半の廣軌にして復線式なり此線の起点は北京城外馬家堡より起り豊台に至りて芦漢鉄道に合し天津に走り去り昨年事變後は起点を變更し豊台より右折して城の外壁に沿ひ行くこと數哩にして内壁の東隅に至り外壁を破り内壁外に沿ひ遂に門外に至りて止む此地を稱して門外停車場と云ふ(門外とは南大門外を云ふ)此の變更に依りて線路延長六哩を増すと云ふ今此區間に於ける工事の概況を述べんに北京より豊台、儀家店、安定店、等の諸驛を経て郎房に至る間は二三の鉄橋ありて箱桁を架するを見たりと雖も土工に至りては極めて平易にして其多くは數尺の築堤に過ぎず切取と稱するも豊台附近に多少ありと雖も是又數尺に過ぎざる小工事なりとす郎房より落堡、楊村、北倉等の諸驛を過ぎて天津に達する間は此區間中の最低地にして地上常に湛水を以て覆ふ又加ふるに各地より白河に合する運河ありて小舟常に往來す線路は屢々是等運河を横斷するを以て長きは數百呎短きも猶數十呎の橋梁を架すること拾數ヶ所に及び其中に長百尺の「ワレンツラス」を架するを見たり其土工に至りては全部築堤にして高さ所拾數尺あり湛水泥土の土工上困難を極めたる跡今猶歴然たり其最困難なる工事は楊村附近ありしが如し是等築堤に要する土砂は遠く數哩の外より輸送し來るにあらざれば

一面湛水の地一粒の土も得うたきを以て不得止小舟の便を假り線路の左右に深き溝を掘り此の溝より得たる土を以て築堤したるを以て堅固ある線底を得るに至る迄に幾多の困難に逢遇したるや技術眼を以て一見するときには容易に察せ得べきあり此區間は前に述べたる如く拳匪の害を蒙ることあきを以て僅かの修理を施し今日汽車をして安全に運轉するを得せしめしと云ふ

此區間に使用したる「レール」は漢陽製鋼所製造の八拾五磅「レール」にして總延長停車場支線を除き八拾八哩とす

○停車場 此區間に於ける停車場の内天津を除き餘は悉く土匪の害を蒙り當今假設工事にあるが如し其天津停車場の如きは此線路中最大の建築にして諸搬の設備完全せるが如し場内停車場の廣きこと又場内に入る改札場を設けず自由に諸人を出入せしむること此外貨物の出入に場所を制限せず場内各所に於て出入を許しある等口吾内地の鐵道と異り或点ハ英風又或点ハ米風に倣ふと云ふ

場内に鐵道管理部と稱する官營ありて鐵道事務を處理す當時は此鐵道線路軍隊の占領に歸し軍用品を輸送するを目的とし傍ら公衆の便に供すると云ふにありて此區間各停車場に兵を駐め鐵道線路の保護に任す其守衛區域の次第を審かにせずと雖も日、英、獨、佛、露、伊、の列強各々部署を分ち各地に軍旗を翻し屯在するを目撃したり、其運輸事務の如きは從來よりの關係よりして英軍の專管に歸す

○此の區間に用ゆる列車は頭等、二等、三等、の別ありて頭等を稱するもの吾國の二等に比し稍々粗



造にして内部の設備不完全にして一つの敷物を見ず或等は頭等に比し大なる相異を見ず唯多數の旅客混集するのみあり三等と稱するものは無蓋の貨車にして單に支那人勞働者の専用供す

○此區間の賃金頭等米貨四弗五拾仙あり、壹哩約五仙に相當す

○天津山海關間 此區間は廣軌道單線式あり延長百七拾四哩の内三拾哩間に「カメル」製七拾磅「レール」を使用し殘百四拾四哩は悉く全製六拾磅レールを使用す

此區間の鐵道は冬期白河々口水結し北部支那諸物供給の途を止絶するときに當て牛莊、山海關、秦皇島等の諸港より北部支那に向て百貨の供給を爲す樞要の線路にして假令ば人體に於ける食道の如し又此線の中に軍糧城、塘沽(太)北塘、韓沽、芦台、塘坊、胥各庄、唐山、開平、窪里、古治、雷莊、漳州、石門、安山、留守營、北戴河、湯河、の諸驛ありて就中太沽、唐山、灣州、等は此線中最も樞要之地ありとす

○同區間工事の概況 此線中に新河、益河、陵河、秦河、清河、漢河、瀋河、洋河、渾河、榆河、等の諸流ありて長きは數千呎短きも猶數百呎の樁梁を要し壹徑間百呎乃至貳百呎の鐵橋を架す就中北塘の益河又益州の漢河の如きは此線路中の巨流にして何れも其延長數千呎に亘り其工事も又困難なりしが如し、土工事は湯河山海關間に深さ約四十呎の切取工事數拾鎖間ありて稍々工事の大なるものに似たり其餘は悉く築堤工事を云ふも不可なきが如し其天津より芦台に至る間或は各河流の兩岸に於て湛水の地多きを見たり是等湛水地に於ける築堤の高き所拾數呎ありて工世上困難の跡見ゆると雖も余は概して乾

燥せる畑地數呎の切盛相半はし頗る平易なる工事あるが如し

○停車場 此線内に於て停車場の主要なる天津、太沽、唐山、漢州、山海關、の五驛にして其最も旅客貨物の輻湊するは太沽を第一とし天津、山海關之に亞ぐ唐山驛は殆ど線路中の中間に位し樞要の地ありて旅客は太沽の比にあらずと雖も又甚しとせす其貨物の如きは開平炭の本地なるを以て壹日數百噸の石炭を輸送し炭車場内に溢るを見る又加ふるに此地に唐山工廠なるものありて汽罐車、客貨車、及び鑛山用諸器械の製造或は修理を爲す現今此工廠に属する工場新舊二場ありて新工場ハ其規模廣大にして目今器械器付半バを終り數月の内設備完結せると聞く、舊工場は規模新工場に比し狹隘ありと雖も平均一ヶ年左の諸車を製造するに足ると云ふ

○各種十噸貨車、一四六輛。同二十噸貨車、二一六輛。一等客車、一車輛。二等客車、二八輛。緩急八輪車、一〇輛。各種改造十五噸貨車、八輛。同貳拾噸貨車、四輛。

吾等此工場に至て一覽したるとき重量五拾四噸餘の英式ランナー式汽罐車壹輛此地に於て製造したるを見る其構造極めて精巧あるが如し此外猶拾數輛の客貨車の製造に職工數多從事せるを見る吾等聞く舊工場は新工事完成の上は新場に合し大いに車輛の製造を盛にすと云ふ

右舊工場に要する費用の概額壹万四千磅にして鑛業會社へ支拂ふ借地代其他一式の費用なりと云ふ又此工場器械を總括して四万八千磅の價ありと云ふ

○漢州停車場 此驛は前記五大停車場中の最下位にありて旅客貨車の集散多少あきあらざれども敢て記すべき價を見ず然れども此地は漢河の舟便あり又韓退之の生地を以て稍々有名の地にして又夏時外人多く此地に来て暑を避くと云ふ

○山海關停車場 此地は世界に有名なる万里の長城の終点にして清國重要な關門たり其平時にあつては不生産的の地なるを以て旅客貨物の集散極めて少しと雖も其冬期に及んでは白河の水結と全時に百貨此地に積滯し一時盛大ある景況を表すと云ふ然れども船舶の出入する所遠く二哩の外にありて完全なる港灣をあたらず少しく風波ある日に當ては貨物の出入極めて困難にして厘毛の利を争ふ商品は到底其荷揚賃の高に堪へすと云ふ吾輩の所見を以てせば秦皇嶋の築港を早成し以て冬期間出來得べき限り貨物の出入に供し其彌々氷結用をささるる時に當て牛莊港を據るも不可なきなりと信す聞く秦皇嶋氷結期間極めて僅少にして破冰船を港内に備ふるときは船舶出入敢て困難なしと云ふ然れども鑛業會社の人々が計畫する如く一大良港を得ると云ふは地形上許さざるが如し

前記秦皇嶋に至る線路は湯河驛より分岐し其延長僅かに數哩に過ぎずと雖も鑛業會社が自家の石炭輸出に供する小規模の築港を完成するとき今日實々たる湯河驛は他日山海關と地位を異にし繁盛ある大驛と化すべし

○津榆間運輸の主權は北津間と等しく英軍の手裡に歸し列強は兵を派して各地を分守するに過ぎ、此の間に用ゆる列車は北清間に使用するものと全様にして此間の頭等賃金九弗六拾仙にして無蓋車に乗ずる支那人は僅かに四弗なりと云ふ

○北京、山海關間線路の勾配曲度兩つあがら極めて緩にして最大勾配百分の一に過ぎ又最小曲線の半径貳拾鎖に至らざるが如し

○山海關より營口(牛莊に全し)に至る間、此間の鐵道は前區間に等しく廣軌道に於て延長約百七拾八哩半とす此れに使用したる「レール」は「六拾磅レール」なり此線路は内高橋驛より杏村附近に至る數哩間の石炭採掘に供する支線あり又錦州府より義州府に至る參拾哩餘の支線此外此線の本線と稱する新民廳に達する線路高帯子より六拾七哩餘間ありて何れも是等支線又本線の一部の僅かに着手したる跡を見るのみにして未だ完成の域に達せず

此の山管間に於て山海關より錦州に至る七拾九哩間の工事全く成工して線路の地底強固ありと雖も錦州以東九拾九哩間其未だ工事の成工を告げざるに先つて一大洪水に逢遇し線中各所の橋梁悉く破壊し又築港を流失したる所尠からざる等又前設計を變更し橋梁を廣め或は築堤を高くし避溢橋を設くる等の必要を生し爲めに是等新工事に當る場所は假橋を架設し以て本橋工事の場所を避け又高き築堤を用ゆる場合は最急勾配を以て線路を迂回し本線の工事を便にし僅かに列車の運轉を爲すにあり故に是等假設線にはバラストの敷込なく一朝降雨に際するときは低き假線は水中に埋没し列車の運轉を中止せ

ざるを得ず吾が見る所に依れば錦州營口間の線路を完成するには猶數月の時日を要すべし

○山海關營口間工事の概況 此線路中間の諸驛は前所、前衛、中後所、沙河所、寧遠州、連山、高橋、錦州府、大凌河、高子、双台子、田莊台、の拾ヶ所にして其山海關を發して中後所に至る間に於て萬里長城を横斷する處地勢稍々峻嶮にして多くの切取工事あり其深きは四拾呎ありて此區間最も大なる工事とす其前所驛を過ぎて地勢漸く開展し中前所河、凉水河、沙河、中後所河、等の諸流ありて鐵橋を架するを見る又中後所より錦州に至る間は寧遠州に於て寧遠河に架する鐵橋工事の外は工事極めて平易なりとす、錦州より營口に至る間に此線路中稍々大なる工事ありて其大凌河驛の前後に小凌河大凌河の二流ありて就中大凌河橋梁工事は延長千餘呎ありて其橋台橋脚の基礎全部圓形の井戸形をセメント混凝土を以て造り内部の土砂は唧筒を以て換出し井戸形の筒上に重量を載せ漸次沈下するに有て稍々他に異ありたる工事の方法ありとす此方法の所謂「ニウマチックプロセス」にして吾國の如き地震國には如斯混凝土製筒狀基礎の危険なるべし、高橋子双間に西沙河、東沙河、南沙河、の三流ありて夏期洪水汎濫の害甚しく土砂を流出したる跡延長十數里の長きに亘り剝さへ處々に洪水の場所多くありて築堤上の困難甚からざるが如し此場所へ前に述べたる如く本線外に一時假線を設け瀛車の運轉を開始すと雖も一朝降雨に逢ふときは再度破壊の患あるを以て目今數百の人夫を使役し避盜橋及び本橋工事拾數ヶ所一時に着手し又拾數尺の築堤工事を施すを目撃したり如斯工事を急ぐを以て本線復舊工事は數月を

出せずして完成とべし、抑々錦營間の工事は事變前略ぼ成功の姿にありしと雖も事變の爲め又水害の爲め大いに成功の期を遅延せしめたり然れども事變後露國の占領に歸したると全時に露國は前記の如く急速の假設工を施し瀛車運轉を開始し今日の如く東清鐵道と連絡を爲すに至らしめたるものなり

○中後所、寧遠州、錦州府、高橋子、双台子、の五ヶ所に歩騎兵を駐屯せしめ又大砲を備ふ其兵の多き所は六百八少きも猶百人砲各々數門を貯へ以て不時に備ふ其高橋子の如きは煉瓦を以て新築したる兵營四棟あり又病院を建て以て永久占領の計をなると似たり露國の敏捷なる短日月間能く如斯工事を速成せしめたる實に驚くに堪へたり

○停車場 錦州、營口（遼河の右岸牛莊）の二驛を除き他は寂寞たる寒村の小停車場に過ぎず、又錦州は多少旅客貨物の集散ありと雖も其収益は驛の費用を支辨するに足るの外餘利を見ざるべし、營口は遼河の右岸にありて將來有望の地あるは疑ひなしと雖も鐵道の運賃高價に過ぎ何人も鐵道を利用するもの亦く多くは舟運に依て貨物を運送するを以て今日は單に滿州より營口に出づる旅客の乗降に過ぎしめて頗る寥々たる小驛の如し

○線路の勾配及び曲度 勾配の急ある處山海關より前所に出する所にして慥かに七十分一を超へざるべし曲線は半徑貳拾鎖最急とするが如し

○瀛車速力 北京山海關は最速度一時間三十五哩平均二十五哩あるが如く又山海關營口間は各所假設

線路あるを以て一定せずと雖も早きは貳拾五哩遅くも猶拾哩を下らざるべし

○山管間の鐵道の原來英人キャンドル氏の管理の下に在りて全氏の設計に依て工事に着手したり然れども昨年事變以來露國の有に歸し露國人以外の者山海關より以東ふ旅行せんと欲するものハ豫め露國の許可を得又全國官吏より發する旅券を携帶せざる可からず山管間鐵道は今日の所軍隊輸送則ち軍用鐵道と云ふ名義の下に一日一回兩處より發車する者にして列車内設備極めて不完全あり又此間の列車上中下の區別なく悉く三等列車にして軍人以外の乗客に充つるに該車の一隅十數席に過ぎず然れとも支那人の特別に旅券を要することなく自由に往來を許すと云ふ尤も彼等の有益の列車に乘らして無蓋貨車に乘するを常とするが如き此山管間賃金三等四パーセント三拾仙なり

前記北京營口間の鐵道は日清戰爭後軍事上の必要より清國政府自ら布設を企てたりと雖も此れが布設に用する費用の出途に苦み英公使に計り該鐵道全部を抵當として鐵道公債を龍動に於て募集せんと欲せり此時偶々露國の大いに鐵道全部抵當と云ふことに對し異議を供提せし依て該條件を廢し單に鐵道より生ずる收入のみを以て抵當とすることに更め公債を募り英國資本家は數百萬磅の公債に應じ爾來約四百餘哩の鐵道を成功せしめたり是等の鐵道は清國政府と資本家との間に結べる附帶條約に依て工事に要する技師及び金錢出納員は一切英國人を使用したり

今此鐵道の技師長たりし「キャンドル氏」(英國人)に就き親しく問取りたる鐵道工事の談話を左に述ぶ可

し

右キャンドル氏が調査の上設計を立てたる線路の延長總計單線式五百貳拾哩復線式八拾哩にして此の總資本金五千萬弗にして全氏の監督の下に成功したる線路延長四百拾哩又工事中或は未着手に屬する分百九拾哩にして是等に投したる資金四千五百万弗と云ふ其壹哩に用ひたる工費は平均約六万弗ありと此外此等線路に使用する現今の車輛數流籠八拾輛貨車千八百輛客車八拾七輛ありと云ふ

東清鐵道の内 營口、旅順間、外に大房身より大連灣に至る支線並に難過嶺より青泥窪に至る支線

○營口、旅順間、此の區間の鐵道の全然露國人の手に依て建設せられたる鐵道にして軌道巾員五呎、總延長貳百七拾五露里(我が七拾四里二十七丁五拾六間四尺に當る)にして起点を遼河の左岸營口市街を距る約叁哩の河邊より起し本線は大石橋、奉天府、吉林、等の諸驛を経て西伯里亞鐵道幹線に連絡し又旅順に出する大支線の大石橋より分岐し蓋州、熊岳城、三家嶺、尾房窩、瓦房站、普蘭居、三十里堡、金州、大房身、難過嶺、營城子、等の諸驛を経て旅順に達す

線路中營口より三十里堡に至る間は地勢極めて平坦にして耀州河、橋頭鋪河、蓋州河、熊岳河、李官屯河、復州河、樂古河、等の諸流を横切り橋梁を架する長さ三百呎短き五十呎位の工事に過ぎずと雖も其工事ハ假設にあらずして永久の工事を施し居れり橋桁の如きの露國風の鋼鉄桁を用ひ又橋台は角石を、セントモーラーにて築き台の左右の翼壁并に護岸石垣は悉く平面坪壹坪に付き四拾箇内外の割石を以て

築き外見頗る美あり三十里堡より栞古河の流域を溯り金州に出する間の線路山間狹隘の地を通し地勢稍々峻峻ありと雖も線路の測定極めて巧妙狭き山間を右轉左折して隘道若しくは深き切取を除け而かも曲線句配の配置を極めて緩にし實に此の線路中見るべきの所ありとす

金州より旅順に出する間の金州より大房身に至る數哩の間線路海濱に沿ひ又大房身より難過嶺を超て旅順に出する間は地勢稍々峻峻岩を鑿り谷を填むる等の難工事ありて全線中尤も難工事ある場所なるが如し然れども地勢急起急下と云ふにあらず自然上り自然下りと云ふ方なるを以て工事の困難ある割合に曲線、句配、の配置容易ありしが如し

大房身より大連灣に至る間又難過嶺より青泥窪に至る間の二支線工事の難易稍々伯仲の間にありて全体より論し難工事と云ふにあらず寧ろ平易の工事ありとす

以上營口、旅順、間は鉄道線路の通ずる地其兩極端なる營、旅、の二市を除き中間の所謂寒村僻地あして沿線人家を見ざる所拾數哩ありて吾が内地の盛岡より青森に至る間に相似たり故に此線路は沿線地方の旅客貨物は殆ど皆無と云ふも不可あきが如く只東洋より歐洲に通ずる大路と云ふに過ぎざるべし

○青泥窪の大工事 青泥窪と稱する地の廿七年戰吾軍大舉上陸したる大連灣と相對する地にして灣内海上數哩を隔つ世人之を稱して大連灣と云ふ露國は旅順港の狹隘にして商港に通ぜざるを以て特に此地を選び東洋第一の自由港となし東洋より歐洲各國に至る旅客貨物を此地に集り大陸の西伯里亞鐵道

に依て輸送し大いに海運と競争せんと欲する計畫あるが如し其計畫は築港、船渠、市街建築、等の諸工事に表はれ築港工事は一箇のブロック重量貳拾七噸より參拾噸に至る者を造り盛に大起重機を使用沈下中にありて未だ波堤の完全したるものを見ずと雖も其設計は波堤上八筋の鐵道線路を布設し貨物の出入を便にすと云ふ

○船渠工事 大小三ヶ處の設計ありて小あるもの一ヶ處工務局の傍ら陸地を掘下げ已に下部の石積に着手し稍々工事の半ばを終れるを見る此の船渠は一見する所千噸内外の船舶修理に供する目的なるが如し三ヶ處の内大ある船渠は其計畫稍々大にして數千噸の船を修理するに供するが如く又其工事も船渠を水中に築造すると云ふを以て水防堰等の假工事に困難を極むべし

○以上築港用波堤工事并に船渠工事の外拾數ヶ所の波止場工事及び護岸石垣工事等海岸の諸工事ありて此等今後爲すべき工事の費用蓋し數百萬圓を下らざるべし

○前記築港工事を完成したる時は波堤内干潮に於て深さ貳拾八呎を得吃水貳拾八呎以内の大船自由に碇泊するを得ると云

○市街工事 此地市街の設計は歐洲人六十萬を入るゝ丈の地を區劃し市街の中央に一大教會堂を設け市内の道路は此教會堂より四方に分派し(恰も蛛網狀の如し)此の道路の兩側に家屋を建築すると云ふにあり今日の所已に土地均し工事は稍々全跡の半を終り家屋の建築を終り人の入て住するもの二百

軒餘あるを見たり

○道路の築造方は純然たる「マカヤムロード」にして左右に排水渠等完全し吾内地に於て類を見ざる完全の道路なりとす

○家屋は構造階若くは三階にして粗悪の煉化を以て築造し之を塗るよ白土を以てそ其建築風は露國風あり又英、獨、佛、を折衷したる風あり又特よ古代の羅馬風に倣ふものありて建築風一定せざるが如し此等家屋建築工事の大部分は露政府の直營工事にして稀れに個人の建築するものありと雖も建築條例に依て政府と設計の商議を爲さる可からず此等政府の直營工事に關する家屋は總て白地煉化に赤色を染付けたる如き煉化を用ぬ冬期凍害の豫防として白土を以て上塗たる等突進工事を急ぎ材料を選ぶ違なきが如し

茲に青泥窪大々の工事中最も迂遠ある工事の方法貳つありて第一は重量三十噸の築港用プロクを製するに張力一吋平方六百磅ある最良セメントを比較的多量に使用し此のセメント、砂、割石、等を混和するに一つも器械力に依らず悉く人力に依ること

第二は市街土均し土工の坪數を工事着手以前に測定計算することとあり工事施行の後所謂土方流に土標（俗にボウズと云ふ）若干を残し此の土標の高さを測り土坪を計算するものとす故に此等の業に従事する支那人夫は奇貨乘すべしと猥りに丈け高さ土標のみを残し大いに土坪を掠むと云ふ或人吾に語て曰

く是れ露人の慣手段よして決して迂遠にあらず君は一を知て未だ二を知らずと嗚呼

○前記歐州人の住する市街地の外地勢一段低き處に支那街を築造する計畫ありて未だ工事に着手せず聞く日本人は歐人と同一の取扱を受け歐人市街地に住するを得ると云ふ

○吾一行の宿泊したるマルニホテルは此地一等の旅館にして家屋の政府より無料に借受け營業するを以て宿料極めて廉にして一夜僅に貳ルーブルに過ぎず

附記す露國の土坪一坪を一サーセントと云ひ吾七呎立方則ち吾が壹坪五合弱に當る

今明治三十五年度になすべく青泥窪工事の種類を擧ぐれば第一 築港用波堤下地均捨石工事、第二 全用プロク製造工事、第三 二ヶ處の船渠工事、第四 市街地均土工々事（約八万坪）、第五 鐵道停車場切取工事、第六 海岸波止場護岸工事、第七 市街家屋建設工事、第八 市街電燈工事、等諸工事なりとす

十月廿六日晴天稍々冷氣を覺ゆ 此日午前七時芝米に着梶原商店の出迎ボートに移乗上陸の上ピナホテルに投す

此地領事館上席書記高橋氏より午餐の招待を受け午後一時館に至て饗應を受く

此夜郵船支店の大田君三井支店の守田君梶原君等の來訪に接し相共に此地本邦人の設立に係る同志會に至り本邦人十數名來り會するに逢ふ快談數刻の後歸館す

此夜同志會に井上子爵も又出席金子爵は會の趣旨を賛成せられ金五拾圓を會に寄附せられたり  
十月廿七日(太芝間海上約九拾海哩也)

○曇天此日午前中雨少しく降る 芝罘滯在此地三井支店守田市郎氏の招に應し午餐の饗應を受く三井支店は和城泰と稱する呉服店の一部を借受け業を営み居れり芝罘名産絹袖六疋和城泰に就き購入す此夜同志會々員諸氏をビーチホテルに招き晚餐を饗應す來會者六名あり

十月廿八日晴天芝罘滯在 此日午前中井上子爵は此地の守備として港内に繋留中の吾が巡洋艦吾妻号を訪問艦内を一覽せられたりと云ふ

此夜領事館に於て高橋書記生より晚餐の饗應を受く席上に大島艦長長門丸船長笑輪氏等の諸氏あり  
十月廿九日晴天 此日天津より滿州を経て此地に全行せる三井店員笑輪君長門丸に乘し天津に歸る廿六日以来膠州灣行の便船を求め空しく此地に滯在中流船青島号午後三時出帆膠州に向て出帆する報を得早急行李を整へ出帆の時を待居りしが突然青島号は獨逸政府の御用船となり太沽も數多の軍人を乗せ上海に直航し此地に寄泊せずと云ひ或は此地に數時間碇泊するも普通乗客を謝絶すると云ひ青島号取扱店は聞合す人毎に説を異にし其要領を得ざるも郵船會社店支員を以て聞合す第二説の如く普通乗客を謝絶すると云ふを以て井上子爵は大島艦訪問として午前中旅館を出られ吾は午餐後三井支店に至る用事を果して午後二時旅館に歸る室内も名刺一葉あり記するは午後三時青島号俄か膠州灣に

向け發す普通乗客を取扱ふ云々どあり此れ郵船の太田氏我が不在中に來て氏の名刺を残せるなり吾は此の急報に接し先づ行李を港頭に運ぶ準備を為し又一面大島艦訪問中の井上子爵に急報し吾獨り狼狽の裡に時を費し居たりしが幸なるかな三井の守田氏并に梶原商店の大原氏等來て人夫短艇等の雇入を周旋し漸く青島号に向け短艇を漕付けたり干時に井上子爵も曩に發したる急報に接し大島艦のボートに送られ來るも會す相共に本船に移る時に三時十分あり船は吾等の乗船するを見るや汽笛一聲膠州灣に向て發せり此行事餘りに急にしてホテルの仕拂ひ又乗船切符購入等の隙なきを以て此等處分は悉く守田氏に托せり

此行郵船太田氏外も森某全船したり

十月三十日曇天風強し 船之前夜山東角を過る時風波最も劇敷船體の搖動も又甚しかりしも此日朝來風力幾分を減し無事に進行するよとを得て遂に午後七時青島号に着す(青島号の膠州灣の一部なり)着後時餘にして短艇來る直ちに移乗して海邊の棧橋に至る棧橋の近傍寂寥人影なし是れ他なし前夜來天候險惡の爲め何人も汽船の入港を豫期せざりしに依る

全行の太田君は此地に來れること二回能く地理を暗するを以て全君を煩しホテルハイソリヒより人夫を引連れ來て漸く一行の荷物を全ホテルに運び午後十時漸く眠に就くことを得たり(芝罘間海上貳百四拾海哩也)

十月三十一日晴天 此日井上子爵は朝來ホテルを出で上海獨逸銀行代表者シャンブルグ氏を訪問せられ後シャン氏の紹介を以て鉄道築港嶺山等に從事する技師長等と會見せられたり吾は此日終日市街各方面の視察を了し後神戸島内商會支配人毛受氏を訪問す

此夜此地在留の本邦人を招き晚餐を共にす

十一月一日晴天 此日午前中井上子爵は築港事務所に至り技師長より築港計畫の概況を聞取り又實地工事をも視察せられたり

○此の聲シャンブルグ氏を招き午餐を餐す

○午後三時鐵道技師長某と訪問し此地の停車場を一覽せんことを乞ふ技師長某は快諾直ちに停車場在務の技師某に施吾等を紹介する親書を認めたり則ち書を携へ停車場に至り技師某の案内を以て場内の設備より獨逸製の汽鐘車、貨車、客車、等の構造を逐一視察の後場を辭してホテルに歸る此日を以て青島市街視察の要務を終れるを以て午後九時出帆の汽船膠州号に搭し上海に向ふ

今此地獨逸の經營に係る事業の一搬並に吾が視察の要を左に述べんとす

抑々膠州灣の地たる去る明治三十年中山東省に於て獨逸耶蘇宣教師暴徒の爲め慘殺せられ其賠償として獨逸政府は膠州灣及其近傍を九十九年間占領の權を得後明治三十一年三月中北京條約を制し山東省全部を獨逸勢力範圍と定め膠州灣の一部青島を起点とし膠州府を経て濟南府に至る鐵道五百キロメ

トル(約三百哩)間の布設權を得又此鐵道線路の沿線左右貳拾キロメートルに亘る區域内に於て嶺山の採掘權を有すること此外他國が此種の事業を企つる場合には之に對する第一の發言權を有する事加之支那政府自ら省内に於て鐵道嶺山等の事業を起さんとするに當て若し資本機械及技師を要するの場合には第一に獨逸と議り之が供給を受くべきものと等の特權を有す

獨逸政府は以上の事業に對し充分ある保護金を獨商に與へ大いに獎勵の策を取れり前記青島は此等事業を經營する本據地にして官衙銀行各種の商店皆此地にあり青島市街は人家約五六百軒ありて多くの獨逸人ありと雖も支那人の自ら歐風の家屋を造り外人に貸渡し或は自ら商戸を張る者數多あり要するに獨逸の政略は露人が旅順大連を於て爲せる御祭的政策にあらずして極めて質素に秩序を逐ふて業を進め市街の擴張も自國の資本によらず支那人を誘導保護して支那人の資本を以て家屋の建築をさせしめ漸次市街の膨脹を計るが如し聞く膠州府は巨大なる清商數多ありて彼等は巨万の資金を青島市街經營に投じつゝあると云ふ(附記す此地地價壹平方メートル墨銀八拾仙より壹弗五十仙迄なりと云ふ)

○築港工事 此工事の方法は露國が青泥窪(一般に稱して大連灣と云ふ)に施せるフロン沈下法と異り巾約壹呎の且形鉄を以て箱形の基礎を造り内部に石塊を填充し以て干潮面以下波濤の防禦に供し干潮面以上拾數尺の間は普通の石積工事を施すにありて當時前記基礎工事に着手し約百餘間の間石塊の波上に表出せるを見たり



○鐵道工事 此工事は已に青島より高密に至る百九キロメートル間完成し建築列車運轉の傍ら一日一回一搬乗客を取扱ふ今此區間の停車場を擧げ左の如し

驛名	距離	三等賃金
四方倉口驛	貳拾キロメートル	貳拾 仙
趙村	參拾キロメートル	伍拾 仙
陽城	參拾五キロメートル	六拾 仙
南泉	四拾九キロメートル	八拾 仙
藍村	五拾九キロメートル	九拾 仙
李野莊	六拾四キロメートル	壹 弗
大荒	七拾五キロメートル	壹 弗拾 仙
膠州	八拾參キロメートル	壹 弗貳拾 仙
大行	九拾キロメートル	壹 弗參拾 仙
莊蘭	九拾五キロメートル	壹 弗四拾 仙
莊野	百零壹キロメートル	壹 弗六拾 仙
高密	百零九キロメートル	貳 弗

(總て膠銀なり)

以上の鐵道は軌道巾員四呎八吋半の廣軌式にして壹噸七拾磅のクランプ製レールを使用し又枕木は鋼鐵製のものを使用す(吾確井鐵道に使用)此外瀋鐘車、客貨車、等の獨逸製最新式の物を採用せるを見る鐵道工事に使用する材料の内セメント鐵材は悉く獨逸より輸入し來れると雖も木材は最初の計畫の悉く日本より供給を仰ぐ筈にありしが長崎より此地に來れる一商人此等木材の賣込を企て栗枕木壹丁の價四圓九拾錢電柱壹本の價參拾五圓の積書を鐵道部に差出したり然るに鐵道當局者は此の法外なる高價に驚き枕木の悉く鋼鐵製壹丁の價五マール(貳圓五拾錢に當る)の物を採用することにせりといふ如斯恐鈍なる一商人の爲めに一時は日本人の信用を落したりと雖も今日は島内商會の如き確實なる商會來て此地に商業を營めるを以て稍々以前の不信用を回復し石炭、材木、セメント、等の諸品を購入するに至れりといふ

聞く所によればセメントは大阪セメント會社製造のもの最も信用ありて壹樽の價五圓五十錢に賣捌け獨逸製セメント輸入途絶の場合は壹樽六圓五拾錢に賣行くといふ(但し獨逸セメント壹樽六圓五拾錢に當るといふ)此外檜材の賣捌き頗る好況を呈し末口八寸より尺、長九尺、十二尺、取交せ尺、壹本價八圓以上に賣行くといふ

此地は日本人の商戸を張るもの前記島内商會を第一とし次は大阪人矢島春子(獨逸人に嫁し夫に)といへる寡婦日本雜貨店を開き商業を營み漸次繁盛に赴くといふ此外二三の雜貨店を開くものありと雖も

儘かに炊煙を擧げ居るに過ぎず猶前記商業者の外長崎方面より来て女壯士を養ふ者數名ありといふ此等強業者の爲め眞正の商業者の迷惑最も甚しと嗚呼

獨逸政府の太沽、芝罘、膠州灣、上海、等の諸港を往復する汽船會社も莫大の保護金を與へ大いに航海業を獎勵す此れ會社に屬する汽船三艘あり曰青島号、膠州号、山東号此等の汽船は何れも千五百噸以内の小汽船にして就中青島号を以て最上とす運賃芝罘より青島迄上等三拾弗青島より上海迄參拾五弗あり此外臨時日本より木曾川丸其他二三の小汽船石炭を搭載し來れることありと雖も何れも千噸未満の小汽船にして一ヶ月二三回の往復に過ぎずといふ

獨逸が此地に巨大の資金を投し築港鐵道等を築造するといふも必竟山東省に跨れる廣大なる石炭礦を採掘し兼て自家東洋艦隊の供給を爲し猶進て東洋の市場は日本炭と競争を試みんと欲するにあり

十一月二日晴天 海上極めて平穩此日終日船中にあり

十一月三日晴天 此日午前六時頃海水の俄かに黃濁ふ變するを見る此れ楊子江より出する濁水の然らしむる所なり船の楊子江口へ入て徐行するふと數時にして午後一時上海黃浦河々邊の棧橋に着て此日は實に吾が 至尊の一佳節(天長節)に相當するを以て川内へ碇泊する軍艦商船皆滿艦飾を爲し以て敬意を表す此地吾駐屯軍練兵場も川邊にありて船上より數多の國旗幟幕の風に翻り此理も正裝せる軍人諸君の來往せるを見る吾等も船上より手巾を擧て遙く敬意を表せしも距離遠く吾意は先方に達せざり

しが如し

吾一行の棧橋に着る以前より上海三井支店長小室三吉氏は店員一名隨へ來て吾等を待つ井上子爵は正陸するや否途上ふ於て服裝を禮服へ更め小室氏と相共馬車に乗し兼に船上ふ於て見たる練兵場に至る場内各所に小屋掛をなし洋酒を供へ以て客を待つ今井大隊長以下の將校皆正裝して參賀者に應接を餘興として兵士の相撲、壯士芝居、あり又内外人の參賀者相交り共に談笑此の佳節を祝する者數多あり實に盛大なる會なりし

吾等一行場もある時餘にして辭して小室氏の私邸に至る全氏の好意によりて吾等滯上中郎も寄泊することとせり此夜小田切領事歸朝不在の故を以て領事代岩崎三雄氏の名を以て天長節夜會の招待状を受く依て午後七時領事館に至り夜會に列するの榮を得たり開會は先て岩崎氏は此の一大佳節を祝する祝詞を述べ續て 至尊の万歳を三唱す衆皆此れに和す後食卓に着き午後十一時滿酌歡喜和氣鷲々の裡に散會し各々歸途に向ふ此夜餘興として壯士の劍舞あり茶番あり又判じ物の陳列品ありて招待を受け來會する者實に貳百餘名に達し頗る盛會なりし

十一月四日 (膠上間海上約參百八拾海里也)

晴天此日朝來井上子爵は三井支店員小幡雅文氏を通譯として鐵路大臣盛宜懷氏に會見盛氏は此日醇親王接待に多忙を極め爲めに子爵と會談少時翌日の再會を約し相別れり此日午後領事館郵船支店、正

金銀行支店、三井支店、等を訪歴し前日來訪の答禮をよむ

十一月五日晴天 此日朝來井上子爵は前日の約を履て小幡氏と共に盛氏を官邸に訪問す盛氏は子爵の英語に通ずる故を以て黃子元といへる英通譯者を以て會談々話の要領は例の鉄道談にして鉄道布設を民業とするふと又吾國の鐵道技師を雇聘するの利益あること又子爵は自家鐵道の經歷を述べ子の經驗よりして國の富強は實に鐵道にあること等にして盛氏は此等の勸誘談に對し簡單に賛成の意を表したりと雖も察するに盛氏は心中此の勸誘に服せざるが如し以上の談話を終り別れに望み吾等漢陽製鐵所視察の爲め此夕上海を發し旅程よ上ることを告ぐ盛氏は製鐵所管理の任にありて事業の經營に最も苦心せり故に吾等の該所視察は大いに盛氏の喜ぶ所にして氏は子爵に向て歸途再び會見し該製鐵事業の付き意見を聞かんことを求め併て吾等該所視察の便を計り製鐵所々長盛某(盛宜懷氏の甥)に向け電報を發すべしと云へり

吾盛宜懷氏の人とありを見るに年齢五十歳前後にして一見頗る柔和の人なるが如きと雖ども氏の眼底一種の光を貯ふ邊老翁の氣鋒窺ふべし氏は清國官吏中開化黨の一人にして歐州文明の何物たるやを幾分解するが如し又氏は物質的文明事業の衝に當り居るを以て常に歐米人と交際し器械購入其他外人傭聘等の時に當て暗約上の掛引最も妙を得て氏の財産常に富裕ありと云ふ然れども氏は暗約上の利益を割て北京内廷權勢者間に散するを以て西太后の御信任最も深く氏の位置頗る堅固なりと云ふ彼の剛直

を以て鳴る劉坤一、張之洞、二氏の如きは盛氏を頗る嫌惡し往々衝突とることありと兎に角盛氏は清官中の一人物たるが如し

盛氏の邸を辭し歸途此地競馬場を過く時恰も競馬中にありて觀客の群集とるを見る

此日午後より小室氏の案内を以て上海黃浦河の對岸にある上海ポイド船渠會社に至り器械工場及び新設船渠を見る後上海製紙場に至り作業の景況を見る此の製紙會社は英國人の合資より成れる者ありと雖ども工場器械の設備等万搬の設計は元王子製紙會社々長大川平三郎氏の考案にして此の事業全歸日本人の所轄に歸し森某技師長とあり多くの日本人を使用して業を營めり故に英人は單に資本家として監督するに止まると云ふ大川氏の名譽吾國の名譽又大ありと云ふべし歸途此地碇泊の赤城艦を訪問す此夜三井支店よ於て小室氏發起者とあり全支店員諸氏と共に支那料理の饗應を受く

午後十一時小室氏外拾數名の店員諸氏よ送られ漢口行汽船瑞和合に搭す(上海漢江間上等船賃三十兩則ち四拾壹弗半)

十一月六日晴天 船は午前三時上海を發し黃浦河を下り吳淞に至り楊子江に入る江は東洋第一の巨流にして眼界廣潤僅に兩岸を望み水流緩々自ら大陸の眞裝を表せり船は江を溯り通州、江陰、泰江、等の諸港に寄泊し午後六時鎮江に達す鎮江は人口二十有餘万を有する大都會なり特に此地の新開港場あるを以て諸搬の設備完全せざると雖ども此地の對岸より杭州楊州を経て北京よ通ずる大運河ありて水運

上至要の地にして商業益々盛大の域に進むと云ふ

○十一月七日晴天 船は進て拂曉午前六時頃南京に着す南京城は江邊の棧橋を距て遠く陸地にあるを以て船の着する所鎮江の如く繁盛ならずと雖も城内の所謂明朝の首府應天府にして府を圍繞せる城壁は幾々百哩に亘り三十餘尺の樓門墻壁天に聳へ其結構の宏大莊嚴儘かに明朝の盛時を追憶するに足ると云ふ此外王安石の居跡曹彬の古戦地等勝地古跡ありて文人墨客一顧の價値かよありと云ふ

南京の當時江蘇省の首都にして總督劉坤一氏茲に駐在す南京を出て江を溯る數時にして蕪湖に着す此地は鎮江南京に劣る數等ありと雖も江岸一帯の地沃野千里に亘り河陸の産物少からざるが如し

十一月八日天候溫暖 船は大通、安慶を過ぎ九江に至るの前數時前面に江勢俄かに相迫り兩岸に砲臺あるを見る又暫くして江中一小嶋の屹立せるものありて危岸水に臨み嶋上に堂宇を建つるを見る此れ有名なる大孤山の奇景にして其風景快絶真一一幅の文人畫を見るの觀あり大孤山より九江に至る間に江の兩岸に名地古跡數多あり就中江の右岸紫雲栗里に陶淵明か歸去來の辭を作たる古跡あり又李伯か詩中に稱揚したる五老峯の景あり亦飛瀑を以て名ある香爐峯の勝地ありて四時の勝景一ツとして具はざることなく其風趣の閑雅幽邃ある雅人騷客をして徜徉願望去る能はざらしむと云ふ之れより明細ある山水を送迎して午後二時九江に着す九江は長髮賊の根據地を以て有名なる地にして往古白居易が琵琶行の賦ありしも又此地にして古來より有名の地ありしも屢々兵燹に罹り一時衰頹の域に陥りしが都

陽湖の咽喉を扼し水運上樞要の位置を占むるを以て今日其衰勢を回復し商業稍々活氣を帯ふるに至れりと云ふ此地は陶器の生産地を以て其名四方に高し船の夜に入て黄石港に着す港の武昌より大冶縣に至る要路にありて船舶の出入頻繁なりと云ふ

世に有名なる蘇東坡の赤壁賦は黄石港より黃州府に至る間に於て蘇子一夜清遊を試み江中の風色を録したるものにして眞の赤壁なる地は遠く江の上流遠く貳百哩の上にありと云ふ黃州附近に東坡の居跡又春申君の舊都ありて散策の資に乏しからずと云ふ

十一月九日晴天 氣候頗る暖かあり船は午前十一時漢口に着す領事館書記生古谷氏大坂商船の末永兩氏輿を以て出迎ふるに會す相共に吾が領事館に至る午餐の饗應を受け後古谷氏の案内に依て漢口市街を觀察す市街の道路極めて狹隘に去て馬車人力車を通する能はと僅かに一輪車を通するに適す此の狹隘なる道路の左右兩側に商家軒を並べ又其家の前に露店を張り以て食品雜貨を商ふ其雜沓不潔言語の外にありて此市街に住する人民は長江の水を酌て飲料となす其水黃濁の色をなし明礬を以て沈澱蒸溜するにあらざれば飲む能はず聞か所によれば本邦人の此地に來て住する者必ず一回は水毒の爲め一種の皮膚病を患ふと云ふ居民は終日此の飲用水の酌上げに煩勞し晴天と雖も水桶より漏るゝ水の常に道路面を濡れ放尿と相和し臭氣紛々道を歩むに堪へず路傍に一ツの大廈ありて衆人の休息を充つ此れ所謂支那の茶店にして茶菓の外輕便なる食物を賄ふ吾等此家に入て三層樓の一室を占め茶菓を喫す支那

人は多く此家に集り商業上の相談をなすと云ふ此家は漢水に臨み又遙かに武昌の黃鶴山を望み其風景甚だ佳なり市街の一巡を終り英國居留地を過ぎ佛租界に出でグラントホテルに投す此夜古谷氏を招き晚餐を共す

十一月十日 (上海漢口間六百五十哩也)

晴天午前中井上子爵は白耳義人ルウソウ氏を訪問す午後より相共に芦漢鐵道停車場に至り場内線路布設の状況より工場の設備を見る停車場建物或はプラットホーム等の設備は全く英國風あり線路布設は枕木の上にチニヤを置き其上にレールを載す吾が京漢間に於て一たび採用したる如き舊き英國風を採用せり此外汽鐘車客貨車セメント等の諸材料の悉く白耳義より輸入し吾等が視察の當時獨逸汽船アーノルドライケン号より枕木及び鐵材の陸上げを長江を邊に於てなせるを見る

此の芦漢鐵道は北京城外芦溝橋より保定、開將、信陽を経て漢口に通する鐵道線路にして北京方面は佛人建築の衝に當り漢口方面は白耳義人に擔當に屬す

抑々芦漢鐵道たるや佛白レンコケットが此の鐵道に投する資本金四千万兩を引受け鐵道に要する材料及び技師職工に至る万擲の供給をなし前記の如く佛、白、協力して此鐵道を完成し此の鐵道より生ずる収入金より前記資本金に對し清國政府より年四朱の利息を得るにありて佛國は北京方面より着手し已に正定府に至る百六拾餘哩間の鐵道線路を完成し白耳義は漢陽より河南省の信陽府に向け着手約百

五拾餘の建築を終り猶進て五拾哩間の建築工事進行中にありて前記百五拾哩間近日運輸の業を開始すると云ふ此鐵道兩方面を合し參百哩餘を完成し猶五百哩餘の未着工事あり此外線路中一大難工事たる黃河橋梁工事ありて未だ其架橋の場所すら測定を了せず其豫算も又知りがたしと雖も聞く所は依れば此橋梁工事のみにてても壹千万兩以上を要すべく今未着工事大跡の工費は猶は數千万兩を要すべしと云ふ然るに最初豫算四千万兩は前記三百餘哩に對し己に遺果し僅かに五百万兩を残すに過ぎすと云ふ此鐵道前途甚だ危きが如し

茲に嘆息すべき一事あり夫は此の芦漢鐵道に用ゆる客貨車の鐵棒等は漢口の對岸なる漢陽製鐵所に於て充分堅固なる鐵棒を製造し得べきも條約に依て此等材料は自國製のものを使用せんと能はず遠く歐洲より高價ある物を輸入し徒に所謂佛、白、政府の御用商人の囊中を肥し自國の製鐵所は益々逆境に陥り收支相償はざる業のみを爲し滅亡に近けるが如し

以上停車場の視察を終り旅館に歸りルウソウ氏に茶菓を饗し午後六時氏と別れ此夜旅館に安眠す

十一月十一日晴天 此日吾八幡製鐵所より大冶鐵山鐵礦検査の爲めに特に分遣されたる技師西澤公雄氏石涯橋より來て吾等を鐵山に嚮導せんとするに會す此日午前十時漢陽の製鐵所視察の豫定なるを以て午前八時西澤、古谷、兩氏と共に旅館を出て小舟に乘し漢水を溯り漢陽製鐵所に至る曩に上海盛宣懷氏よりの通知あるを以て特に副所長李氏出て吾等を迎へ場内に導けり場内一巡の末所長盛氏より午

餐の響應を受け午後三時場を辭し之れより柏牙臺に至り伯牙の古琴を彈せし跡を見る後大別山に上り萬王廟を訪ふ此の山頂より雙眸を放てば漢陽、漢口、武昌、悉く指顧の中であり又遙かに東南の方を望めば襄陽隆中山下に諸葛武侯の舊跡あり西南の方長江を臨て武昌の黃鶴山を望めば山頂吳の孫權が築きたる夏口城あり東北には梁の武帝が駐屯したる梁城ありて四邊の風景遠大心氣を快活にし大いに旅情を慰めたり山を下り晴川關に出て再び小舟に乗じ長江を下り商船會社支店に立寄り新造船大貞丸を一覽し旅館に歸る此夜此地在留の本邦人諸氏を招き晚餐を共にす會するもの西澤氏外五名あり

○製鉄所視察の概況 漢陽製鉄所は大別山の東麓にありて北槍砲廠に隣す東は漢水に沿ひ南長江を扣へ上海上流六百五拾哩の所にありて其構内長七百五拾間幅百貳拾間ありて明治貳拾四年中湖北武昌の總督張之洞氏五百五拾万兩の資金を以て創立す工場全部の設計は白耳義のシンロケット、コックローネ社トラング社引受け機械は重に英國ミドルズボロー・サイド社製を採用し明治貳拾六年中大跡の工事を終り作業を開始したりと雖も收支相償はず爲めに一時中止せしが貳拾七年中獨乙銀行より運轉資金若干を借受け再び業を開始し在來の白耳義技師を解雇し獨逸技師に代へたり（八幡製鉄所技師トツペ氏は此時支那にありと云ふ）然れども獨逸技師の暴狀專横を極め張氏の忌憚する所となり終に張氏は自家の貯金を以て獨逸より借受けたる資金を返還し獨逸技師を悉く放逐し再び白耳義技師ルハートン・ロート氏を聘し業を繼續し來しが明治廿八年に至り再び張氏は維持に苦み外國に賣却せんと計りしも

北京政府の禁する所とあり遂に招商局及び鉄道局其他の官人等が盛宣懷氏を長とし半官半民の株式會社を造り此の事業を引受けたり此時前資金に指百万兩の増資をなし（百万兩の内五十万兩は）事業を繼續し來れると雖も會社は政府に向て税金として製作高壹屯に付き壹兩を上納せるを以て事業上の損失と合し毎月貳万五千兩内外の損額に達すると云ふ

○張之洞氏此製鉄事業に付自家の蓄財參百万兩を失ひたりと云ふ

○製鉄所に荷揚場二ヶ所あり一つは漢水の邊にあり他は長江の邊にあり前者を東碼頭と云ひ後者を南碼頭と云ふ南碼頭に川中ハルク一艘を浮べ陸上よりインククラインを以て連絡を付け以て礫石、石灰、骸炭、等の運送に供す東碼頭は單に莽郷より來れる骸炭或は湖南地方より來れる石炭の荷揚場に供す長江荷揚場と製鉄所との間に地平鏡道及び高架鏡道の設けありて何れも廣軌道式なり高架鏡道は高さ參拾呎長貳百廿呎の棧橋式なり荷揚場に於て礫石を積入たる貨車は汽鐘車に依て棧橋上に運はれ全所に於て焙燒爐内に落ちむものぞす（但し今日は焙燒を使用し焙燒爐の用を爲さず）單に礫石の散乱を恐れ使用するものあり

○製鉄所を別て五種の工區をなす

第一 高爐部及び分析所

第二 鍊鉄部及び「フレイト」及び「バーミル」部

第三 「シーメンズ、マーチン」製鋼部

## 第四 ベスマ製鋼部及びレール製造部

## 第五 機械場及び煉化部

○第一高爐部 高爐は英國式二座ありて現今一座のみ使用す此高爐の礫石を變して銑鉄となすべき物にして高さ六拾五尺外徑廣き所貳拾四呎九吋内徑拾六呎ありて容量九拾噸の出銑を必ずに足ると云ふ煖爐是は高爐一座に付き三座を要す故に煖爐六座ありて高さ各々五拾五呎外徑貳拾呎燃室の直徑六呎あり其周圍の耐火煉化を以てす今日の所高爐一座に付煖爐四座を使用す内三座は瓦斯を送り一座は送風に使用す送熱時間は六時間煖爐を熱し貳時間空氣を熱する割合にして空氣の溫度攝氏八百度内外なりと云ふ

銑鉄床 高爐中に於て溶解せる鉄湯は爐口より鉄床に流込み床に設けある鑄型に入り棒狀となる装置ありて鉄床の廣さ縦百呎横六拾貳呎ありて鑄型六拾列拾二段に區劃し總數七百貳拾本あり之れを貳回に分ち交代に使用す鑄型長三呎四吋上巾四吋半下巾三吋高三吋の棒形をなす

送風機はシリフランド式三對あり蒸氣力を以て廻轉す空氣壓四百シリマイル廻轉六拾より七拾迄唧筒フランツヤ一式四箇ありて高爐冷却に使用すシリンダー徑七吋ストロク六吋廻轉三十九

蒸氣罐八箇ありて長三十尺徑五呎氣壓四拾封度是は前記送風機及び唧筒運轉の爲め此の設けあり

\*イスト是は高爐と高爐の中間ありて蒸氣力を以て礫石、石灰及び骸炭を高爐に送る爲め使用す一

回の揚卷ふ廿秒を費すと云ふ其高さ八拾八呎四吋にして鑄棒の長さ貳拾貳呎半與行十八呎七吋にしてケーマ十一呎六吋あり

焙燒爐四座あり其高さ各々貳拾參呎徑拾七呎四、是は硫黃多き礫石を焙燒するに用ゆるものなりと雖も今日の處使用せず

骸炭製造爐「ローピー」式にして毎爐貳噸入三十六ありて七拾貳噸の「コーン」を製造するに適と

## 第二鍊鉄部「プレート、バーミル」

鍊鉄爐の總數十八箇あり此の「ハース」の大きさ長四呎巾四呎八吋の略圓形をなし毎裝入ふ貳百五拾キロの鍊鉄を造り得廿四時間に十二回の裝入をなし得べしと云ふ爐數拾八箇の内六箇は再熱爐を併用す爐は四箇を以て一組とす各爐より出する火焰は之れを中央に集め鍊鉄用の諸器械を働かす動力機に送る蒸氣機重量三噸のもの二臺あり

鍊鉄用「ロールミル、ドレン」二對ありて長四呎八吋の「ローラー」二段あり

再熱爐其形反射爐にして大小五箇ありて大は其ハース長拾貳呎七吋巾四尺のもの貳箇小は長七呎四吋巾四尺のもの三箇あり

バーミル長五呎三段のローラーよりなれるもの貳組あり

プレートミルドレン鍊板の製造に用ゆるものにて長四呎八吋及び長五呎半のもの貳組ありて貳段の

ローラーを備ふ

ロールミルを動かす蒸氣器械直立單筒(氣筒二十五吋ストロック 四十二吋馬力八十馬力)壹台外にプレートミル及びパーミルを動かす蒸氣器械壹台ありて徑十八吋ストロック三呎十吋馬力百馬力を備ふ

此外鍊鉄剪斷機械壹臺あり

以上列記の諸器械にして棒鉄徑四分一時より徑五吋のものを製造し又平鉄板長五呎及び角鉄「スパイク」「フニユプレート」等を製造す

第三シームンス、マーナン製鋼部

此の製鋼法の原料を銑鉄及び屑鉄より重に取リて之れを反射爐に於て石炭ガスを燃料としリセチレイトルフリンシプルにより高熱を起し以て製鋼するものにして製鋼爐壹箇あり其のハースの大き横六呎六吋縱拾貳呎の楕圓形となし百回の装入は堪ゆ一回の装入して製鋼し得べき量拾噸ありとす此爐に付屬するウキルン式リセネレイトル四個及び瓦斯發生竈四個あり此外「フエロマンガ」を熱する反射爐一箇を備ふ

第四「ベスマ」製鋼部及び「レーン」製造部

此の製鋼法は銑鉄を熔礦爐に入れ溶解し之れをコンパターに注入し之れに又フェロマンガ屑鉄石灰等を混入し送風の作用により鐵湯中の不純物を去り鋼鐵を變ずる方法ありとす

右に要する熔礦爐三箇ありて長貳拾貳呎徑四呎容量拾貳噸半あり此の爐中より出する鐵湯を樋を以て「コンパター」に送るものとす

コンパター大さ高拾呎大徑七呎六吋小徑四呎ありて容量五噸なり

送風機二臺ありて「コンパター」に空氣を送るに供す

水壓機械二對ありてコンパター及びインゴットを動かすに使用す

レーン製造部 前記のベスマ鋼を再熱爐に入れ再熱の上之れをレーンミルに送り引延しレーンとなすべきものにして此のレーンミルドレンの裝置頗る巧妙を極む

再熱に要する反射爐四個ありてハースの大き四呎八吋に奥行八呎十吋四分の三ありて每爐十二箇のベスマ型鋼を入れるに足る

レーンミルドレンハ貳段のローラーを有するもの三組ありて其長各七呎あり型鋼は此のローラーの作用によりて六回レーンミルドレンを通し最終のドレンを通し始めて完全のレーン形を成すものあり

此レーンミルを動かす蒸氣機械は頗る強大にしてマンマンパウンドシリンドル式にして小氣筒徑貳呎三吋大氣筒徑三呎五吋ストロック六呎三吋馬力貳千五百馬力を有す

此外鐵條切斷器械一台、鐵條矯曲機械二台、鐵條穿孔機五台、プレーニング機四台、鐵塊切斷機一台、等の諸機械を備ふ



以上歴記の銑鐵及び諸鋼の分拆を擧ぐれば左の如し

白 銑 鉄	硅酸 均平	マンガン	磷	硫黄
ベスマ鋼	全 一、五〇二、〇	全 一、〇〇一、五	全 〇、〇九	全 〇、〇一
マーチン鋼	全 全 〇、五〇一、〇	全 一、〇〇五、〇	全 〇、〇三	全 〇、〇一
スピイゲル	全 全 一、五〇一、〇	全 三、〇	全 〇、〇一	全 〇、〇五
フェロマンガ	全 全 一、〇	全 三、〇	全 〇、〇一	全 〇、〇二

○右分拆表は百分率にして硅酸外三種元素の外鉄ありと知るべし  
○骸炭分拆表左の如し

萍郷産 灰分二〇、 硫黄 〇、五、 磷 〇、一  
開平産 灰分一二、 硫黄 〇、五、 磷 〇、〇〇二

○銑鉄及び諸鋼製造方を擧れば左の如し  
銑鉄八拾噸を鑄造するに鉄鑛百貳拾噸、石灰石百四拾壹噸、骸炭百貳拾噸、以上の三種を高爐に装入すべきものとす

ベスマ鋼八拾六噸を鑄造するに銑鉄九拾六噸、マンガン壹噸四百キロ、石灰石參噸、骸炭拾六噸以上

の四種を混和し數回に分ち熔爐に装入すべきものとす

シーメンス網拾噸鑄造するにスピイゲル鉄七百キロ、銑鉄千貳百キロ、レール屑四百キロ、屑鉄三千六百キロ、石灰石參百キロ、フェロマンガ九拾五キロ、以上六種なりとす

○銑鉄及び諸鋼の製造費并賣價  
銑鉄製造費壹噸に付廿二兩より廿八兩迄 (賣價不明)  
ベスマ鋼製造費壹噸に付參拾四兩 (賣價不明)

鋼鉄レール(壹ヤード八拾五磅)製造費壹噸に付六拾五兩にして此の賣價壹噸五拾五兩每壹噸に付拾兩宛損失の割なり

骸炭、萍郷産壹噸に付拾壹兩、開平産拾六兩にして何れも漢陽荷揚渡しの價なり  
鉄鋼石及び石灰石大冶鉄山より漢陽荷揚場迄の運賃を込め壹噸の價各々貳兩あり  
今前記銑鉄諸鋼及び練鉄壹ヶ月間平均製作高を聞くに左の如し

銑鉄鑄造高 一日九拾噸とし壹ヶ月貳千七百噸、(但し一日は一晝夜を指す)  
ベスマ鋼 一日八拾噸とし壹ヶ月貳千四百噸 (全)  
シーメンス鋼 一日三拾噸とし壹ヶ月九百噸 (全)  
レール 一日百噸とし壹ヶ月參千噸 (全)

以上製鐵所視察の要件中特に數量を表せるは視察中井上子爵と副所長李氏(李氏は頗る英語に熟達し會談中總て英語を用ゆ)との間に數拾回の質問應答あり吾傍らに在て之を筆記したるもの或は吾直接に李氏に質問せたるものなり又此外小室三吉氏令弟一雄氏の製鐵所視察日記を参照し分拆表或は器械構造式の名等は悉く該日記より取れり

(附記)製鐵所に従事する人員約八百名内歐人技師四名定雇職工參百人書記九拾名人夫五百人

技師長俸給年俸壹万四千四百弗副技師長月給七百弗定雇職工月給貳拾五弗以下不明

十一月十二日晴天 溫暖春の如し去る九日漢口に着すると全時に吾が領事館を介して武昌の張之洞氏に會見を求め此日午前十時會見の承諾を得たるを以て領事館通譯片山氏并に西澤技師等と共に輿に乗して武昌に向ふ輿は色別けを以て乗者の身分の程度を示す井上子爵は淡綠色に乗し片山通譯は薄紫西澤技師は紅吾は無官の太夫あるを以て黒色に乗し正々堂々行列を造り長江を渡り武昌に至り市街の一端ある關門を過ぐる頃騎馬武者一騎砂塵を擧て來れるに會す該武者は張氏の吾一行の爲めに特に斥候を出せるものあり武者は吾行列を見るや否一鞭駒を引返して去れり暫らくして張氏の親兵拾數名來て吾等輿邊を護れるを見る之れ張氏が吾等を尊敬して特に護衛兵を附せるあり吾生れて以來未だ嘗て外國に於て而かも總督より護衛兵を附せられたる事なし然るに今此の大榮を受く吾が裏天は表天と變し歡喜雀躍思はず輿邊を叩けり一行は諸人の視線に送られ遂に張氏官邸の門前に着す先列の一兵士は大

聲吾等の御着を報せり門は聲に應して一文字に開けり依て一行は乘輿の儘正門を過ぐれば洋式の兵士は門内左右に正列して捧銃の禮をなせり須臾にして中門を過ぎ便門に至れば張氏以下數名出て吾等を迎ふ茲に於て輿を出て張氏の先導に依て應接の間に至り互に禮讓するふとありて席に就く井上子爵は開口一番初對面の挨拶をなし續て例の鐵道談に及び會談約貳時間を費したり談の要は盛宣懷氏に勸誘したる事項に外ならずと雖ども張氏の鐵道民業論の如きは時勢に照し絶對的不可行の説なるが如し張氏は製鐵事業を一旦自家の管理に在りしを盛氏に移したりと雖ども近來該事業に附帶する大冶鐵山鐵礦日本に賣捌け大いよ好況を呈するを見て再び自家の掌中に該業を移さんと欲し大冶鐵山の買収に着手したりと云ふ此故に氏は井上子爵に向て漢陽製鐵事業は再び氏の管理に歸すべきことを明言し併て該製鐵所の沿革を説き又其維持に困難したる過去談を繰返し終りに該事業を移して外人清人の協同事業となすの可否を尋ね又維持法に就き他に良法あるやと其維持策を求め子爵は該業は清政府の監督の許に技師長を歐洲より聘し以下の技師は日本人を使用するの可なるを忠告せり之れにて談は難談に移り互に年齢を尋ね張氏は六十五歳と云へり又張氏は吾を指して何者なるやと尋ね子爵は子の秘書官と答へたり以上の會談は總て張氏の孫某通譯の任に當り兩者の間に立ち能く其通譯をなし一言をも遺すことなく兩者に其意志を充分交換せしめたる技能多く其比を見ず儘かに今代の一人物なるが如し聞く氏は未だ日本に來遊したるふと無きに關せ能く日本語を解し而も子爵の快辨數十分に互り其復雜

極る談話を一つの誤譯なく通譯したるには流石の片山氏も舌を捲て驚嘆せり

張之洞氏年齢六十五歳なりと云ふと雖も顔色憔悴氣色暴らす國事を患ふる事深き故ありと知るべし氏の容貌の所謂童顏にして幾分仙氣を帯ぶ丈け高かき肉肥あらざる邊名を一世に轟かしたる豪傑とは見受け難し張氏の邸を辞して後張氏顧問武官平林大尉を訪ふ時恰も平林氏の同僚の一武官の妻君病を毘て死し其葬式あるに會す吾等も同武官に吊詞を述べ出て歸るに臨み兼て張氏より護衛として吾等に附隨せしめたる兵士に謝金を與ふべしと或人より忠告を受け金四弗を兵士一同に與へたり吾曩に護衛兵を付せられたるを喜びたるも今忠言を聞て大いに驚ろきたり是れ他ならず彼兵士は張氏より特に命ぜられたるにわらず單に彼等は自れの小遣錢を得んが爲め云ば商賈的に附隨せるものありと故に謝金の額少き時は彼等の暴言罵倒至らざるを幸と是れ清國漫遊中第二の失策談ありとす

此夜ホテルを出て領事館に於て晚餐の饗應を受け後商船會社支店に至り大貞丸に在る、全會社を長中橋氏を訪問會談少時去て漢陽石涯橋間に使用する礮石運搬用引船楚富号に便乗し西澤技師と共に石涯橋に向て長江を下る時午後九時なり、附記す中橋氏は漢口、宜昌、線航路視察の用を果し上海に下らんとするにありと聞く

今茲に長江一帯の視察を終れるを以て前記視察記中に遺漏せる事項を掲げんとす

○漢口の長江筋第一の要港にして清人の所謂四大鎮の一あり人口約八拾万あり四川省に出入する百貨

此地に集り商業頗る盛大あり此地の特産物は粉茶にして多く露國に向て出すると云ふ漢口の西に漢水を隔て漢陽ありて鎗砲廠に連發銃を製え又銃政局に製銃所あり又南に長江を隔て武昌ありて人口約貳拾五百万を有す總督府又武昌にありて張之洞氏茲に駐在す

○長江航路の内上海漢口線あり又漢口宜昌線ありて共に汽船を通するに適す上海漢口間に大阪商船、シャデンマヤソン、パタフィイルドスワヤ、招商局、グリブス、マクピンス、ハンボルクアメリカンの八汽船會社ありて始めの四會社を四大公司と唱へシャデンを第一とし大阪商船之に繼ぐ大阪商船は上漢間に大貞丸大享丸大利丸の三艘を使用し何れも二千五百噸内外の大船にして就中大貞丸を以て長江航路中の最上船と云ふ漢宜間に大元丸大吉丸の二艘を使用す何れも千八百噸内外の大船なり

前記上海漢口間上等船賃三十九弗より四拾壹弗の間にあり  
宜昌に現時長江航路の最極地にして上海より壹千哩の上にあり今若し四川の重慶或は成都に至らんと欲せば一度び宜昌に於て汽船を下り更に支那形船に乘し江を溯らざるべからず江水の増減に依て遅速ありと雖も二十日乃至七十餘日を費すと云ふ聞く重慶は上海より千六百哩の奥にありて四川の百貨此地に集り將來有望の地ありと

○総論 長江一帯の地の所謂英國勢力圍籠之中心にして上海、鎮江、南京、九江、漢口、の諸港は商業全く英人の手裡の在りて就中上海漢口の如きは英人巨大の市街を造り宛然英國領の觀あり英國に續

て勢力あるは佛獨にして白耳義は其以下にあり日本は是迄無勢力最下の位置にありて漢口居留地の如き草莽々として一つの人家を見ざりしが近來大阪商船社會日本政府より壹ヶ年參拾六万圓の補給金を得て長江に汽船の往復を開始したるを以て近來本邦人の續々此の方面に來て業を營めらる者あり彼の安田氏が漢陽の製糸場買入又大和の土倉氏の鐵山採掘權を得たる等は儘かに日本勢力膨脹の一現象として見るべきなり

十一月十三日（漢口石涯柝間七拾八哩也）

晴天船は午前六時石涯柝に着す直ちに八幡製鐵派出所に至り茲に暫く休息朝食を終る時に臨時列車來て吾等を大冶鐵山に導くと云ふ是れ曩に漢陽製鐵所視察の際所長盛氏に鐵山視察の企を告ぐ故に盛氏は特に鐵山總辦に命し吾等優待の爲め列車を發せるなり又總督張氏も等しく吾等の鐵山視察を聞き大冶縣知事も命じ吾等の爲め特に護衛兵數名を附せり此外鐵道線路保護として此地に駐在せる大尉某も又兵十數名を卒し來て吾等護衛の任に當る吾一行は多數の兵士に護衛せられ午前九時石涯柝を發し鐵山に向ふ途次列車は給水の爲め拾數分間下陸驛に停車す依て此地に設けある礦石檢量器を見る器械の装置の貨車に礦石搭載の儘重量を量るものにして頗る巧妙の器械なり

列車は再び進行を始めて鐵山に向ふ車中大尉某に此地の兵制を聞く大尉の談によれば吾國の如く常備兵の設けなく一度兵籍に入て用なきときの家に入りて壹ヶ月壹兩半の給與を受け又用あるの日兵營に入る時は壹ヶ月六兩の給與を受け食物は自辨なりと云ふ

列車は午前十一時鐵山礦務局を距る數丁なる鐵山舖驛に着す直ちに礦務局に至り總辦解茂承氏に面會して鐵山視察の來意を告ぐ解氏は技師長獨人フィリップ氏に命じて吾等を鐵山に導かしむ先づ鐵山舖より始めアーモークン、沙帽子、龍洞、等を歴巡して再び礦務局に歸り解氏より午餐の饗應を受くフィリップ氏は解氏と不和なるの故を以て此席に來らず病と稱して自邸に歸る席上井上子爵の全行せる西澤技師松田通譯の勸めに隨て解氏に額紙一面の揮毫を乞へり解氏に如何なる文字を認めて可なるやと問へり子爵は願くは「人事在壯時、老朽不爲用」と認め呉れんことを乞ふ解氏は老成なる大人に向て如斯失禮の文字は認めがたしと斷り結局子爵は子の令息の爲め書き呉れんことを求め漸く承諾して耕耘在春時、勿晚秋云々（吾能く文字を記憶せず）の文字を額紙に認めたり其筆勢如躍實に近世の能書家なり

此席上午餐の時老酒の饗應を受け皆快酔したり子爵は冷水を乞ふて飲むこと數回解氏以下清人座に在る者皆驚き目を翫て子爵を視る子爵は其故を西澤氏に問ふ西澤氏は清人一般に冷水を用ひざる習慣なり故に然りと子爵は諧謔一番吾曩に美酒佳羹の爲め大いに飲食を大いに渴す故に今水を乞ふ所以あり是れ蒸氣罐に水を入れ火を以て熱し其熱度の高き時に當て水を注入せざれば氣罐の破裂する等しく吾も又飲酒過度吾腹中の破裂を恐れ冷水を注入するにあらずと衆皆大いに笑ふ

午後三時解氏に別を告げ再び汽車に搭し獅子山に赴き採礦の景況を見る獅子山は雌雄の二山に分れ諸

般の設備完全し數百の工夫業に従事し鉄山中最も盛大なる所あり此山は鉄山舖より東北數哩にありて盛洪驛に於て本線より分岐して行くこと貳哩あり

獅子山の一巡を終りフィリップ氏と別れ再び汽車に搭して石涯柝に歸り製鉄派出所に入て先づ温浴を取り旅塵を一掃して後派出所員諸氏と晚餐を共にし後全上諸氏に送られ午後十時小舟に乘し石涯柝を發し黃石港を溯る江流極めて迅速にして進行甚だ遅緩あり船は漸くにして十四日午前一時黃石港に若し漢口より下れる汽船大貞丸を待つふと二時間餘にして大貞丸に移乗し直ちに船室に入て眠る

#### ○大冶鉄山視察の概況

大冶鉄山は湖北省武昌府大冶縣の北部に在りて東の方山勢長江に亘り西資南湖に臨む一帶噴火岩よりあれる山脈なり其高海上千三百五百尺の上にありて山中所々に石灰岩を見る鉄床は噴火岩と石灰岩との間に表れ全山一ツの樹木を見ず皆兀山あり長江々邊石涯柝より鐵道十八哩にして鉄山舖と云ふ所あり礦務局を茲に置く

大冶鉄山は下陸山、康山、雌獅子山、雄獅子山、シンペー山、白楊林、龍洞、ペーシー山、沙帽子、ターモークン、鉄山舖、康中、頂上田、磨坑王三面、等の諸鐵山を總稱するものにして内雌雄獅子山外五ヶ所丈の鐵礦量水線上約壹億万噸ありて拾四山を悉く合算するときには猶數千万噸の鐵量ありと云ふ其鐵床の種類三ツありて一は磁鐵礦、二は赤鐵礦、三は褐鐵礦なりとす

今此の鐵山の沿革を考るに始めて鐵礦採掘に着手したるは遠く春秋戰國の世にありて世に所謂干將莫邪の劍は此地に於て製出したるものにして古來有名の地なりしが後暫く廢坑の姿にありしを中古唐代に至りて再び採礦冶鑄を始め近傍の森林を亂伐燃料とせしも遂に燃料の欠乏を告げ廢坑したるが如く鉄山舖附近に此の時代に冶鑄したる鐵屑山を爲すを見る其後星霜を経るに隨ひ居民も鐵山あるを忘れたりしが近世に至り張之洞氏は史上に於て此地に鉄山あるを知て技師を派遣し遂に大鉄山を發見し今日の盛大を極むるに至れりと云ふ

鐵山の内沙帽子ターモークン、ペーシー山、白楊林、龍洞、等の諸山は今日は礦中燐の含量多き故を以て一時中止の姿にありて今日尤も盛かんに採掘中あるは雌獅子山、雄獅子山、シンペー山等の諸山にして其他は試掘中或は未着手中なりと云ふ吾八幡製鉄所に用ゆる原料は獅子山の鐵礦にして明治三十四年中十萬噸廻送の豫定にて視察の當時西澤技師の談る處に依れば壹噸三兩半の割合を以て己に七萬噸を購入し本國に廻送濟なりとす

○鐵道及びインクライン 鐵道は石涯柝より起り下陸、盛洪、を経て鉄山舖に至る本線延長拾八哩又盛洪より分岐して獅子山に至る支線貳哩あり此の建設費六十万兩線路の最急勾配七十分一曲線最小半徑五百呎なりと云ふ(附記す軌道巾員四呎八吋半の廣軌道レール五十貳封度を使用す)

インクラインの設備は鉄山舖より龍洞間約半哩あり又獅子山よも數百呎のインクライン數ヶ所の設備

ありて採掘したる礫石はインクラインを下て輕便鐵道に移り再びインクラインに依て棧橋上に出で橋上より貨車に落し込み此れを流車に依て運搬する仕掛にして獅子山の礫石は地面に表露し採掘方恰も切取の岩石を割取るが如く頗る容易なりとす

製鉄業に必要なる石灰石の滿山至る所にありて採掘頗る容易なりとす

○運送方の礫石を拾噸積貨車に積込み之れを六輪タンク式流罐車(重量貳拾貳噸)を以て運搬し鐵路石涯桁に至り同所に於て四百噸積達磨船に轉載し小蒸氣船を以て漢陽に運ぶものとす我國に送れる礫石は石涯桁に於て棧橋に依て直ちに大流船に積込ものとす此の運送船は夏期は四千噸内外の大船を使用するとを得べく又冬期は貳千噸内外の者より使用すること能はずと云ふ長江の水層夏期と冬期の差高さ四拾呎餘ありと云ふ

獅子山より石涯桁迄礫石運搬賃壹噸に付銀壹兩

石涯桁より漢陽迄礫石運搬賃壹噸に付銀壹兩

但し石灰石運搬賃も礫石と全賃金なりと云ふ

今獅子山礫石の分拆表を擧ぐれば左の如し

鐵	六三、七	硅酸	四、九	マンガ	〇、三二八
アルミナ	一、一五	磷	〇、〇八四	銅	〇、〇二五六

硫黃 〇、一四九

採掘費坑夫一人一日礫石採掘運搬二百「キロ」とし土除火藥其他一切にて壹噸の價貳百五十文則ち壹弗七拾五仙に當る

十一月十四日晴天 前夜深更船に搭し一眠の後午前十時起出て食堂に至れば中橋社長、千浦監督(商船)詩伯國府屏東、三井三池支店員間嶋氏等船に在りて互に談笑此日を送れり

十一月十五日天氣極て晴朗 船の將に南京に着せんとするに先つて下等船客(支那人)一名誤て流に落ち溺死す

船の鎮江に着するや上等(特別)船客一同上陸して市街を視察す

十一月十六日晴天 午前十二時上海虹口ある郵船會社棧橋に着す此時已に小室、御酒本、兩氏來て吾等を迎ふ子爵は上海道台より日本駐在公使に榮轉し皆午後二時發の西京丸に搭し赴任の途にある公使蔡氏を船中に訪問し又アストルハウスに滯泊中ある郵船副社長加藤氏訪問の後再び小室氏の私邸に寄泊吾も全邸に寄泊することせり

此日午後三時より小室氏と共に馬車を驅て佛租界を巡視後上海駐在裁判長英人ウィルキンソン氏邸に寄泊せる英公使サトウ氏を訪問す

此夜上海第一と稱する四馬路に至り夜景を視る街路稍々暗き處白鬼の潜伏せるを見る

十一月十七日晴天 井上子爵は盛宣懷氏をアストルハウスに招き先約の鐵道製鉄事業談を試みんと欲し三井の小幡氏を以て盛氏に出席を求め氏は熱病を以て療養中にありて終に會見を果さず子爵は朝來加藤氏訪問吾は小室氏と共に上海電燈會社の發電所を見る

此夜アストルハウスに於て盛氏通譯黃氏、大貞丸船長(英人)中橋社長、吉野、赤城、兩艦長、郵船永井氏郵船支店長林氏、岩崎代理領事、張正金支店長、小室支店長、其外三井支店員數名を合せ貳拾貳名を招き晚餐を饗應す

十一月十八日雨大いに降る 井上子爵は晝後より此地ジャデンマツン支店に至り支配人某を訪問是は子爵が今を去る三十八年以前國禁を犯し伊藤侯爵井上伯爵等と共に國を脱し英國に渡航の途次暫く此地に在て前記ジャデン支店の保助を受け無事渡英したる恩を謝せん爲めの訪問にありて前記此事歴を述べて支配人に恩謝之挨拶を爲されたり又全支配人に向て全會社が支那政府より鐵道布設權を得たる南京漢口間の鐵道線路に就き少く質問されたるも全支配人は人を遇する道を知らず頗る横柄に頗る冷淡に子爵を虐遇し質問に向て一つも答ふると無く刺さへ事務多忙の故を以て子爵を逐拂はんとせり子爵は特別禮を以て彼に接するに彼れの暴狀子爵をして頗る不快の念を懐かしめ後英公使と會見の時子爵が此の不平を漏せるを聞けり

此日午後四時子爵は大貞丸新造初航海の祝宴會に臨まれたり

此夜代理領事岩崎氏の招に應じ領事館に至たり晚餐の饗應を受く席に吉野正副艦長并に中橋氏外紳商(本邦人)十數名來會せり

十一月十九日曇天 井上子爵は英公使サトウ氏南京行を見送られ午後より郵船永井氏の招に應じ支那料理の饗應を受けられたりと云ふ

此日上海を發し香港に赴き更に全處より廈門に引返し台灣に渡航の豫定にありしが上海視察の用務を果さるるを以て香港行を見合せたり

此日吉野艦を訪問して艦内を一覽す

十一月廿日晴天 井上子爵は此夜林、張、二氏の招待に應じ上海第一と稱する支那料理店に赴かれ此の席に於て李伯慕下に此人ありと知られたる廣東の紳商劉學詢氏其他怡和洋行主某等在上海の紳商(支那人)數名に面會せられ就中劉氏は巨万の資産家として知られ又卓見なる文明的事業者なるを以て子爵と會談中往々人の意表に出する卓説明文も尠からず兩氏の意氣相投し懇談百年の交あるが如し子爵は午後十時宴を辞し小室氏邸に歸られ室に入て眠に就かれたる後夜半起て便室に赴けたり此家は純然たる洋館にして便室の入口に開き戸あり子の内に入て錠を鎖せり須臾にして再び錠を開き外に出てんと欲するも錠は堅く鎖されて動かす子は種々工夫を凝し戸を開かんと煩悶苦心すること時餘夜半の寒風凜烈肌を刺すに堪へず遂に子は窓より助を呼べり然れども夜半の高聲は四邊に憚ることあるを以

て子の苦心察すべきなき子に薄き寝衣の儘便室に立往生は子に忍びざる處遂に意を決して高聲家人を呼ぶ事數次漸く一人の家僕(支那人)來り然れども家僕は日本語を充分解せしむ夜半不意の出來事に驚き戶外にあつて周章爲す所を知らず子は内に於て煩悶戸を叩き以て用を知らず僕は漸く愁を了し外より鉄棒を以て戸の隙間を押開き漸く内部にある鍵を戶外に出し戸は家僕に依て開かれ子は無事に此の檻禁の難を逃れたり是れ漫遊中第三の失策談なり

十一月廿一日晴天 井上子爵は朝來劉學詢氏を訪問し前夜來の懇親を暖め會談數時にして別を告げりと云ふ

午後二時より吉野艦の茶話會に臨場艦内に於て正式の兵士操練を見る

此夜子爵は加藤氏の招に應し或紳商の別荘に於て支那料理の饗應を受けられ午後十時歸邸

吾一行は上海視察の用務を果せるを以て此夜十一時小室邸を辭し招商局汽船富美号(洋名ペンクルーザー)に搭し南清に向ふ此時小室氏并に山本三井新支店長を始として店員十數名來て吾行を送る

吾一行の上海に滞在すること前後九日にして此間小室氏邸に寄泊せり家長小室氏は故小室信夫氏の令息にして少年の時長く英京龍動に在りて英語を能くす歸朝の後三井物産會社に入り上海全支店長として八年有餘在勤能く部下を督し又電火一閃能く商機を洞察し嘗て商略を誤ることなく三井をして日本のチャタマシソンと云はしむるに至れり吾氏と交はる今回を以て始めとすと雖も吾等に接する極め

て温厚篤實人として敬慕の念を生ぜしむ氏の内政は好對の賢婦にして吾等滯邸中懇切至らざることをよく其敢て飾らずして從容人に接する所人をして敬服せしむ

小室三吉氏は此際上海を去て英京龍動支店長に榮轉し一度歸朝の上任に赴くと云ふ氏の後任山本氏は已に來て事務引繼を了し支店長として執務中あり

此日を以て中央支那の視察を終れるを以て該視察の要領を左に述べ併て上海視察の概況を記せんとす  
○中央支那とは江蘇、浙江、二省より長江沿岸各省を指すものにして支那帝國中通商貿易の一大要部に於て支那の富源此の部にあり就中長江筋は通商の一大幹線殖産の一大機關を備ふ英は夙に見る所ありて商權を擴張し長江沿岸各地に商家を構へ殆ど商權を掌握し他人の入るを許さざりしが近來英商チャタマシソンが杭州より寧波を経て温州に至る鐵道又南京より長江の右岸に沿ひ安慶に於て長江を渡り長江の左岸に沿ひ河南の信陽に至て芦漢鐵道に連絡する鐵道又上海江甯鐵道江甯襄陽鐵道蘇州鎮江鐵道等の諸鐵道の布設權を得或は長江沿岸諸鐵道の探掘權を得る等英國權勢の澎漲甚しきに依て佛、獨白、の諸國此の區域に來て商權を争はんとし佛、白、合資會社は芦漢鐵道に又佛國は東京方面より漸次四州省の高原に於て英國と覇權を争はんとす日本國も今日此方面に着目し運動を開始したりと雖も未だ隆盛の域に達せず我政府の保護充分ならざれば將來の發達見込なきが如し

長江沿岸諸省の内湖北、四川の二省最も鑛山に富み湖北に鉄礫石炭あり四川に砂金、石炭、石油、等の諸



鑛山ありて清國中最も殷富なる所あり四川省の首都を成都と云ふ。二國時代の蜀にして成都は實に支  
 德皇帝の居城あり

#### 上海市街視察概況

上海ハ江蘇省黃浦河々岸に位する支那諸港中の最大要港にして内は揚子江水運の咽喉を扼し外は歐米  
 の諸港と聯絡を通じ百貨の集散極めて頻繁汽船帆船の一去一來するもの日に幾千あるを知らず故に上  
 海の商況は支那全國の商況を占ふに足る上海市街を分て六區として第一を中央市區、第二を佛國市區  
 第三を西部市區、第四を北部市區、第五を東部市區、第六舊城内市區とす  
 第一、第三、の兩區は英國人の居留地第二區は佛人居留地第四第五の兩區は獨逸外數國の雜居地にして  
 第六は固有の支那市街ありとす

中央市區、佛國市區の兩區は高樓大廈碧瓦鱗次し又市内の道路も車道人道の區別をなし平坦清潔一見  
 歐米市街の觀ありて我日本國中に上海の如き所を見ず日本人の多くは中央市街或は北部市街に住居し  
 人員千餘名ありと云ふ

第六支那市街は道路極めて狹隘不潔尿水道路に流れ惡臭鼻を衝き長く此の市街にゐるに不堪  
 以上の六區の人口約八拾万ありと云ふ

上海北部市街より吳淞に通ずる鐵道拾數哩あり此鐵道は最初支那人に鐵道の利便を知らしむる爲め見

本的に布設したる者にして元より收益を打算したるにあらざ故に乘客貨物頗る僅少にして維持困難な  
 りと云ふ

十一月廿二日晴天 船は午前六時招商局棧橋を發し廈門に向ふ船中廈門英國領事某外にデンマーク人  
 某全船す子爵は領事某と對談中領事は長く支那に在留せるを以て暗に支那通を諷せり子は直ちに其幾  
 年在清するやを問ふ答て三十餘年なりと云ふ如斯長く支那に在て猶領事の職にあり君の如き老朽用を  
 爲さず速かに歸國せよと子爵は喝破せり領事は呆然とし又云ふ所を知らず

十一月廿三日晴天 極めて溫暖あり終日船に在て記事あり

十一月廿四日天氣朗晴又溫暖あり 船ハ午後七時廈門本嶋に着す領事官補芳澤ホートを以て吾一行を  
 出向ふ相共にコロンヌ島在領事館に至り子爵は館に便泊余ハ旅館山崎屋に投泊す本領事館は當時領事  
 上野專一氏福建總督廈門方面巡回に付て出迎として福建に赴き不在代理領事事務を見る

十一月廿五日(上海廈門間海上約五百七拾海哩也)

晴天溫暖恰も初夏に似たり 此日午前中廈門本島三井支店に至り全支店員某に導かれ市街を巡視す  
 午後より井上子爵は此地保護の爲め碇泊せる軍艦須磨、龍田、の二艦訪問

此夜上野夫人より井上子爵を主客とし須磨龍田二艦長并に領事館員一同の夫妻を陪客として日本料理  
 の饗應あり子爵は此饗宴に先つて長州風の押鮎を手製し食卓を賑はせり此鮎ハ來會中の婦人方の稱美

する所とあり子は大いに面目を施せり

十一月廿六日晴天 此日午前中廈門道台を訪問午后一時派船大仁丸(大坂商船所有)に搭し台灣淡水港に向ふ此時前記道台某、洋務局長某、外に須磨、龍田、貳艦を始めとし本邦人拾數名來て吾一行を送る此地東亞書院來原氏全船す(廈門淡水海上約百九拾海哩あり)

十一月廿七日晴天 午前九時半淡水着税關の取調を受け後吾一行を出迎へる澤井市藏氏と共に小舟に乘し淡水河邊にある大和屋方に至り午餐を喫す此時台北より長谷川鐵道技師長并に平岡寅之助の貳氏來り迎ふ相共に淡水發十二時五十分れ列車に投し台北に至る井上子爵は兒玉總督を別邸に訪問後鐵道部官邸(佐藤技師の官邸)に投泊す

此夜鐵道部員の組織に係る俱樂部に至り全部員と食卓を共にす俱樂部に玉突亭等の備ありて部員の來て共に談笑遊樂の場所に供すと云ふ

十一月廿八日(淡台間鐵路十參哩あり)

雨天此日朝來兒玉總督來て子爵を問ふ

子爵は午後台北を出て北投に至り松濤園に投泊

十一月廿九日雨天 午後に至て晴る子爵は北投滞在吾は此日午前六時台北を發し渡邊技師と共に鐵路新竹に往復して工事を視察す

十一月三十日(台北新竹間四拾四哩餘なり)

晴天 此日午前台北を出て台南神社參詣後北投に至る此夜松濤園に於て鐵道部官員諸氏を招き晚餐を饗し午後九時四十分發の汽車に投し一同台北に歸る

十二月一日晴天 此日午前十時官邸を出立し兒玉總督官邸に至り午餐の饗應を受け後總督以下鐵道部諸氏に送られ午後二時台北發の列車に乘し基隆に向ふ

午後四時台南丸に搭す船は午後五時基隆を發し歸途に向ふ長谷川技師長以下數名來て吾行を送る  
十二月二日、三日、(台北基隆間十八哩也)

右貳日間は天候大いに荒れ風波頗る高く船牀の搖動極めて甚たし

十二月四日晴天寒氣頗る強し 船は此日午前中門司着の豫定にありしが前日來海上風波強き爲め遅延して午後三時門司に着す子爵は直ちに馬關に上陸春帆樓に投泊余は門司に上陸石田屋方に投宿舊友木嶋氏に會す

十二月五日、六日、晴天 此日朝來門司を發し八幡製鐵所に至り工場内を一覽す井上子爵も又來て一覽せるに會す子爵と共に小泉技師并に書記官某と場内は俱樂部に於て午餐を共にす後吾は子爵と分れ黒崎に至り中央セメント會社工場を一覽す即日門司に歸り此夜馬關春帆樓に至り子爵と會し席に安永技師九鐵運輸課長某あり午後十一時四十分馬關發の瀛車に乘し大坂に向ふ途次福山驛に下車し親族矢島

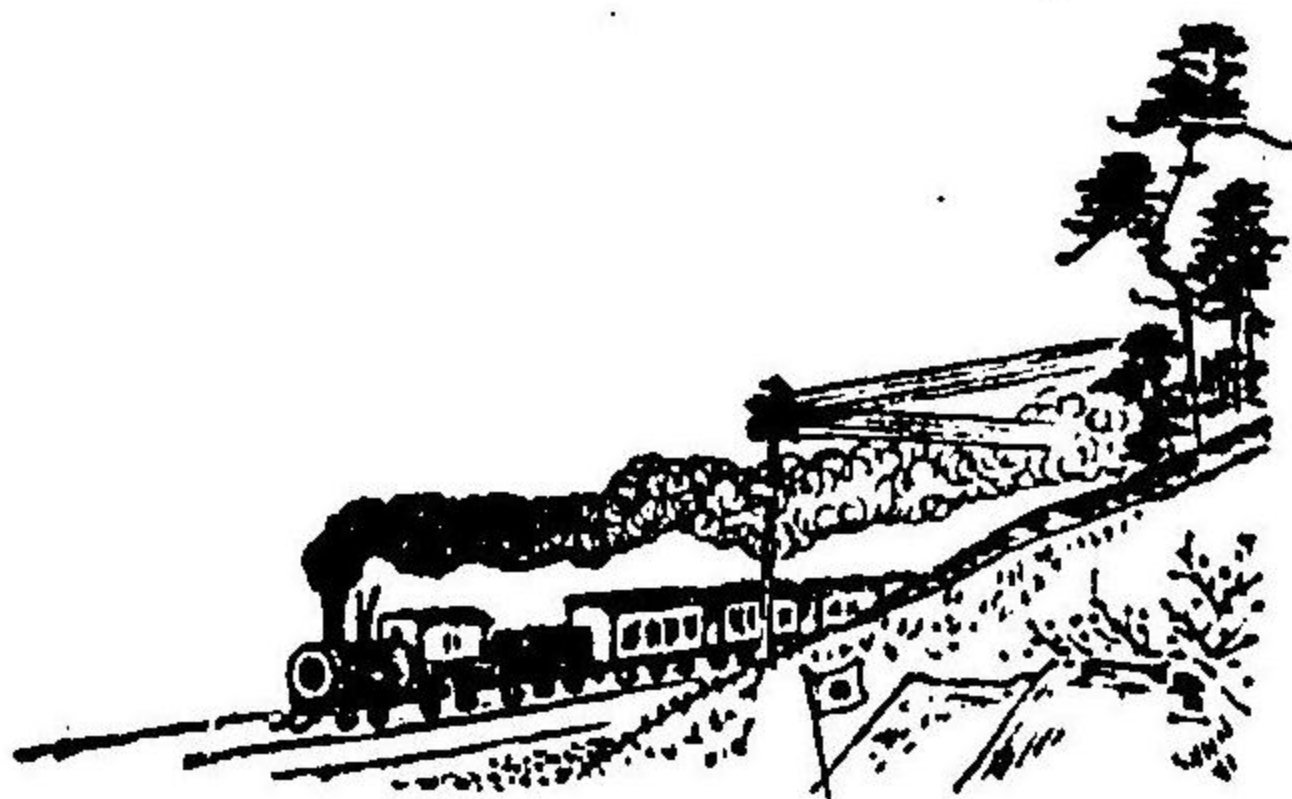
氏を訪問氏の内政と共に十二月六日午後四時福山を發し午後十時大坂に歸着す  
茲に清國漫遊を終れり然れども南清、台灣、及び八幡製鉄所視察中少しく記すべき事あるを以て左に述  
べんとす

南清に於て我國が支那政府より福建省不割讓の特約を得たる以來此方面に向て國人の着目するもの多  
くありて吾知人吉川三治郎并に小川資源の二氏が前後して厦門を起点とし一つは漳州に至る鐵道線路  
又他は福州、延平、韶武、南康、を経て九江に出ずる線路又延平より河口鎮口を経て杭州に至る線路を踏  
査せしを始めとして續々彼地の探見に赴くものありと聞く前記二氏の報告書を見るに河口鎮口杭州に  
絹及び茶の産物ありて鐵道線路を布設して收益の見込あるの外韶武附近に無煙炭ありて炭質炭量兩つ  
ながら將來見込を屬するに足ると云ふ其餘は論するに足す就中厦門福州間の地質中生層の堅岩して農  
産物鑛産物兩つながら皆無と云ふも不可なき最貧地ありと云ふ列國は滿州北清中央支那に向て爪牙を  
磨き地下の寶庫を開かんと躍躍せるに不關我國は榮襄の仁を學ひ最貧の福建省不割讓を以て甘き所  
大いに大國風ありと云ふべし

台灣 余は台灣の一部台北を視察せるのみなるを以て全肺の評を下しかたしと雖も賢明なる兒玉總督  
敏腕ある後藤長官ある在りて治績大いに揚れるが如し一時は台灣と云へば一つの寶庫の如く思想し冒  
儉家或は無資力者皆此地に集り此地の經財界を攪亂し此の小天地を暗黒の裡に葬りしが此等の徒は失  
敗失意相重り遂に疑獄とあり或は脱走となり今日の漸く此の徒の姿を認せと昔日の晴天とあり諸事正  
路に就けるが如し就中鐵道事業は長谷川技師長赴任以來氏の精勵勩勉經營宜きを得て今日は完全なる  
鐵道線路百貳拾餘哩あるに至れり

八幡製鉄所  
製鉄所工場設備万搬の製鉄事業一覽書に詳かなるを以て茲お掲げすと雖も今此れを  
清國漢陽製鉄所と比較するに其規模の大なる殆ど漢陽の三倍(漢陽九万坪)あして其製鉄製鋼部製  
品部の諸部に於て器械の精選最新なる原動力に流力水壓力の外電力を用ゆる等到底全尺を以て論す可  
あらずして彼の我より劣る數等の下にありと雖も其作業上の熟練は到底彼れに譲らざる可からず彼れ  
は創業以來十餘年の星霜を経過し我は漸く業を始め日最も淺きを以て職工の不熟練は勿論にして此れ  
を彼れに比較して論するは元より酷なり然るに近來此の製鉄事業に付世上は物議を挾むものあり此等  
の徒は未だ事業の何物たるかを知らず座上の空論に過ぎすと雖も若し愛國の精神を以て論するもの  
あれは之れに對し辨し置かんとす夫は他ならず世間の物議の中心たる製鉄事業は最も困難なる事業に  
して高爐に入る、骸炭の如きは最も精選を要すべきものありと雖も吾國內に於て未だ善良なる骸炭  
を見ず故に不良の骸炭を使用すること又職工の不慣に依て世上の不評を招きたるが如し聞く漢陽製鉄  
所は屢々失敗したりと雖も今日は善良の銑鐵を出すに至れりと云ふ我國人も始より當局者を責むるこ  
となく少しく時日の經過を待たば他日吉報に接することあるを斷言するものなり

以上の日記は筆に任せ不文を不願紙を汚したるを以て文章の脉を欠くこと多きは勿論ありと雖も事實の相違せることあらず幸に教示を垂れ賜はんことを切望す



明治三十五年四月二十日印刷  
明治三十五年四月廿五日發行

編輯者兼  
發行

士族

井上清介

大坂市北区堂島裏  
貳丁目七十番屋敷

印刷者

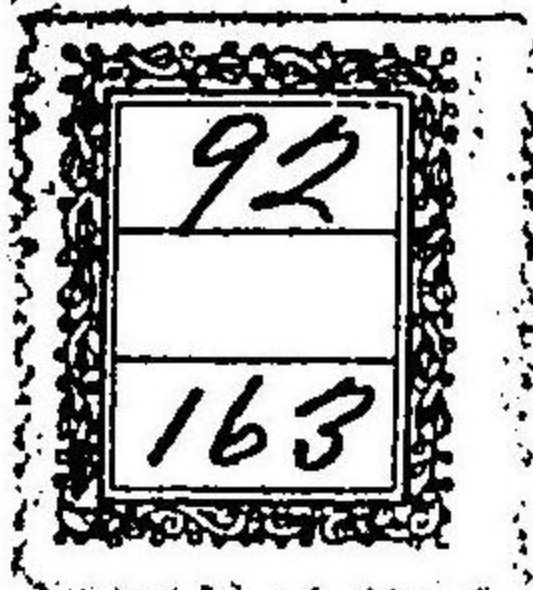
中村信太郎

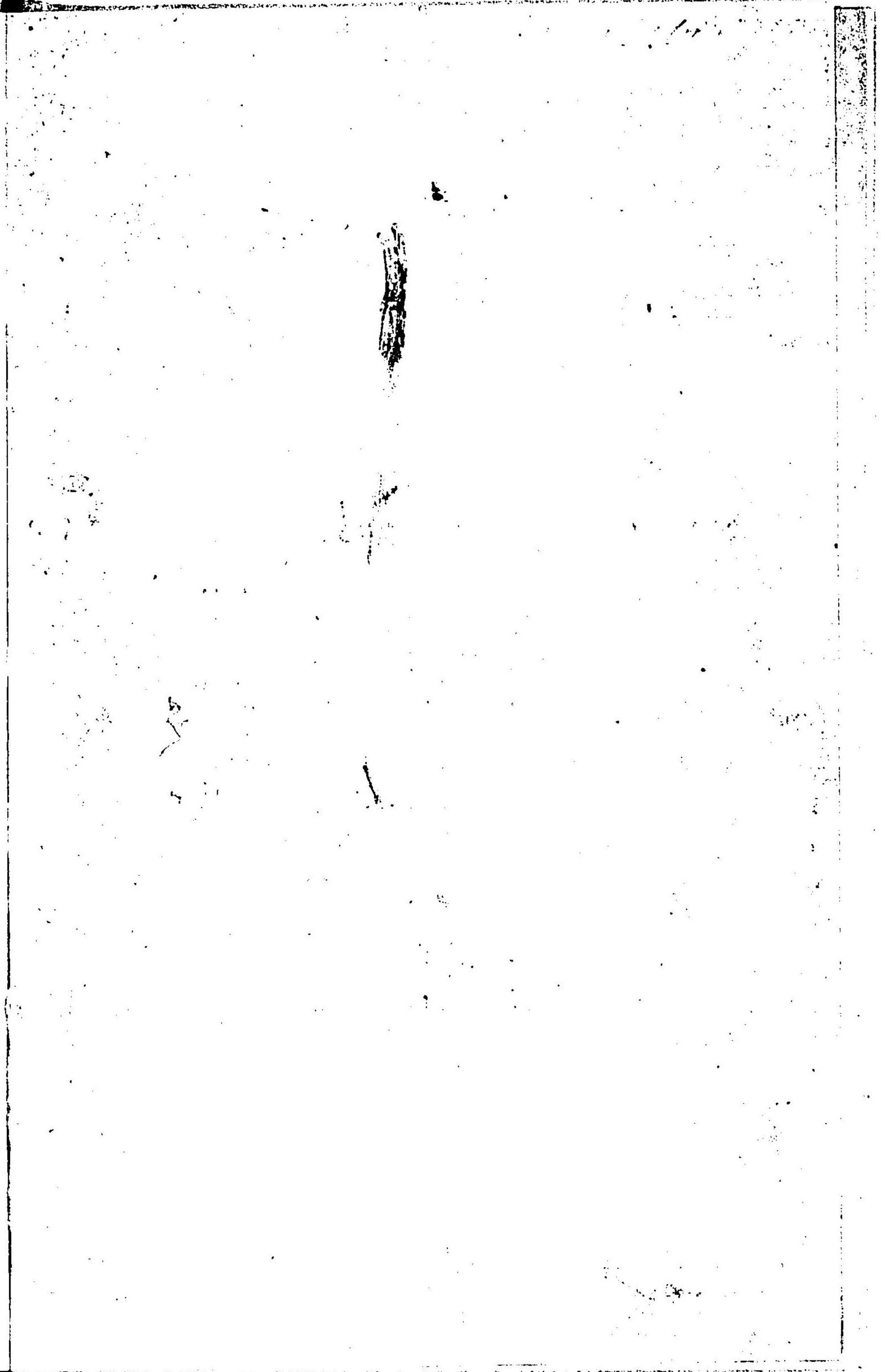
長野縣長野市西町  
四十三番地

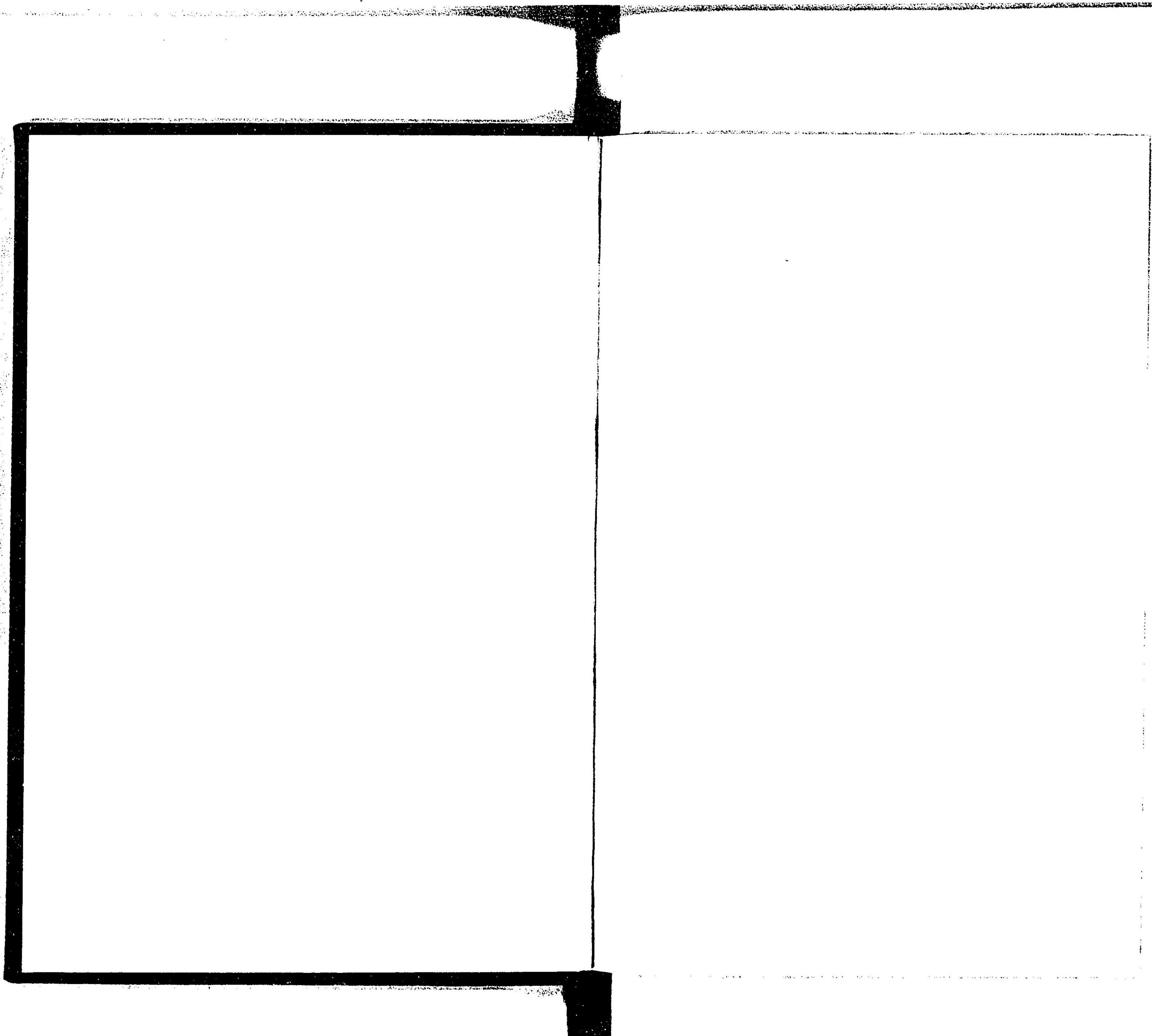
印刷所

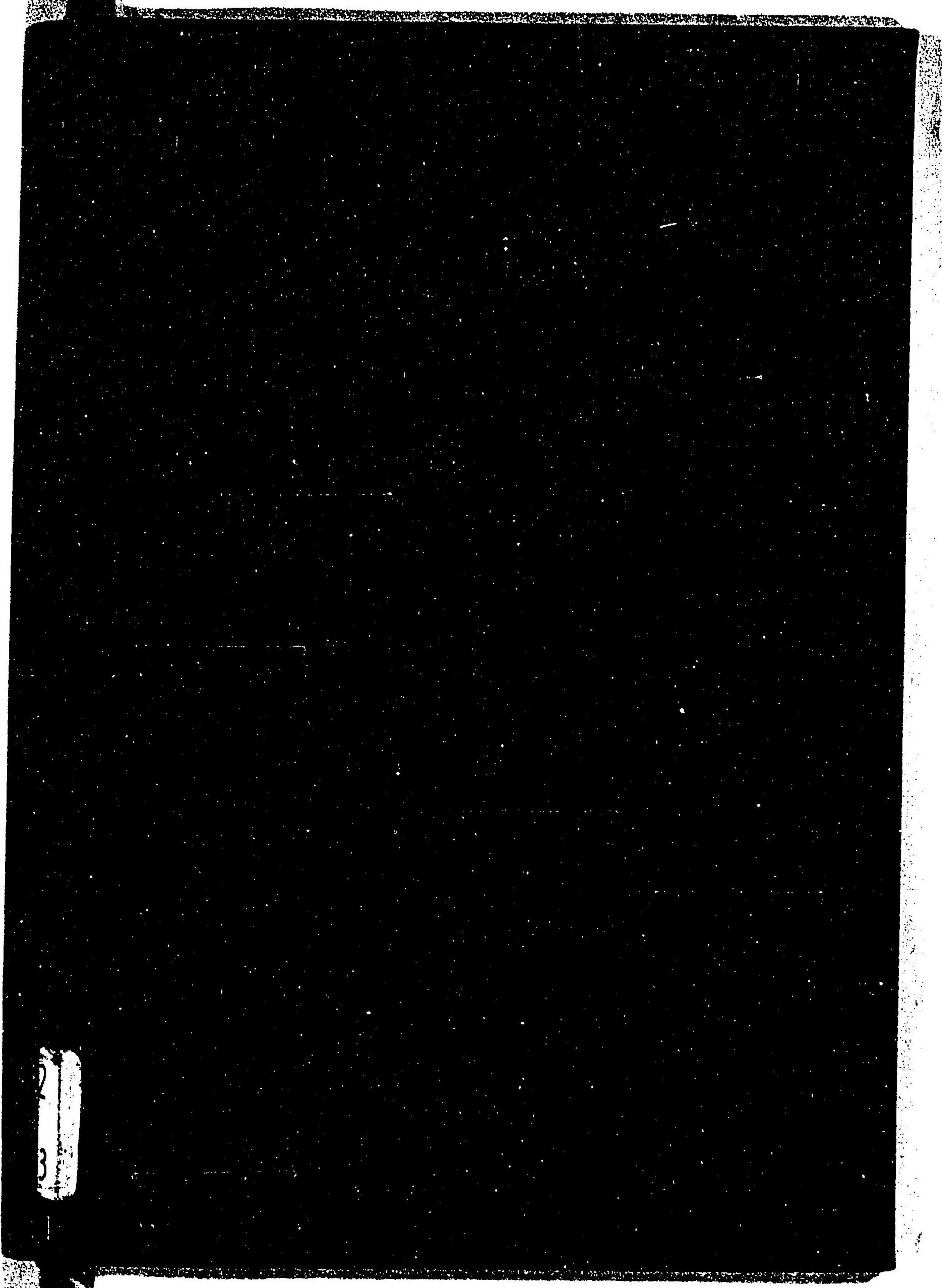
中村活版所

全縣全市全町全番地









2  
3

92  
163

026563-000-4

92-163

清国漫遊記

井上 清介/編

M35

ADD-0237





